

宇土市  
男女共同参画社会の実現に向けた  
市民意識調査  
結果報告書

【一般市民向け調査】

令和7年12月

宇土市



# 目次

第1章 調査の概要 .....	1
1. 調査の目的 .....	3
2. 調査の実施要領・回答数 .....	3
3. 調査結果利用上の注意 .....	3
第2章 調査結果の概要 .....	5
1. あなた自身や家族のことについて .....	7
2. 男女共同参画に関する意識について .....	7
3. 家庭生活について .....	8
4. 女性の働き方や社会参画について .....	9
5. ワーク・ライフ・バランスについて .....	10
6. ドメスティック・バイオレンス等について .....	11
7. 男女共同参画の視点からの防災・復興について .....	13
8. 男女共同参画の推進について .....	13
第3章 調査結果 .....	15
1. あなた自身や家族のことについて .....	17
2. 男女共同参画に関する意識について .....	20
3. 家庭生活について .....	56
4. 女性の働き方や社会参画について .....	77
5. ワーク・ライフ・バランスについて .....	87
6. ドメスティック・バイオレンス等について .....	98
7. 男女共同参画の視点からの防災・復興について .....	118
8. 男女共同参画の推進について .....	121



---

---

# 第1章 調査の概要

---

---



## 1. 調査の目的

本調査は、令和9年度を開始年度とする「第4次宇土市男女共同参画推進計画」策定に向け、市民の皆様の日常生活及び社会生活における男女共同参画の実態やご意見を集計・分析し、計画策定並びに今後の取り組みに向けた計画の基礎資料とすることを目的としています。

## 2. 調査の実施要領・回答数

調査時期	令和7年9月～10月上旬
調査対象者	宇土市内にお住いの18歳以上の方の中から、無作為に抽出した2,000名
調査方法	郵送による配布・回収及びインターネット回収
配布数	2,000件
有効回収数	1,003件 (郵送：652件) (WEB：351件)
有効回答率	50.2%

## 3. 調査結果利用上の注意

- ・各設問のnは、回答者数を表しています。
- ・回答率は百分比の小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
- ・2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、選択肢ごとの割合を合計すると100%を超える場合があります。
- ・回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、図表には「0.0」と表記しています。
- ・数表・図表は、スペースの都合上、文言等を省略している場合があります。



---

---

## 第2章 調査結果の概要

---

---



## 1. あなた自身や家族のことについて

### 回答者の性別

「男性」が40.6%、「女性」が58.0%となっており、女性の割合がやや高くなっています。

### 年齢構成

約4割が「60歳代以上」、就労や子育ての中心世代とされる「30～50歳代」が5割を占めています。

### 就労の状況

「結婚している（婚姻届けを出していない事実婚も含む）」と回答した方のうち、約7割が「共働きである」と回答しており、前回調査と比べて共働き世帯の割合が10ポイント以上高くなっていることから、就労形態の変化が見られます。

### 就労形態

「正規雇用」が41.4%と最も高く、次いで「非正規雇用（パート・アルバイト・契約社員・嘱託社員・派遣社員）」25.9%となっており、「事業主・自営層」を含めると約8割が就労していると回答しています。

### 家族構成

「二世帯世帯（親と子など）」が48.8%と最も高く、次いで「夫婦世帯」32.2%、「三世帯世帯（親と子と孫など）」8.2%となっており、親子を中心とした「二世帯世帯」での同居が主流であり、核家族化が進む一方で、「三世帯世帯」は1割程度にとどまっています。

## 2. 男女共同参画に関する意識について

### 男女の地位の平等感について

学校教育の場では「平等である」が54.3%と最も高くなっており、学校教育の分野では男女が平等であると感じている人が多いことがわかります。一方で、学校教育以外の分野では、どの分野も『男性優遇感』が『女性優遇感』を上回っており、特に「政治の場」「社会通念・習慣・しきたりなど」「社会全体」では『男性優遇感』が50ポイント以上高くなっていることから、依然この分野においては社会の仕組みや慣習により、男女の格差があると感じている人が多いことがうかがえます。

『男性優遇感』の原因については、「社会通念や慣習のしきたりなどには、男性優位のものが多い」「日本社会は仕事優先、企業中心の考え方が強く、その社会を男性が支えているという意識が強い」「男女がともに育児、介護などを担うための体制・サービスが充実していない」が上位を占めており、社会的慣習や価値観、制度等が男性中心に偏っている傾向があり、共働きや家庭での役割分担が進む一方で、制度的支援が十分に整っておらず、女性の就労継続や男性の家庭参加を阻む原因となっていることが示されています。また、女性は男性に比べて「給与等の待遇面で女性に不利な仕組みとなっている」「男女がともに育児、介護などを担うための体制・サービスが充実していない」が10ポイント以上高いことから、女性は制度面・支援面での不平等感を強く感じている傾向がうかがえます。

## 性別による社会的役割の固定化について

「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」では7割が『そう思う』と回答しており、固定的な性別役割意識が依然として根強く残っていることが明らかとなっています。それ以外の項目については『そう思わない』が『そう思う』を上回っており、固定的な性別役割に対する否定的な意識が広がっている傾向も見受けられます。特に「実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ」「学級委員長や生徒会長は男子が、副委員長や副会長は女子の方が向いている」は9割以上が『そう思わない』と回答しており、世代や教育現場における役割の固定化に対する意識が大きく変化してきていることがうかがえます。

## 3. 家庭生活について

### 日常的な暮らしの役割分担について

現状では「ごみ出し」「地域活動への参加」は「主として夫（男性パートナー）の役割」が最も高く、主に夫（男性パートナー）が担当している家庭が多くなっています。また、「家族、親族等の介護」は「特に決まっていない」が33.4%と最も高くなっていますが、「主として夫（男性パートナー）の役割」が1.3%である一方、「主として妻（女性パートナー）の役割」は19.3%となっており、大きな差がある状況となっています。「育児・しつけ」は「夫婦・パートナー同じ程度の役割」が最も高く、夫婦で分担しているという回答が最も高くなっています。それ以外は「主として妻（女性パートナー）の役割」が最も高く、「掃除」「食事の支度・後片付け」「洗濯」「日常の買い物」等の日常的な家事は主に妻（女性パートナー）が担っているという回答が5割を超えていることから、家事の負担が女性に偏っている現状が見えてきます。理想としては、「掃除」は「家族で分担」、それ以外は「夫婦・パートナー同じ程度の役割」が最も高くなっており、現状と理想に差が生じています。

### 固定的な性別役割意識について

「同感しない」が44.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば同感しない」28.4%、「どちらかといえば同感する」14.4%と、7割が『同感しない』と回答しており、固定的な性別役割意識については否定的な意識が高くなっています。性別でみると、男女ともに『同感しない』傾向が強く6割を超えていますが、男性は女性に比べて『同感する』が高く、『同感しない』が低くなっており、否定的な意識は女性の方が強い傾向が見られます。年代別では、どの年代も『同感しない』が『同感する』を上回っており、特に20歳代以下では8割以上が否定的な意識を示していることから、若年層ほど性別による役割分担に捉われない考え方を持っていることがうかがえます。

固定的な性別役割意識に『同感する』理由については、全体及び男女ともに「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」「女性が家庭を守ったほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから」「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が上位に挙げられていることから、性別に関係なく、一定の割合が昔ながらの役割分担に理解を示していることがわかります。

固定的な性別役割意識に『同感しない』理由については、全体及び男女、年代別でも「役割は、互いに話し合っ決めていくべきことだと思うから」が最も高くなっています。これは一方的に役割を決めるのではなく、話し合いによって柔軟に分担するという考え方が広く浸透していることを示しています。また、10歳代では「夫婦共働きの家族で育ったから」が2割を超えており、他の年代と比べて高くなっていることから、育った家庭環境が性別による役割意識に影響を与えていることがうかがえます。

#### 子どもの育て方に対する考え方について

6割が「男の子も女の子も個性をいかし、その子どもにあった育て方をした方がよい」と回答しており、性別にとらわれず、個々の特性に応じた育て方を大切にする考え方が広がっていることがわかります。特に30～40歳代では7割を超えており、子育て世代を中心に柔軟な育て方を重視する傾向が高まっています。一方、男性は女性に比べて「同じように育てたいが、男の子らしく、または女の子らしく成長してほしい」が高く、「男らしさ・女らしさ」といった性別に基づいたイメージを育児に反映させたい意識が高いことがうかがえます。

## 4. 女性の働き方や社会参画について

#### 女性の働き方における考え方について

全体及び性別、年代別でも「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が最も高く、育児期においても継続的な就労を望む意識が高くなっています。また、女性は男性に比べて「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が13.8ポイント高く、女性自身が出産後も働き続けることを前向きに捉えている傾向が強いことがわかります。また、30～60歳代でもその割合が6割を超えていることから、子育て経験や就労継続の現実を踏まえた世代ほど、働き続けることへの支持が高いことがうかがえます。

#### 女性の就業継続を妨げる要因について

全体及び性別でも「育児休業や介護休業などを取りにくい雰囲気がある」「育児休業や介護休業などの制度が不十分」「男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある」が上位に挙げられています。職場の雰囲気や制度にも課題があり、特に「休業を取ると迷惑だと思われる」という無言のプレッシャーが女性の働き方に大きく影響し、制度があっても使いつらい状況が女性の働き方につながっているようです。また、女性は男性に比べて「家族の同意・協力が得られない」が13.2ポイント高くなっており、女性は家庭内の理解や支援不足を感じていることがわかります。

#### 企画や方針決定の場に女性の参画が少ない理由について

「ワーク・ライフ・バランスが保てる環境が整備されていない」が40.2%と最も高く、次いで「職場や社会において、性別に基づく差別的な意識や慣行がある」36.9%、「企業経営者や団体・機関等トップの女性登用に対する意識が欠如している」33.1%となっています。また、「保育施設や学童保育、福祉施設やホームヘルパーの不足」も3割を超えており、職場環境・社会意識・家庭支援体制という3つの面で課題があることが見えてきます。単に「制度がある」だけでなく、「実際に使えるか・使いやすいか」が、女性が意思決定の場に参加できるかどうかに関わってくると考えられます。

性別で見ると、男性は「職場や社会において、性別に基づく差別的な意識や慣行がある」、女性は「ワーク・ライフ・バランスが保てる環境が整備されていない」を最も大きな要因と捉えており、性別によって捉え方に違いがあることがわかります。さらに、女性は男性に比べて「保育・福祉施設の不足」や「ワーク・ライフ・バランスの整備不足」が10ポイント以上高くなっており、女性は日常的な負担や制度の不備をより強く実感している傾向が見られます。

## 5. ワーク・ライフ・バランスについて

### 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度について

「言葉は聞いたことがあるが、内容などは知らない」が 38.6%と最も高く、次いで「言葉も内容も知っている」38.1%、「言葉も内容も知らない」21.8%となっており、言葉自体の浸透度は高いものの、内容の理解には至っておらず、表面的な認知にとどまっている可能性があります。

男性では「言葉も内容も知っている」が最も高く、男性の内容理解が進んでいますが、女性では「言葉は聞いたことがあるが、内容などは知らない」が最も高くなっており、情報の届き方や職場環境の違いが影響していると考えられます。また、年代別でみると、50歳代までは「言葉も内容も知っている」、60歳代以上では「言葉は聞いたことがあるが、内容などは知らない」が最も高くなっており、年代が上がるにつれて認知度が低下する傾向が見られます。また、「言葉も内容も知らない」は高齢層ほど高くなっており、世代間での理解度に差が生じていることがわかります。

### 男女が共に仕事と家庭の両立をするために必要な条件について

全体及び男女ともに「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」「給与等の男女間格差をなくすこと」が上位に挙げられており、3割を超えています。また、女性は男性と比べて「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が 11.9 ポイント高くなっていることから、今もなお女性が働くことに対して社会的な先入観や心理的な負担等があることがみえてきます。

生活の中での優先度については、現状及び希望ともに『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が最も高く、次いで『「家庭生活」を優先』となっています。また、3番目に高いのは、現状では『「仕事」を優先』に対し、希望では『「仕事」も「家庭生活」も「地域・個人の生活」も全て優先』となっていることから、より多面的でバランスの取れた生活を望む傾向が見られます。

### 男女がともに家事、子育て、介護地域活動等に積極的に参加するために必要なことについて

全体及び男女ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」「労働時間短縮や休暇制度、在宅勤務など多様な働き方が普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が上位を占めていることから、地域活動等への参加には家庭内のコミュニケーションが重要な要素となっており、男女ともにその重要性を強く感じていることがわかります。また、女性は男性と比べて「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が 15.0 ポイント高くなっていることから、女性は家事・育児分担が進まない背景に、男性側の意識やこれまでの慣習が影響していると考えられます。男性が家事に取り組みやすくなるよう心理的なハードルを下げることで、働き方を柔軟にして時間の余裕を持てるようにすることが家庭内の協力を進めるだけでなく、地域とのつながりを深めるためにも重要です。

## 6. ドメスティック・バイオレンス等について

### 「身体的暴力」の経験の有無について

全体及び性別、年代別でも「まったくない」が7割を超えています、女性及び40歳代では1割が『経験がある』と回答しています。

### 「精神的・心理的暴力」の経験の有無について

全体及び性別、年代別でも「まったくない」が最も高く、特に10歳代では8割を超えています。一方で、女性は男性より『経験がある』が17.1ポイント高くなっており、性別による差が大きいことがわかります。また、30歳代以上では約2～3割が『経験あり』と回答しています。40歳代及び50歳代の働き盛り世代が高くなっており、社会的なストレスの増加も要因の一つであると考えられます。

### 「経済的暴力」「性的暴力」の経験の有無について

全体及び性別、年代別でも7割以上が「まったくない」と回答しています。

暴力の経験は全体としては少数派ではあるものの、「精神的・心理的暴力」を受けた経験は比較的多く、特に女性や30歳代以上に多く見られます。

### 心や体に苦痛を感じるような行為を受けた際の相談先について

「家族・親戚」が40.5%と最も高く、次いで「友人・知人」38.8%になっており、公的機関や専門窓口よりも、信頼関係のある身近な人への相談の割合が高くなっています。また、3割は「相談しなかった」と回答しています。加えて、男性では「相談しなかった」が最も高く、女性に比べて13.2ポイント高くなっていることから、男性は「弱音を見せにくい」「我慢すべき」という社会的な価値観や、相談先の選択肢が限られていることが背景にあると考えます。

### 心や体に苦痛を感じるような行為を受けた際、相談しなかった理由について

「相談するほどのことではないと思ったから」が50.6%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」29.6%、「相談しても無駄だと思ったから」「我慢すればこのままなんとかやっていけると思ったから」25.9%となっており、被害の深刻さを自ら過小評価する傾向がうかがえます。また、男性では「自分にも悪いところがあると思ったから」と「相談するほどのことではないと思ったから」が同率で最も高くなっており、この結果からも男性は「自分が悪い」「我慢すべき」という考え方や、「弱さを見せてはいけない」という社会的なプレッシャーの影響をうけていることがうかがえます。女性は男性と比べて「相談できる人がいなかったから」「相談しても無駄だと思ったから」が高く、「自分にも悪いところがあると思ったから」が低く、10ポイント以上差が生じています。同じ「相談しない」という行動でも、男性は「自分の中に抱え込む」、女性は「相談したくてもできない」孤立感や不安感を感じやすい傾向が見られます。

### **DV問題の相談機関の認知度について**

全体及び男女ともに「宇城警察署」が55.8%と最も高く、女性は男性と比べて「熊本県女性相談センター」が17.6ポイント高くなっています。また、約3割は「知らない」と回答しています。DV相談機関として「警察署」が最も認知されている一方で、女性は専門機関への認知が高く、男性との間に情報格差が見られます。また、約3割が相談先を「知らない」と回答しており、さらなる情報発信と誰もが安心して相談できる体制づくりが求められます。

### **身近な人からセクハラをしたりされたりした経験の有無について**

いずれも7割以上が「したこともされたこともない」と回答していますが、「したことはある」「したことも、されたこともある」はいずれも1割以下となっています。また、『「男のくせに」「女のくせに」など差別的な言葉を言う』『「結婚はまだ?」「子どもはまだ?」としつこく言う』『「性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う」「無視したり、明らかに冷淡な態度を取ったりする」では1割が「されたことがある」と回答しています。

深刻なセクハラ行為の経験率は低いものの、日常的な言動による不快感の経験、特に「結婚は?」「子どもは?」などの私的な質問や性別に基づく軽視的な発言は一定数が経験しており、無意識のハラスメントが見過ごされやすい現状を表しています。

### **セクハラ行為を受けた際の相談先について**

「相談しなかった」が44.3%と最も高く、次いで「友人・知人」31.8%、「家族・親戚」19.9%となっています。性別で見ると、男性では「相談しなかった」、女性では「友人・知人」が最も高くなっています。また、男性は女性に比べて「相談しなかった」が高く、「友人・知人」「家族・親戚」低く、10ポイント以上差が生じていることから、セクハラ被害を受けても相談しない人が多く、特に男性はその傾向が強く表れており、「弱さを見せにくい」「セクハラ被害を認識しにくい」といった社会的・文化的な背景が影響している可能性があります。一方で、女性は身近な人に相談する割合が高くなっています。また、公的機関や専門窓口への相談した人が少ないことから、誰もが安心して相談できる環境づくりが課題となっています。

### **DVやセクハラ等をなくすために必要なことについて**

「DVやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備」が59.5%と最も高く、次いで「学校でのDVやセクハラを防止するための教育」46.8%、「相談体制の充実」39.5%となっています。また、女性は男性に比べて「DVやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備」が10ポイント近く高くなっており、制度強化を求めていることがうかがえます。

## 7. 男女共同参画の視点からの防災・復興について

### 防災・復興における、性別に配慮した取組について

「必要だと思う」が 50.1%と最も高く、次いで「どちらかといえば必要だと思う」28.3%と、約8割は『必要だと思う』と回答しており、性別に応じたニーズや状況への配慮が重要だという意識が高いことがわかります。特に、女性及び 40～50 歳代では『必要だと思う』が8割を超えていることから、女性は女性特有の困りごと（避難所でのプライバシー等）を経験しやすいこと、40～50 歳代の家庭・地域・職場等で多くの役割を担う世代ほど、災害時のさまざまな支援の在り方への関心が高くなっていることがうかがえます。一方、1割が「わからない」と回答しており、一部の層には性別配慮の重要性が十分に浸透していない可能性を示しています。

### 性別に配慮した取り組みに必要なものについて

全体及び男女ともに「避難所の整備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場等）」「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」「災害時の救援医療体制（妊産婦へのサポート体制）」が上位を占めており、災害時の避難所では、安心して過ごせる安全な空間づくりが大切であり、男女それぞれの視点を取り入れること、プライバシーや衛生面への配慮等が求められています。また、前回調査より「わからない」以外の項目が全体的に低下していることから、継続的な情報発信等が必要です。

## 8. 男女共同参画の推進について

### 「男女共同参画社会」の実現のために宇土市に望む施策について

全体及び男女ともに「子育て支援サービスの充実」「介護支援サービスの充実」「働きやすい就労環境の整備」が上位を占めており、家庭と仕事を両立できる環境づくりが求められていることがうかがえます。また、女性は男性と比べて「女性の就業支援」「働きやすい就労環境の整備」が 10 ポイント以上高くなっていることから、特に女性は就業支援や職場環境の整備及び改善に対する期待が高く、制度と意識の両面からのアプローチが求められています。

### 宇土市は、市民から性別に関わらず住みやすいまちとされているか

7割は『住みやすい：非常に住みやすい+まあまあ住みやすい+やや住みやすい』と回答しています。特に 10 歳代及び 70 歳代以上では8割を超えており、若年層や高齢者にとって生活環境が整っていることがうかがえます。一方、1割は「どちらともいえない」と回答していることから、今後は施策の内容をよりわかりやすく伝えることで、さらにより多くの市民に理解と共感を広げていく必要があります。



---

---

## 第3章 調査結果

---

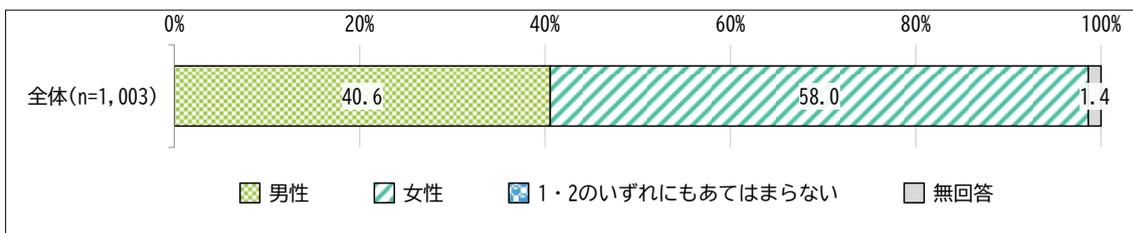
---



# 1. あなた自身や家族のことについて

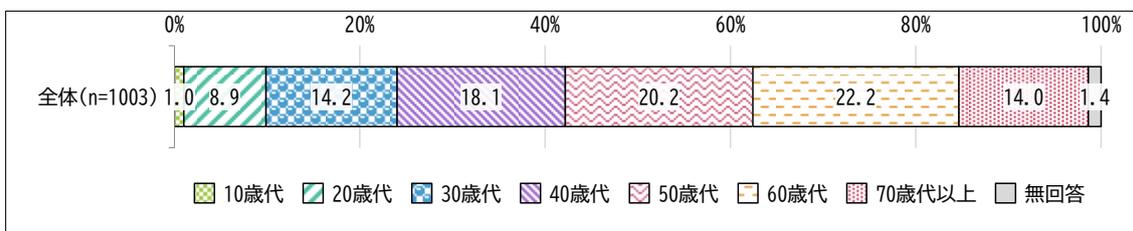
## 問1 あなたの性別は次のうちどれですか。(単数回答)

○性別では、「男性」40.6%、「女性」58.0%となっています。



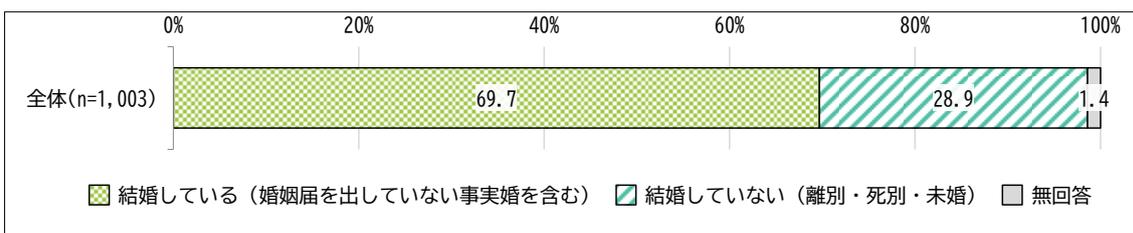
## 問2 あなたの年齢は次のうちどれですか。(単数回答)

○年齢では、「60歳代」が22.2%と最も高く、次いで「50歳代」20.2%、「40歳代」18.1%となっています。



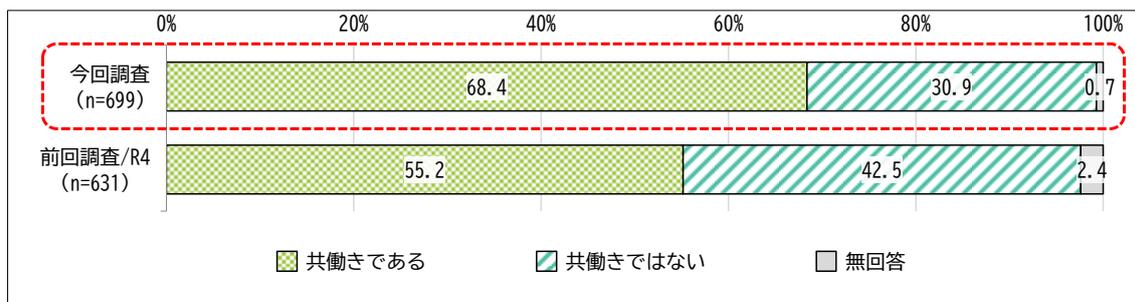
## 問3 あなたは現在結婚していますか。(単数回答)

○婚姻の状況については、「結婚している（婚姻届を出していない事実婚を含む）」が69.7%、「結婚していない（離別・死別・未婚）」が28.9%となっています。



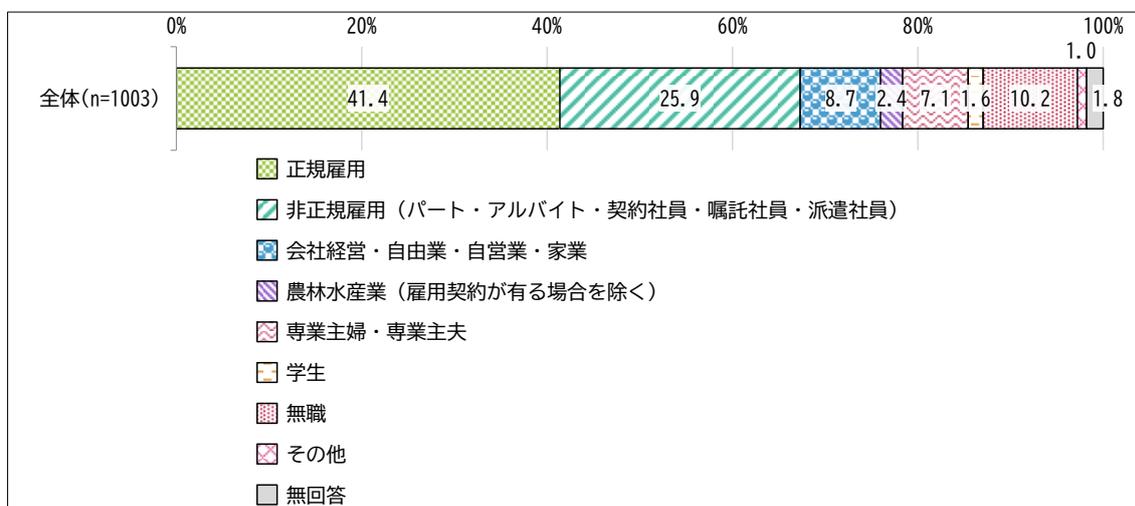
### 問3-1 あなたの家庭は共働きですか。（単数回答）

- 共働きの状況については、「共働きである」が68.4%、「共働きではない」が30.9%となっています。
- 前回調査との比較では、「共働きである」が高く、「共働きではない」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。



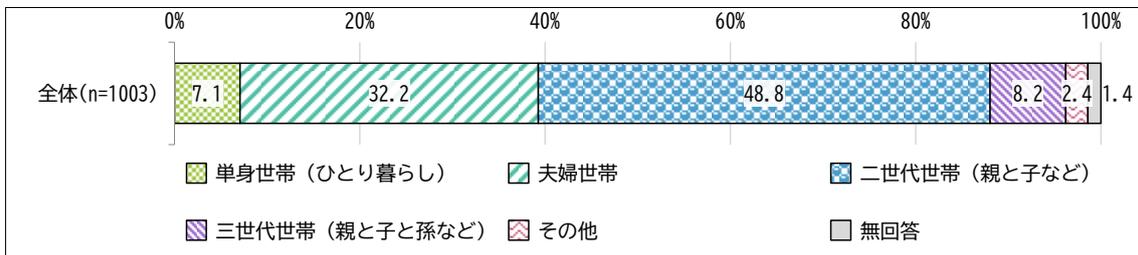
### 問4 あなたの職業や就労形態は次のどれですか。（単数回答）

- 就労形態については、「正規雇用」が41.4%と最も高く、次いで「非正規雇用（パート・アルバイト・契約社員・嘱託社員・派遣社員）」25.9%、「無職」10.2%となっています。



### 問5 あなたの現在の家族構成は、次のうちどれですか。(単数回答)

○家族構成については、「二世帯世帯（親と子など）」が 48.8%と最も高く、次いで「夫婦世帯」32.2%、「三世帯世帯（親と子と孫など）」8.2%となっています。



### 問6 あなたには、子どもがいますか。(単数回答)

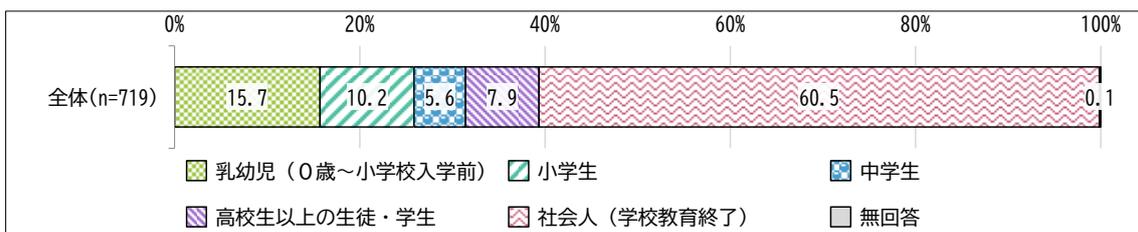
○子どもの有無については、「いる」が71.7%、「いない」が26.2%となっています。



【問6で子どもが「1. いる」と答えた方のみ】

### 問6-1 一番下の子どもの成長段階は次のうちのどの段階ですか。(単数回答)

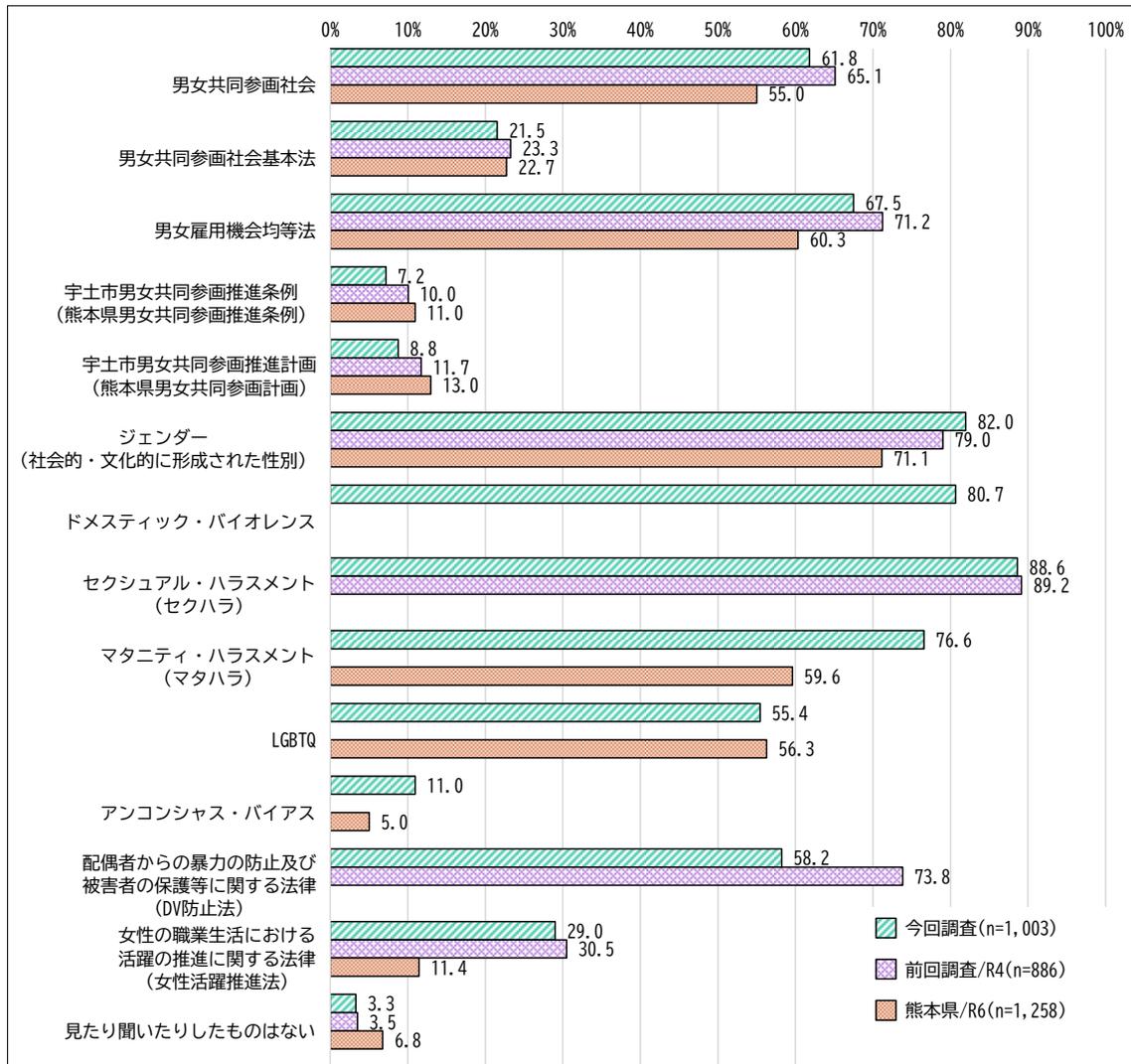
○一番下の子どもの成長段階については、「社会人（学校教育終了）」が 60.5%と最も高く、次いで「乳幼児（0歳～小学校入学前）」15.7%、「小学生」10.2%となっています。



## 2. 男女共同参画に関する意識について

問7 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことのあるものはありますか。  
(複数回答)

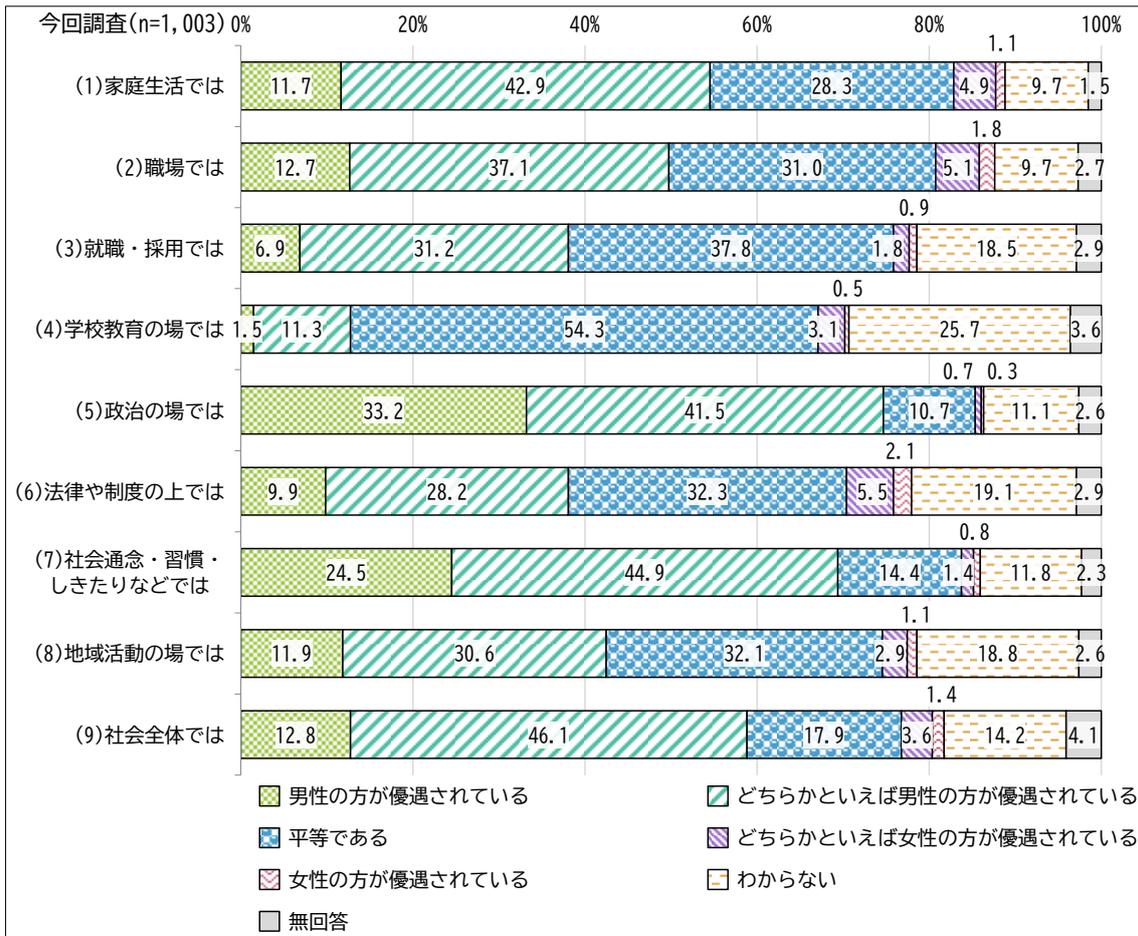
○見聞きしたことがある男女共同参画に関する法制度等を尋ねたところ、「セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）」が88.6%と最も高く、次いで「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」82.0%、「ドメスティック・バイオレンス」80.7%となっています。また、「男女共同参画社会」「男女雇用機会均等法」「マタニティ・ハラスメント（マタハラ）」も6割を超えています。



○前回調査、県調査との比較については、選択肢構成が異なることから参考程度。

**問8 あなたは、現在の日本の社会において、次に掲げる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(単数回答)**

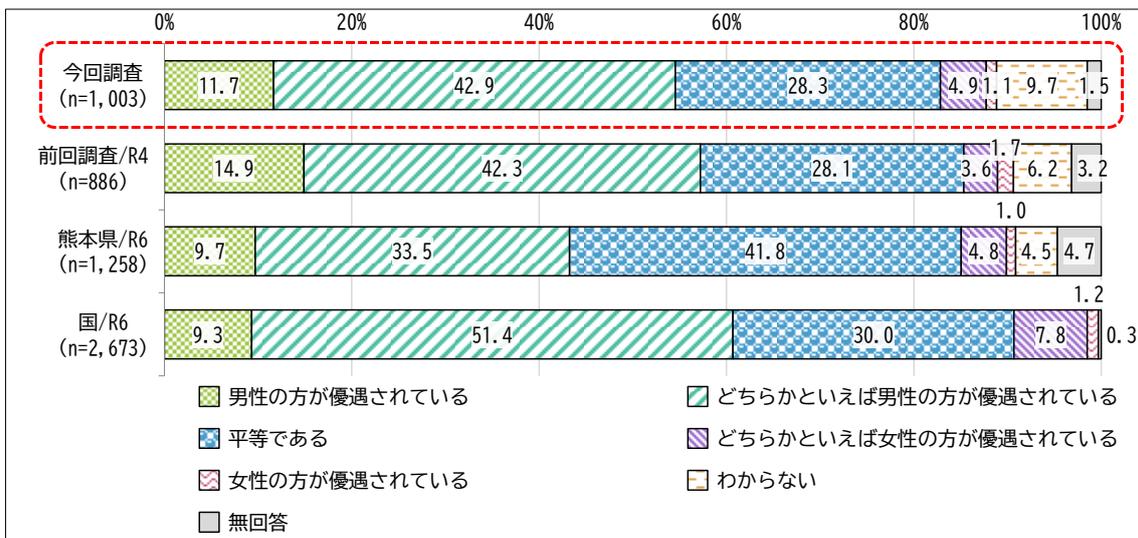
○男女の地位の平等感について、学校教育の場では「平等である」が54.3%と最も高くなっていますが、それ以外は、『男性優遇感：男性の方が優遇されている+どちらかといえば男性の方が優遇されている』が最も高くなっています。また、どの分野も『男性優遇感』が『女性優遇感：どちらかといえば女性の方が優遇されている+女性の方が優遇されている』を上回っており、特に「政治の場」「社会通念・習慣・しきたりなど」「社会全体」では50ポイント以上高くなっています。



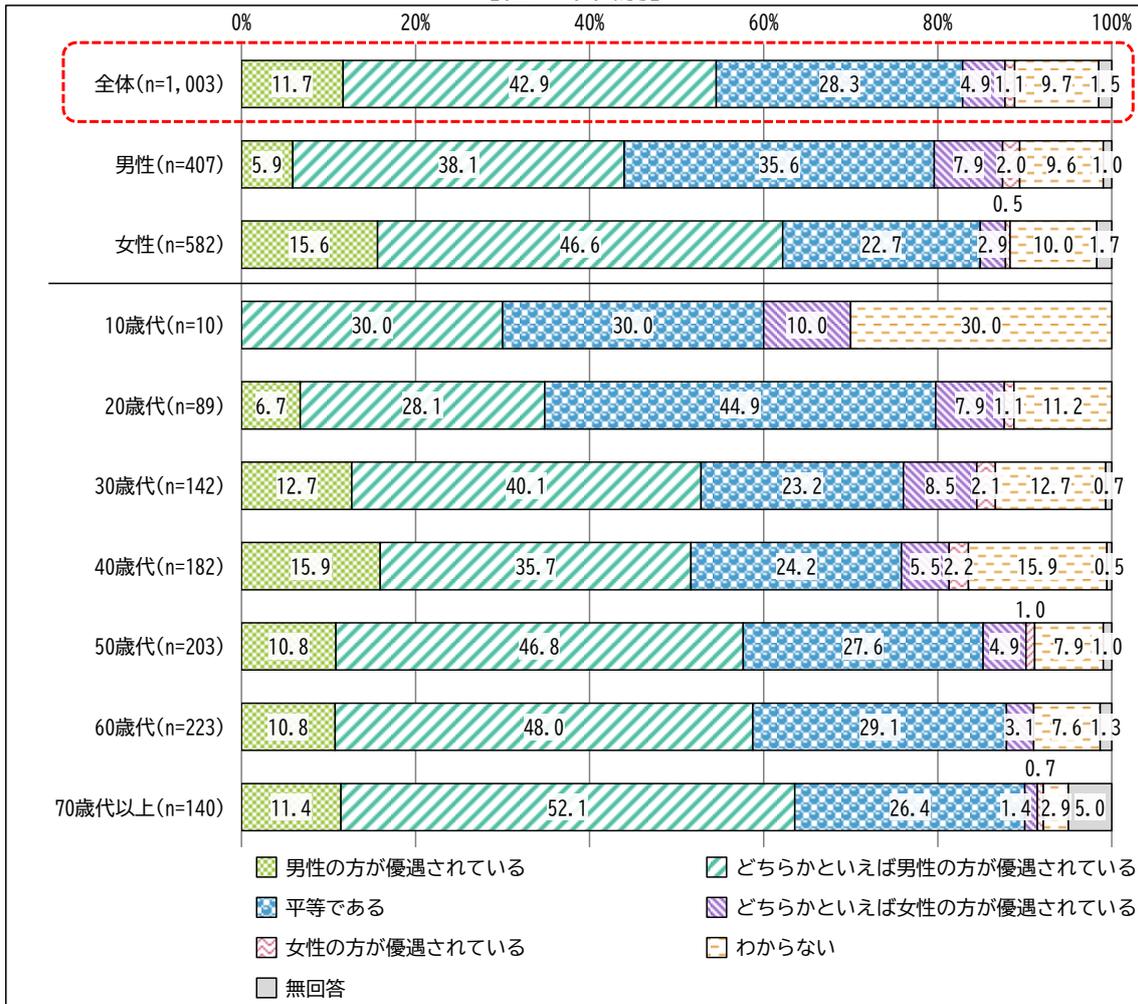
※国調査には「わからない」の選択肢がないため、参考程度（以下、同様）

## (1) 家庭生活では

- 「家庭生活」では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が42.9%と最も高く、次いで「平等である」28.3%、「男性の方が優遇されている」11.7%となっており、5割は『男性優遇感』を感じていると回答しています。
- 県との比較をみると、県より『男性優遇感』が高く、「平等である」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 性別でみると、男性は女性と比べて「平等である」が高く、『男性優遇感』が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 年代別でみると、10歳代では「わからない」、20歳代では「平等である」が他の年代と比べて10ポイント以上高くなっています。また、どの年代も『男性優遇感』が『女性優遇感』を上回っており、特に30歳代以上では5割を超えています。

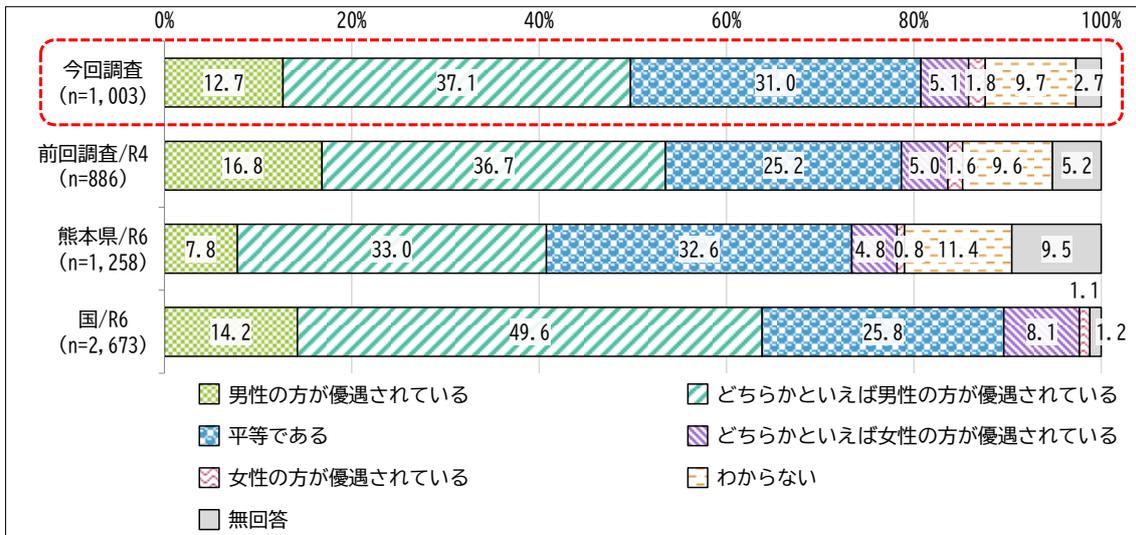


【性・年代別】

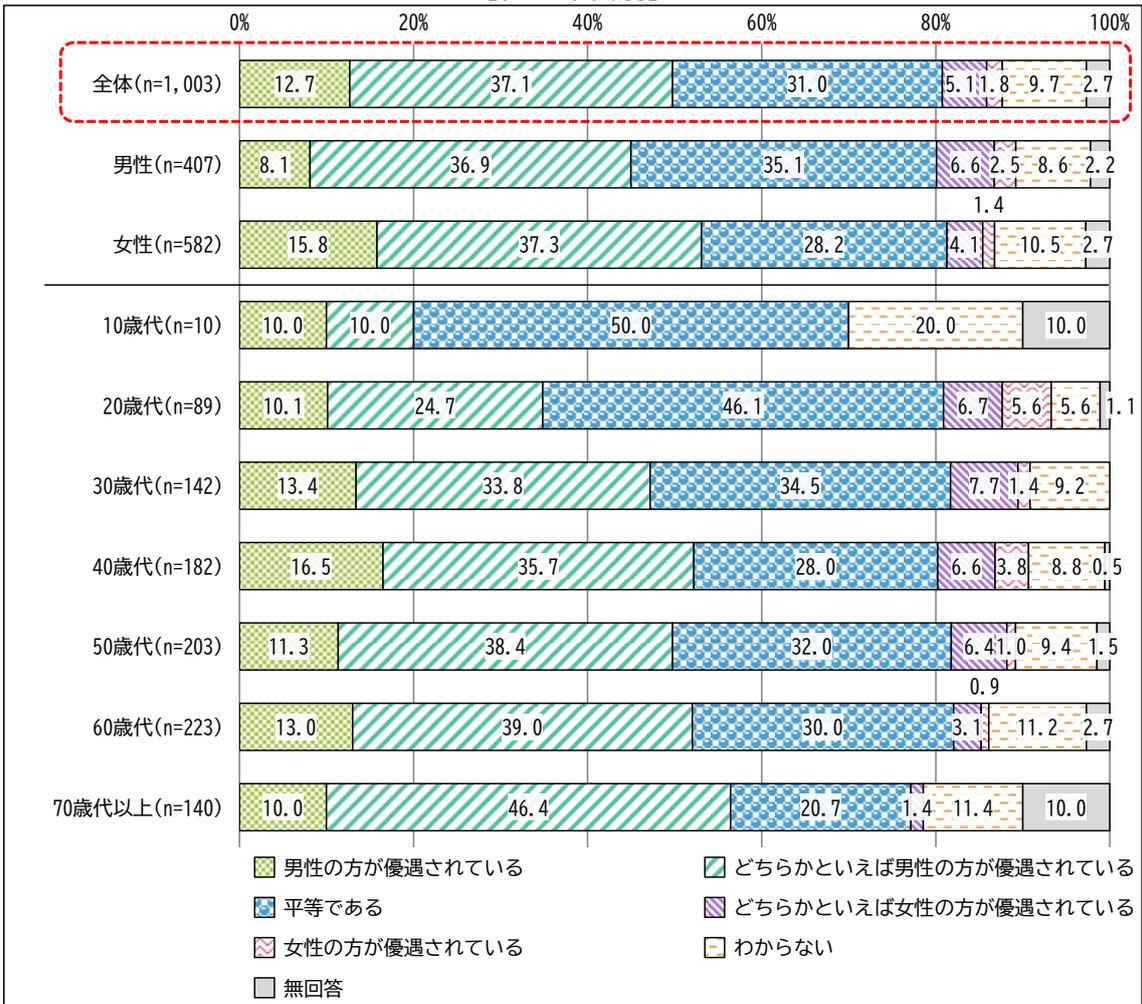


## (2) 職場では

- 「職場」では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 37.1%と最も高く、次いで「平等である」31.0%、「男性の方が優遇されている」12.7%となっており、約5割は『男性優遇感』を感じていると回答しています。
- 性別でみると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高く、『男性優遇感』が『女性優遇感』を上回っています。
- 年代別でみると、30歳代までは「平等である」が最も高くなっていますが、40歳代以上では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっており、年代が高くなるにつれその割合も高くなっています。また、どの年代も『男性優遇感』が『女性優遇感』を上回っており、特に40歳代及び60歳代以上では5割を超えています。

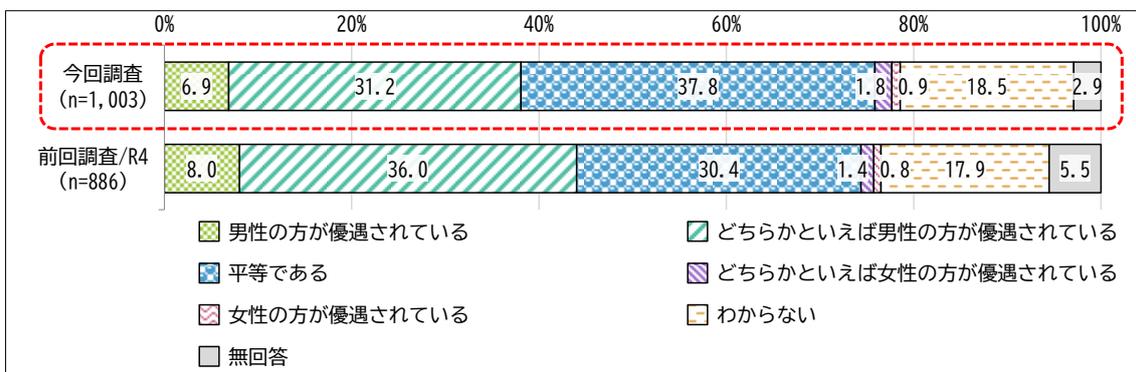


【性・年代別】

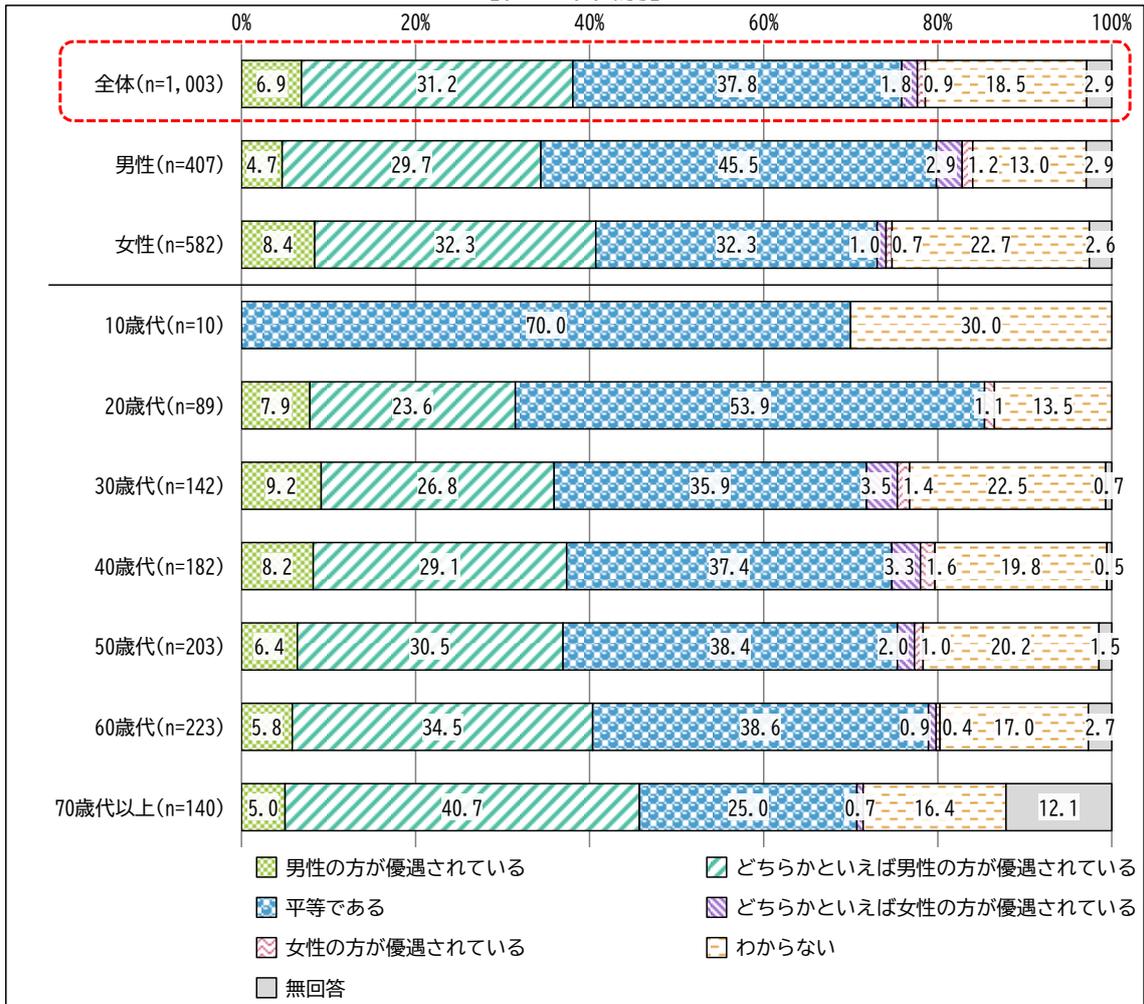


### (3) 就職・採用では

- 「就職・採用」では、「平等である」が 37.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」31.2%、「わからない」18.5%となっています。また、「平等である」が最も高いものの、約4割は『男性優遇感』を感じていると回答しています。
- 性別でみると、男性では「平等である」、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等である」が同率で最も高くなっています。また、男性は女性と比べて「平等である」が高く、「わからない」が低くなっており、10ポイント前後差が生じています。
- 年代別でみると、60歳代までは「平等である」が最も高くなっていますが、70歳代以上では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっており、年代が高くなるにつれ、その割合も高くなっています。また、20歳代以上ではどの年代も『男性優遇感』が『女性優遇感』を上回っており、特に60歳代以上では4割を超えています。

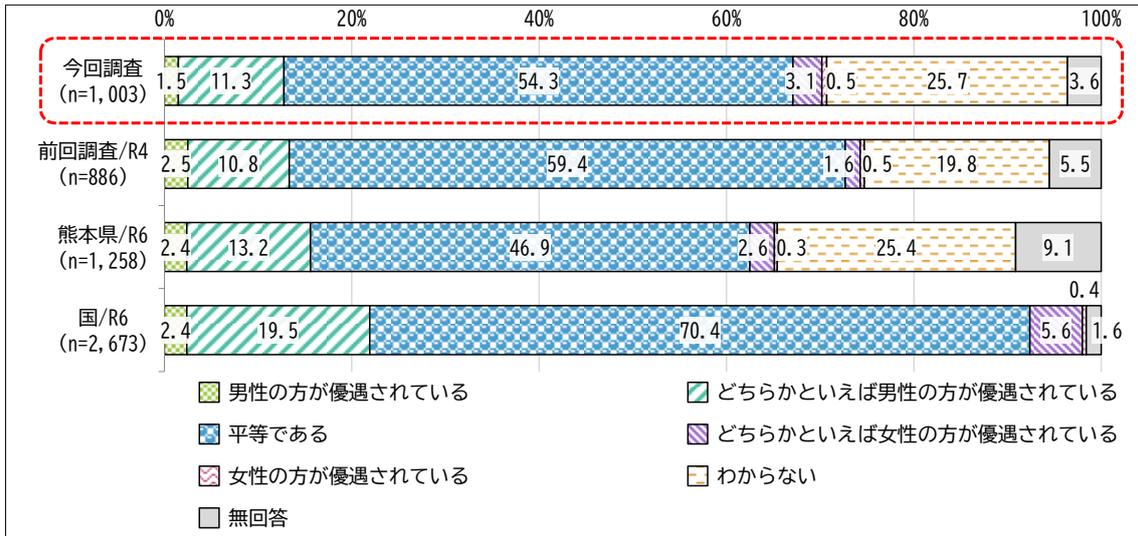


【性・年代別】

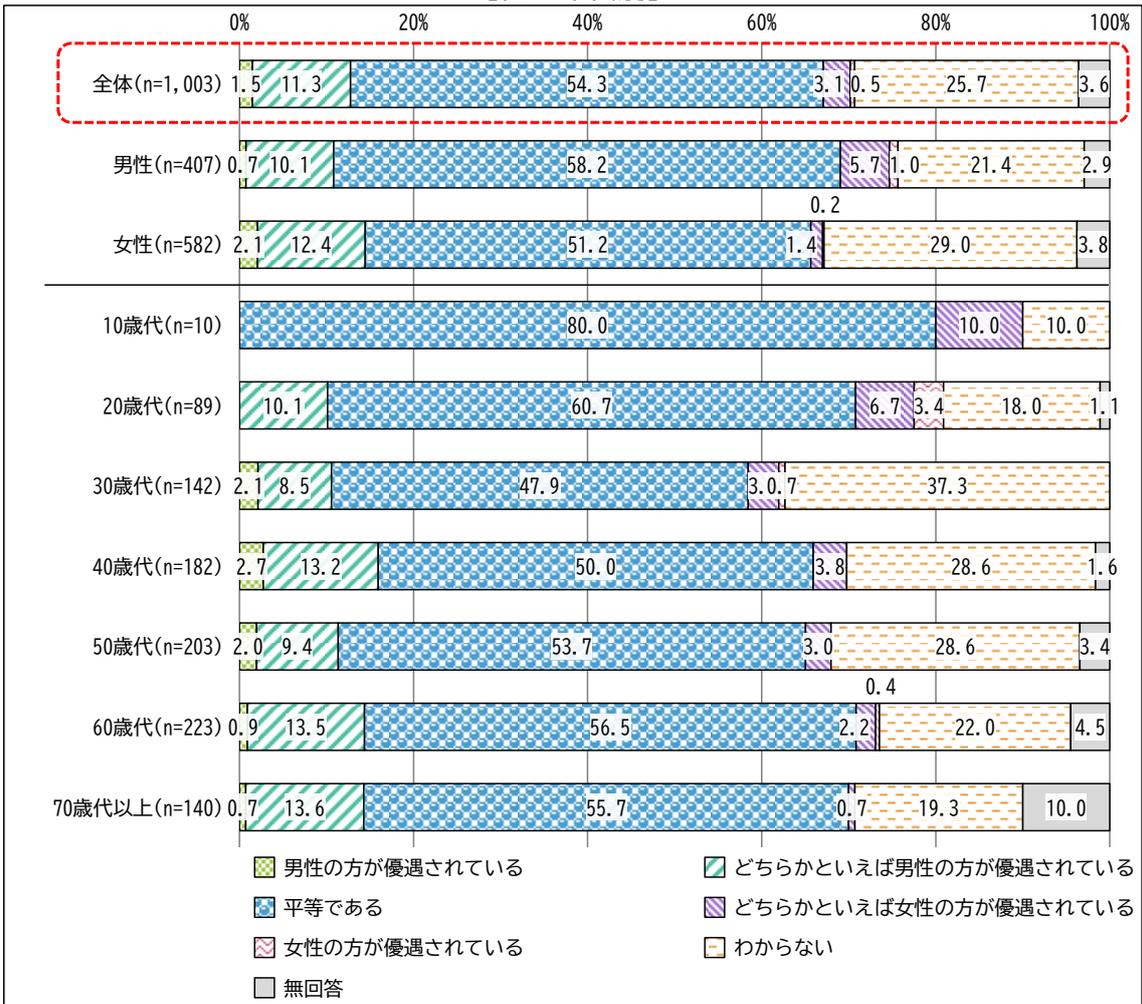


#### (4) 学校教育の場では

- 「学校教育の場」では、「平等である」が最も高く5割を超えており、次いで「わからない」25.7%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」11.3%となっています。
- 性別でみると、男女ともに「平等である」が最も高く、5割を超えています。
- 年代別でみると、どの年代も「平等である」が最も高く、特に10歳代では8割を超えています。

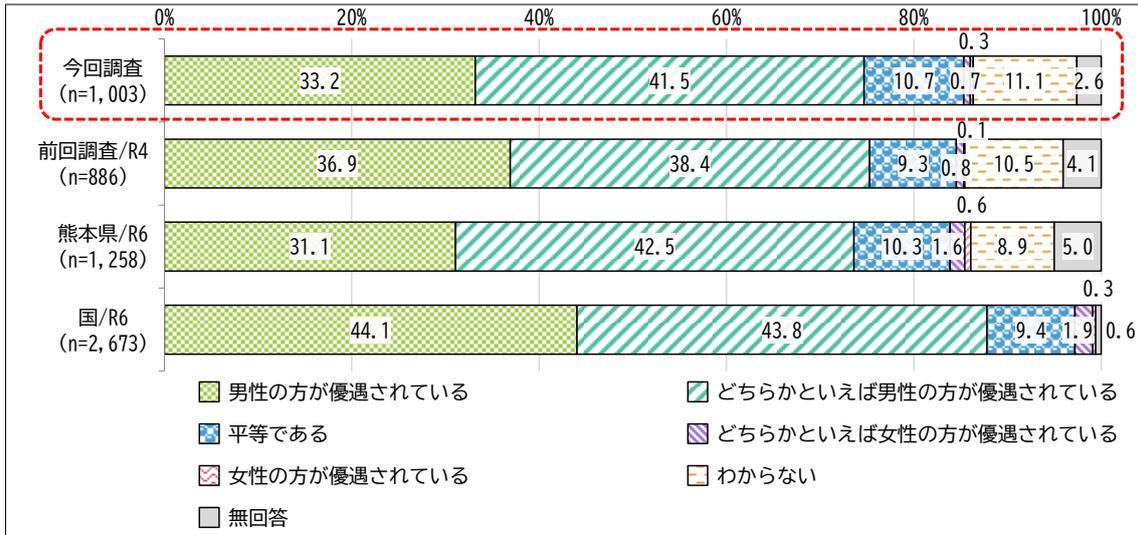


【性・年代別】

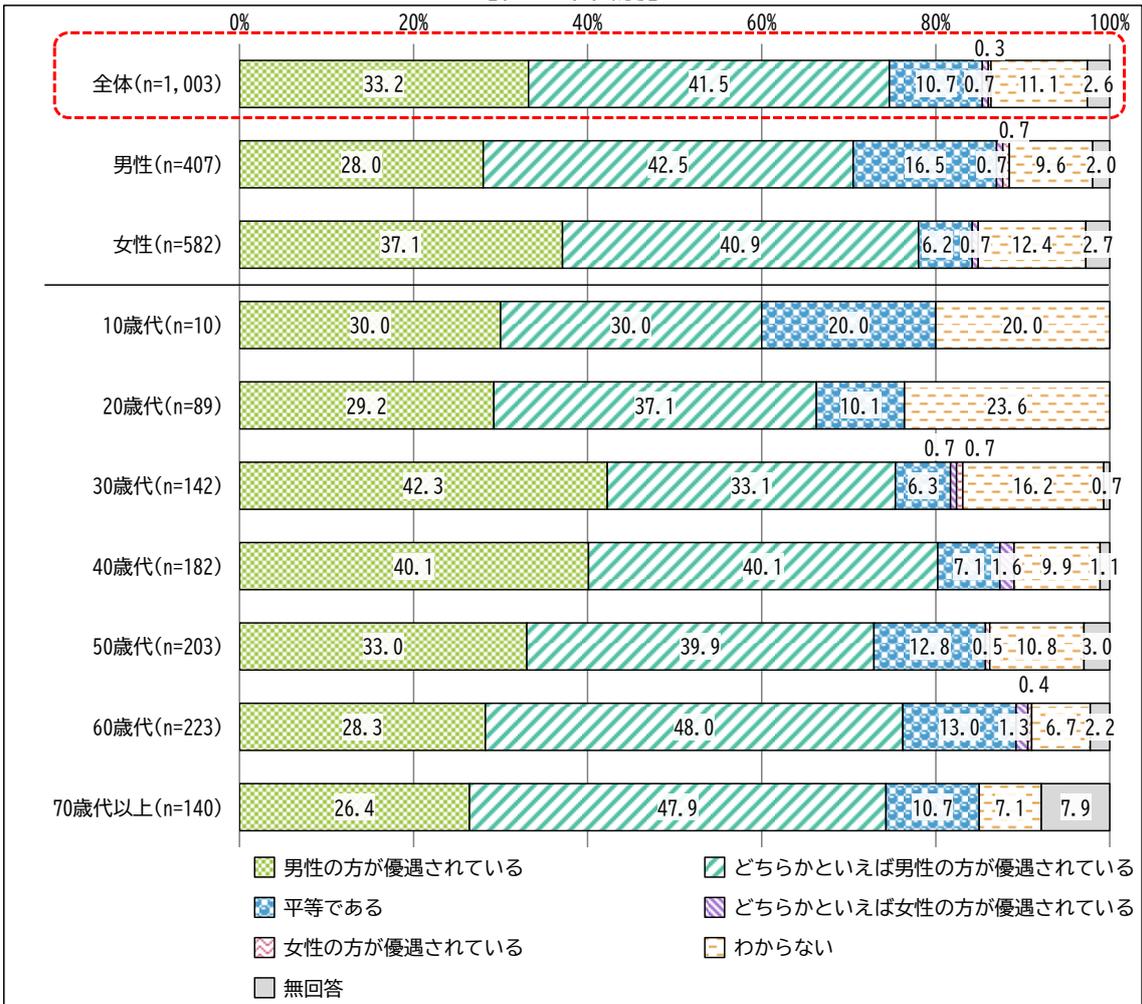


## (5) 政治の場では

- 「政治の場」では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が41.5%と最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」33.2%、「わからない」11.1%となっており、7割は『男性優遇感』を感じていると回答しています。
- 性別でみると、男女ともに7割以上が『男性優遇感』を感じていると回答していますが、男性は女性と比べて「平等である」が10.3ポイント高くなっています。
- 年代別でみると、どの年代も『男性優遇感』が『女性優遇感』を大きく上回っており、特に40歳代では8割を超えています。

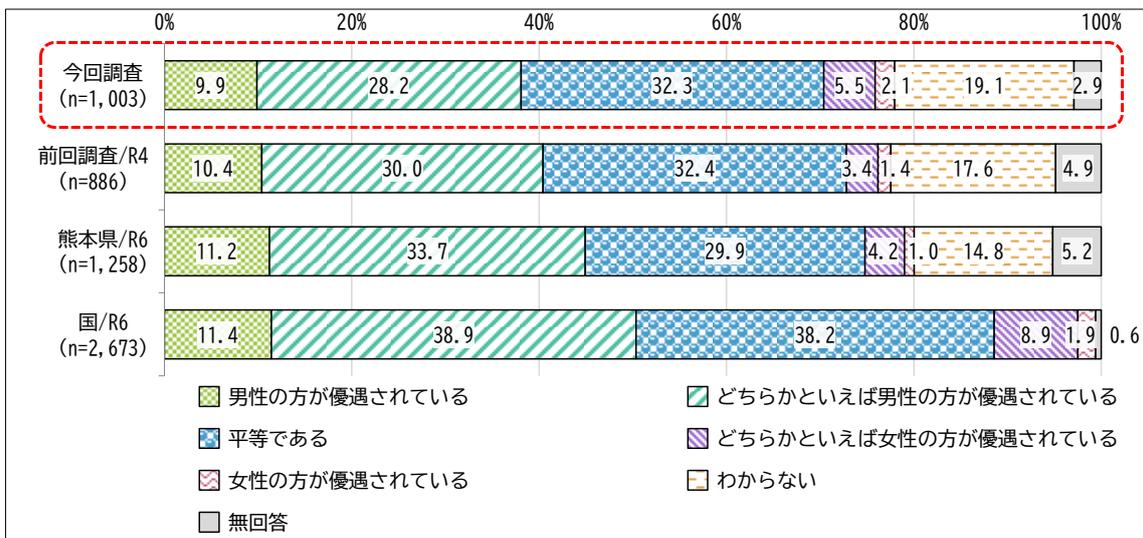


【性・年代別】

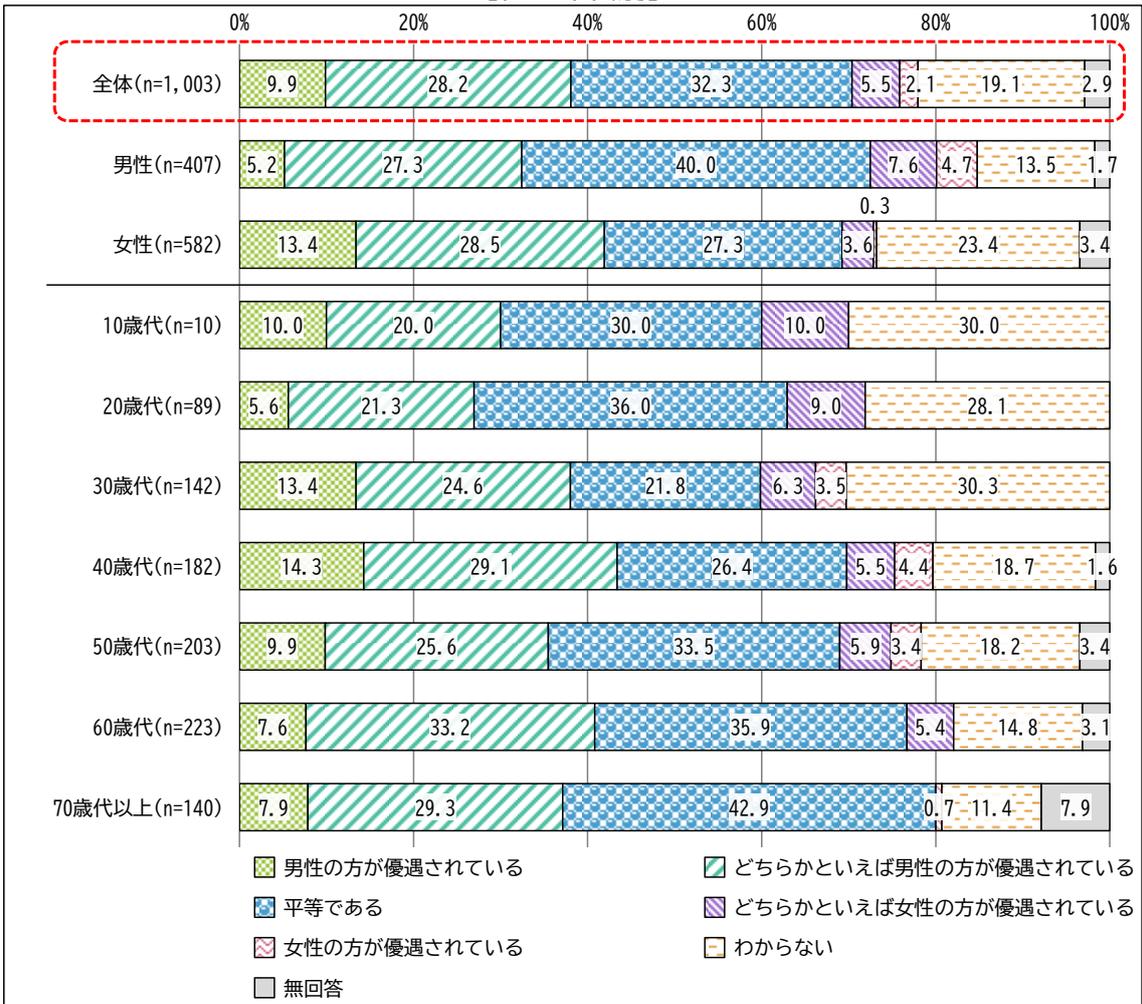


## (6) 法律や制度の上では

- 「法律や制度の上」では、「平等である」が 32.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」28.2%、「わからない」19.1%となっています。また、「平等である」が最も高いものの、約4割は『男性優遇感』を感じていると回答しています。
- 性別で見ると、男性では「平等である」、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。また、男性は女性と比べて「平等である」が高く、「わからない」が低くなっており、10ポイント前後差が生じています。
- 年代別で見ると、10歳代では「平等である」「わからない」が同率で最も高く、30歳代では「わからない」、40歳代では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、それ以外の年代では「平等である」が最も高くなっています。

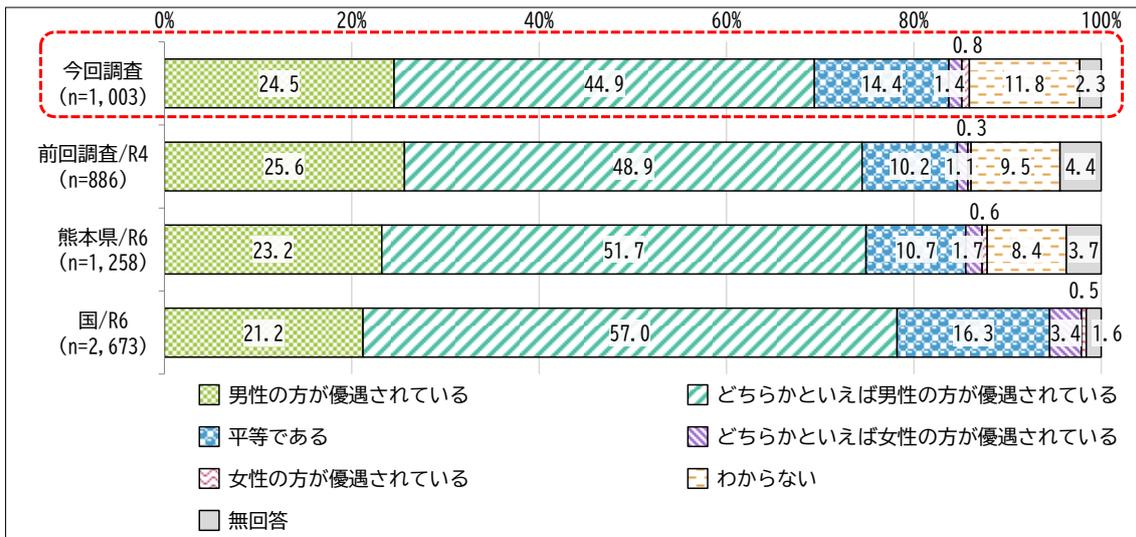


【性・年代別】

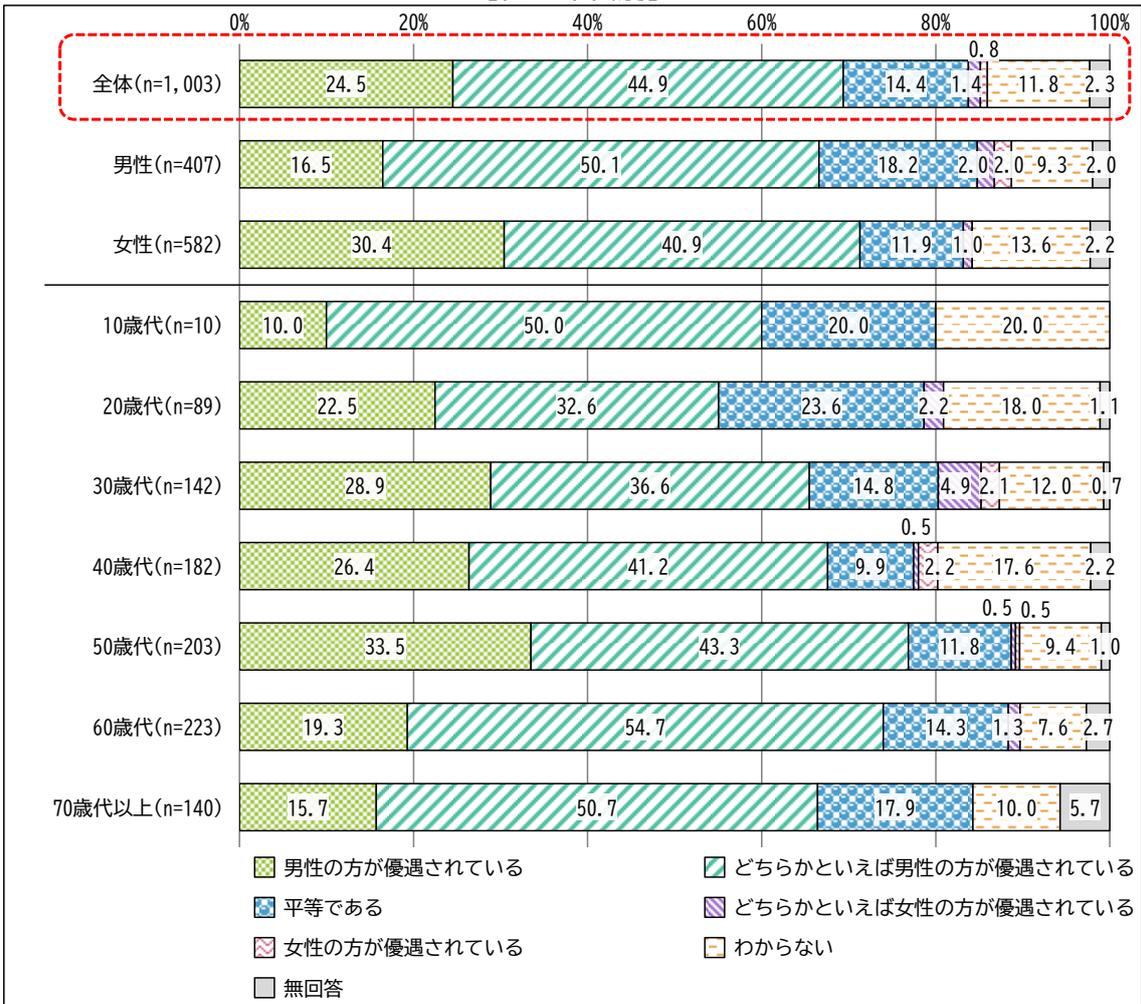


## (7) 社会通念・慣習・しきたりなどでは

- 「社会通念・慣習・しきたりなど」では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が44.9%と最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」24.5%、「平等である」14.4%となっており、約7割は『男性優遇感』を感じていると回答しています。
- 性別でみると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高く、6割以上が『男性優遇感』を感じていると回答しています。また、女性は男性と比べて「男性の方が優遇されている」が13.9ポイント高くなっています。
- 年代別でみると、どの年代も『男性優遇感』が『女性優遇感』を上回っており、特に50～60歳代では7割を超えています。

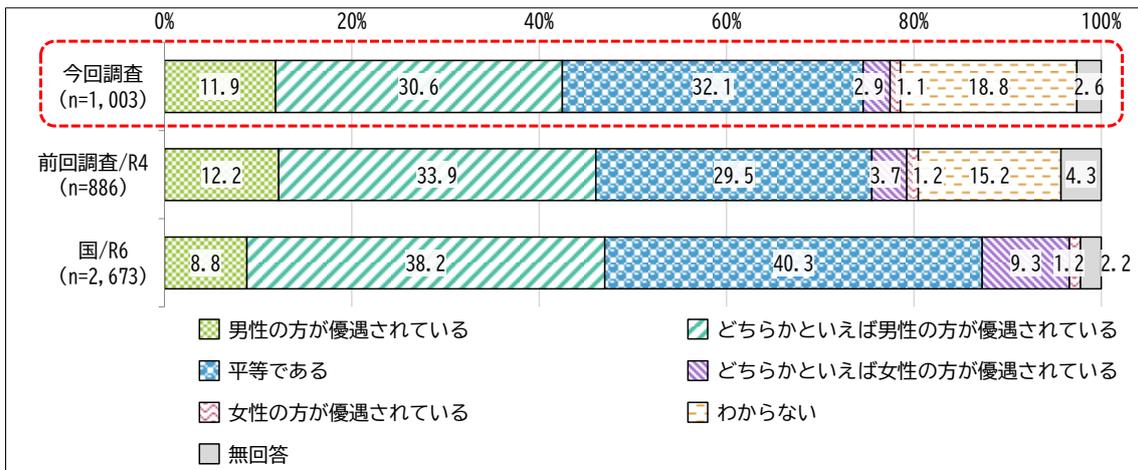


【性・年代別】

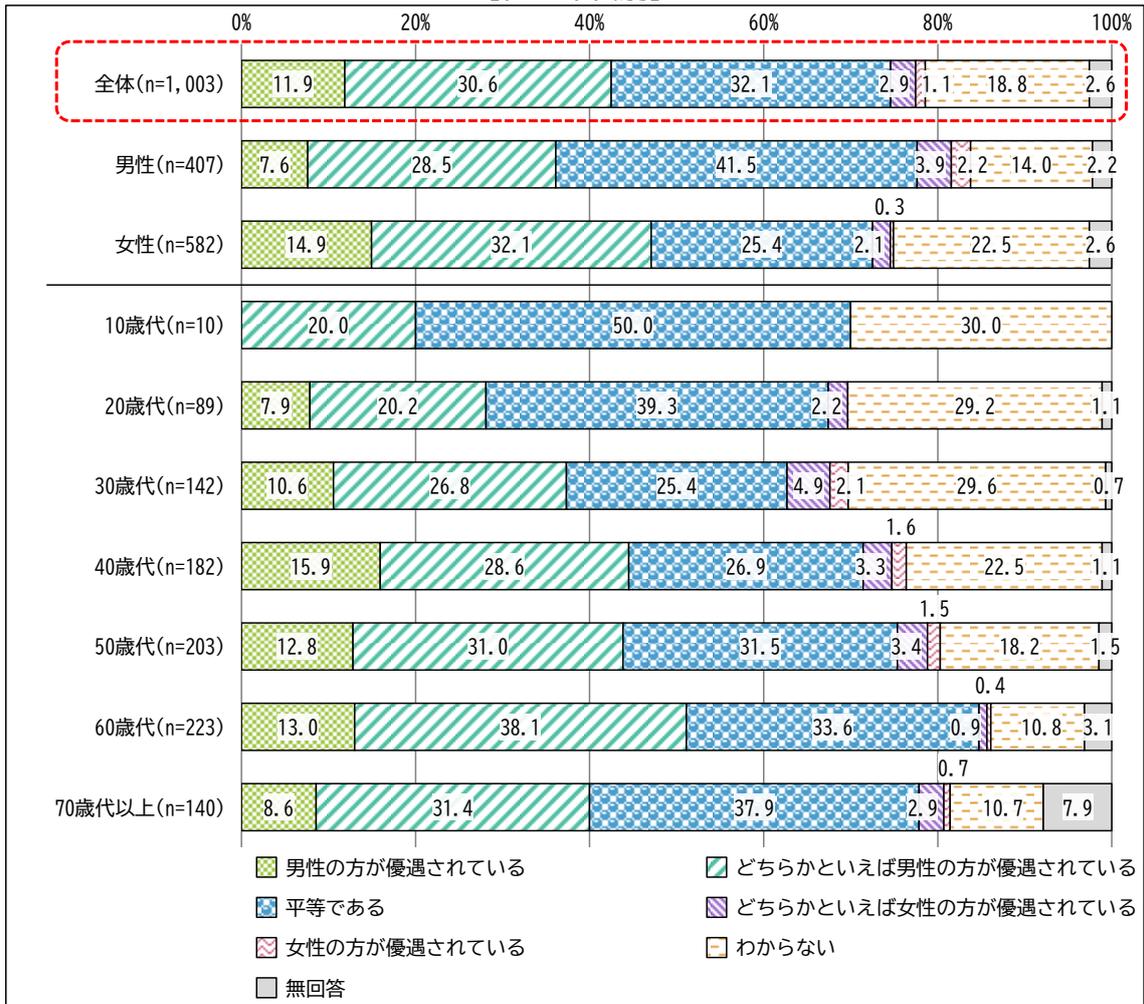


## (8) 地域活動の場では

- 「地域活動の場」では、「平等である」が 32.1%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」30.6%、「わからない」18.8%となっています。また、「平等である」が最も高いものの、約4割は『男性優遇感』を感じていると回答しています。
- 性別で見ると、男性では「平等である」、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。また、男性は女性と比べて「平等である」が 16.1ポイント高くなっています。
- 年代別で見ると、30歳代では「わからない」、40歳代及び60歳代では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、それ以外の年代では「平等である」が最も高くなっています。また、60歳代では『男性優遇感』が5割を超えています。

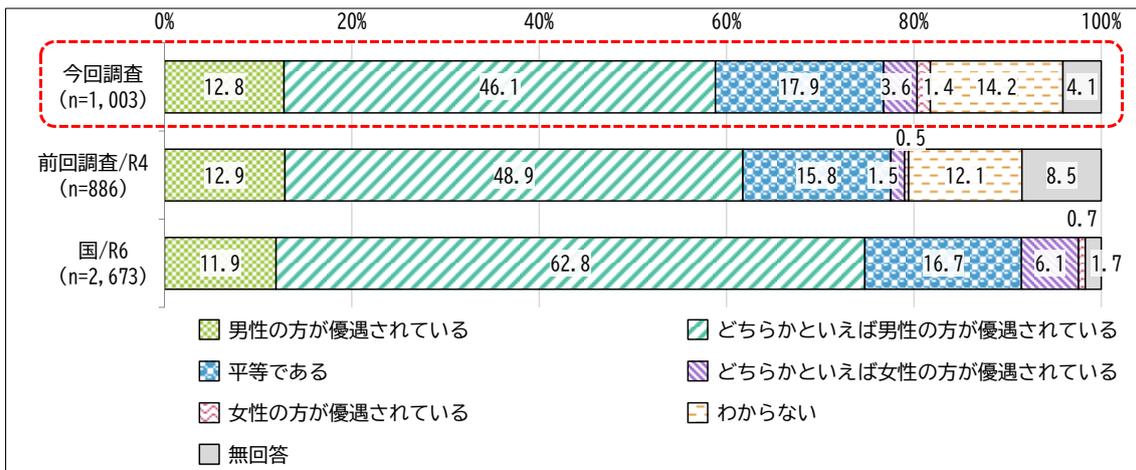


【性・年代別】

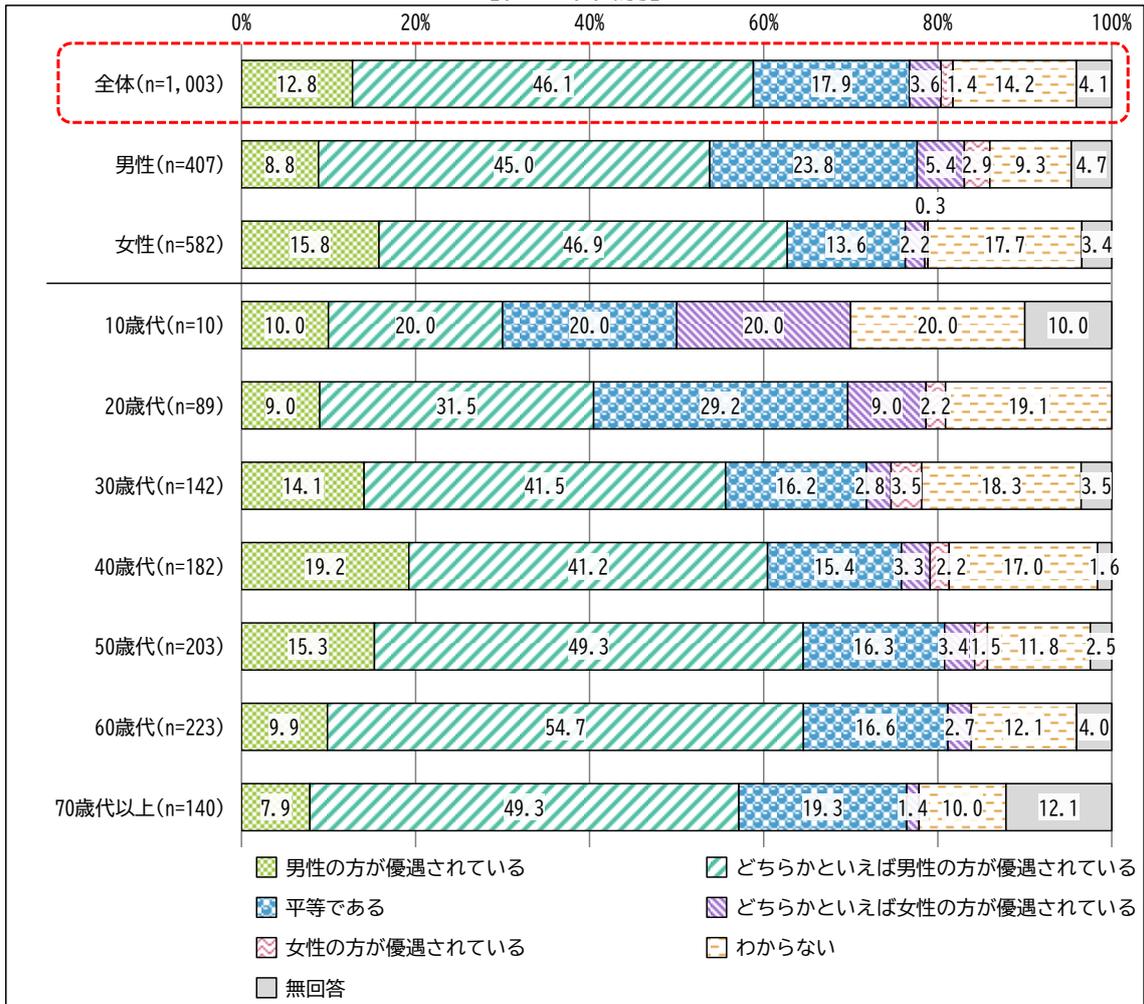


## (9) 社会全体では

- 「社会全体」では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が46.1%と最も高く、次いで「平等である」17.9%、「わからない」14.2%となっています。また、『男性優遇感』58.9%、『女性優遇感』5.0%と約6割は『男性優遇感』を感じており、『女性優遇感』を感じる割合は1割を切っています。
- 性別でみると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高く、5割以上が『男性優遇感』を感じていると回答しています。また、男性は女性と比べて「平等である」が10.2ポイント高くなっています。
- 年代別でみると、どの年代も『男性優遇感』が『女性優遇感』を上回っており、特に40～60歳代では6割を超えています。



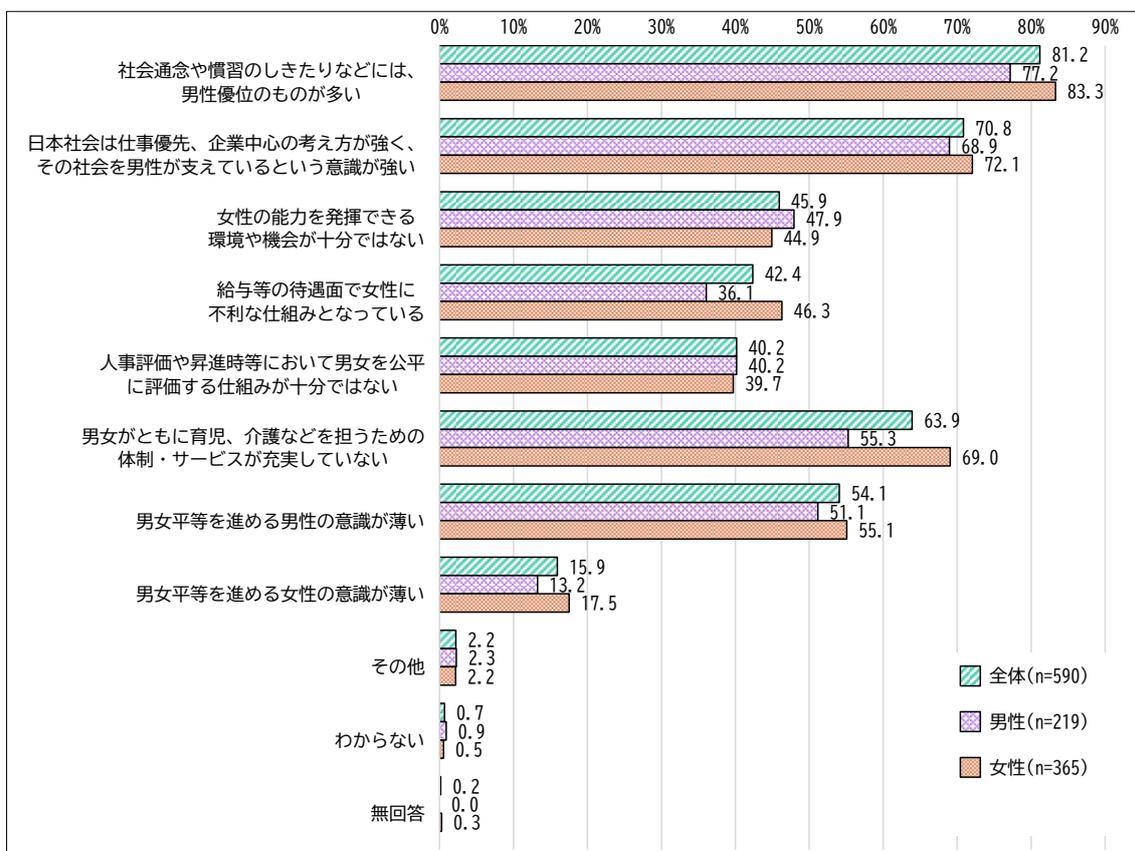
【性・年代別】



【問8の「(9) 社会全体では」で「1. 男性の方が優遇されている」又は「2. どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた方のみ】

### 問8-1 その原因は特に何だと思いませんか。(複数回答)

- 『男性優遇感』の原因については、「社会通念や慣習のしきたりなどには、男性優位のものが多い」が81.2%と最も高く、次いで「日本社会は仕事優先、企業中心の考え方が強く、その社会を男性が支えているという意識が強い」70.8%、「男女がともに育児、介護などを担うための体制・サービスが充実していない」63.9%となっています。
- 性別で見ると、女性は男性に比べて「給与等の待遇面で女性に不利な仕組みとなっている」「男女がともに育児、介護などを担うための体制・サービスが充実していない」が10ポイント以上高くなっています。

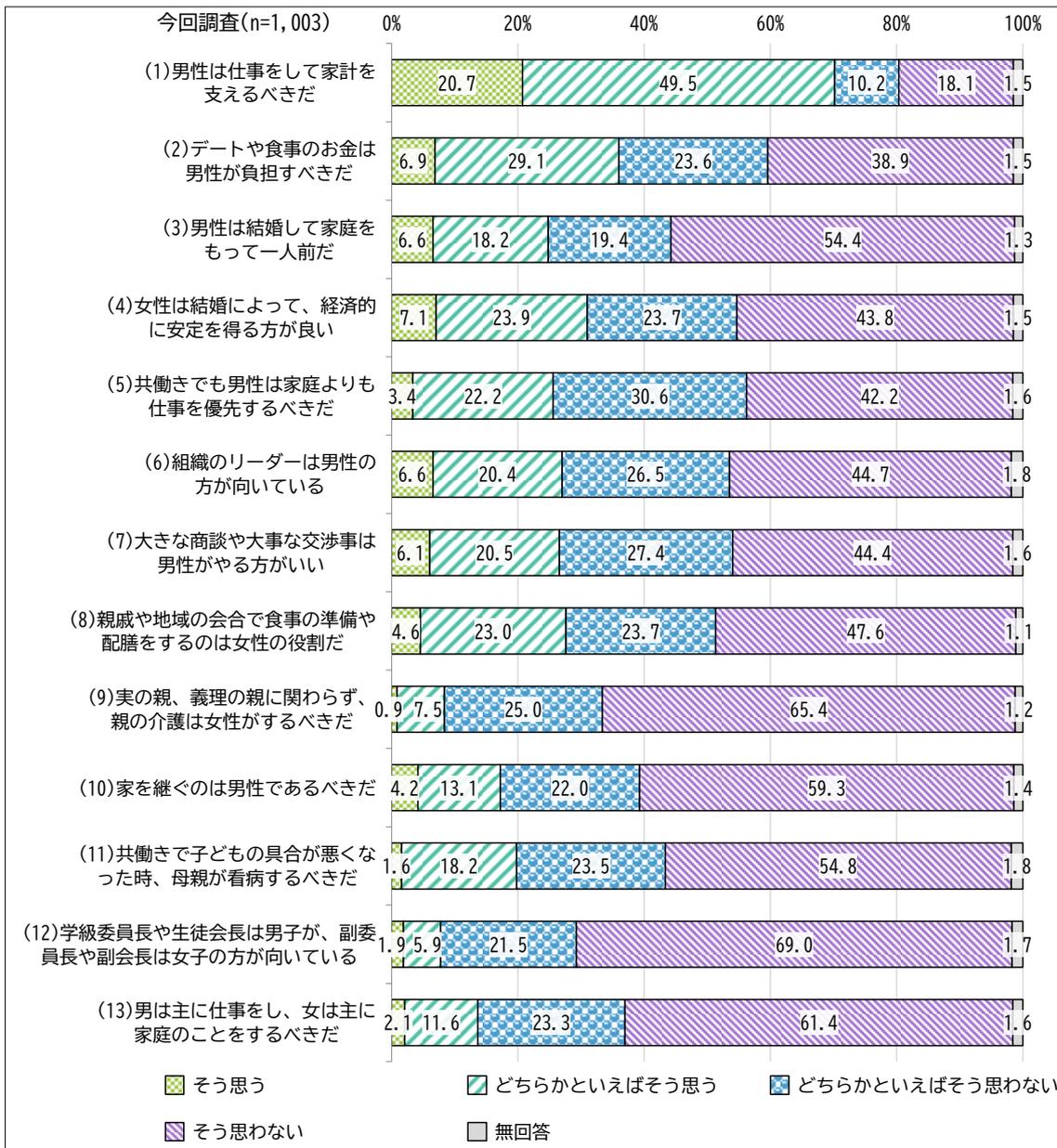


■問8-1 「その他」の具体的な意見

年齢	性別	その他
20 歳代	男性	脳のつくりが違うこと
30 歳代	男性	女性が優遇され、男性の社会的立場が弱くなっている 法整備が追いついていない
	女性	どちらも同じ環境にしてあげることが平等なのではなく、女性は子どもや家事をする前提で働くことができたり、男子は仕事にやりがいを持てる環境を作ることが（それぞれの事情に合わせて）平等だと思います。
40 歳代	女性	男性の方が偉いという無意識の概念をもつ中高年が多い。
		男性と女性の考え方の違い。 世代感の感覚のズレもあると思う。
50 歳代	女性	まだまだ古い考え方の年配者が多い。
60 歳代	男性	性別による心身の違い。
	女性	女性上司は女性に厳しく、若い男性に優しい。女性優位でも女性部下は働きにくい。 やはり子どもを育てる責任は母で有り、夫は稼いで貰わないと家計は大変です。
70 歳代以上	女性	年代が上の方達の考えが、まだ男性優位が多いと思う。

問9 あなたは下記の「1」～「13」の考え方について、どのように思いますか。  
(単数回答)

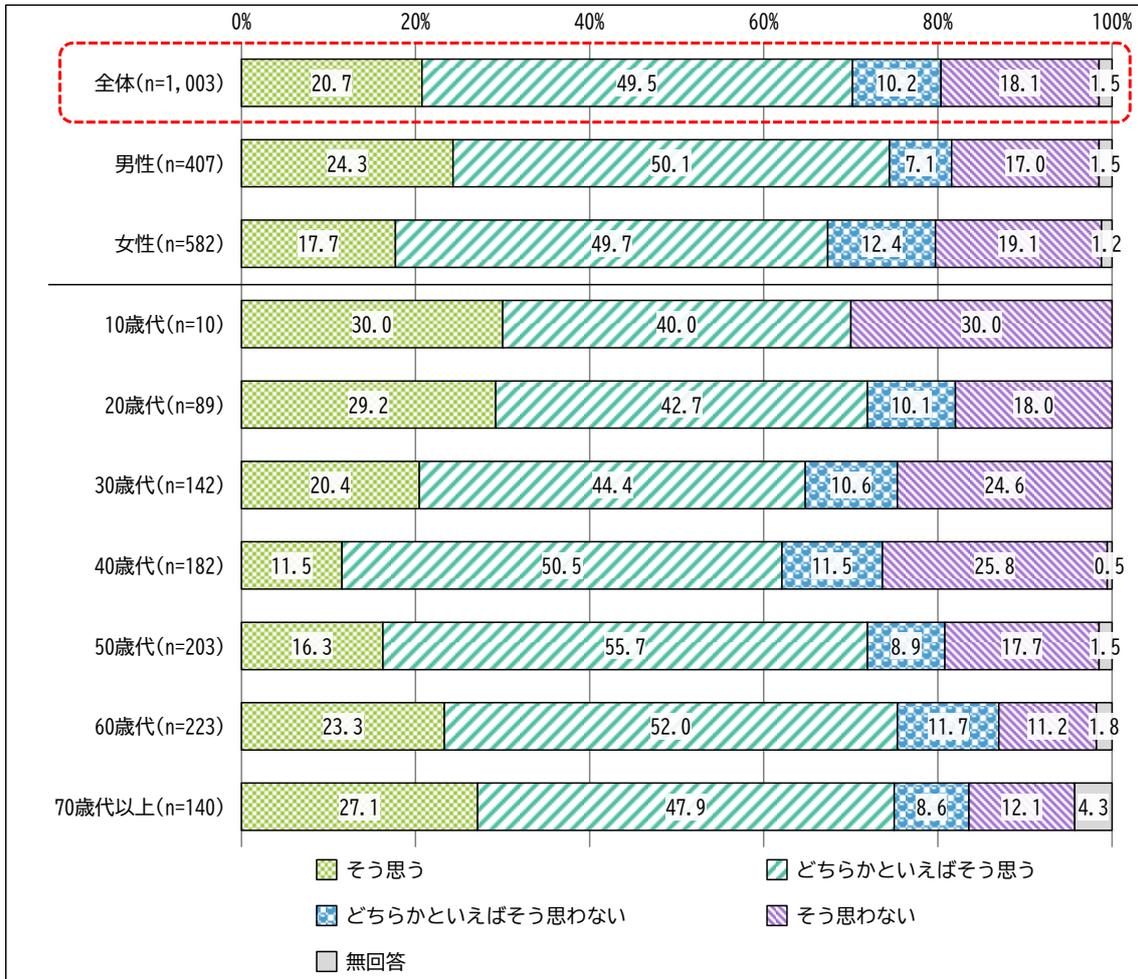
○性別による社会的役割の固定化について、『そう思う：そう思う+どちらかといえばそう思う』が最も高いのは「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」70.2%、次いで「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」36.0%、「女性は結婚によって、経済的に安定を得る方が良い」31.0%となっています。また、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」以外はいずれも『そう思わない：どちらかといえばそう思わない+そう思わない』が『そう思う』を上回っており、特に「実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ」「学級委員長や生徒会長は男子が、副委員長や副会長は女子の方が向いている」は9割を超えています。



## (1) 男性は仕事をして家計を支えるべきだ

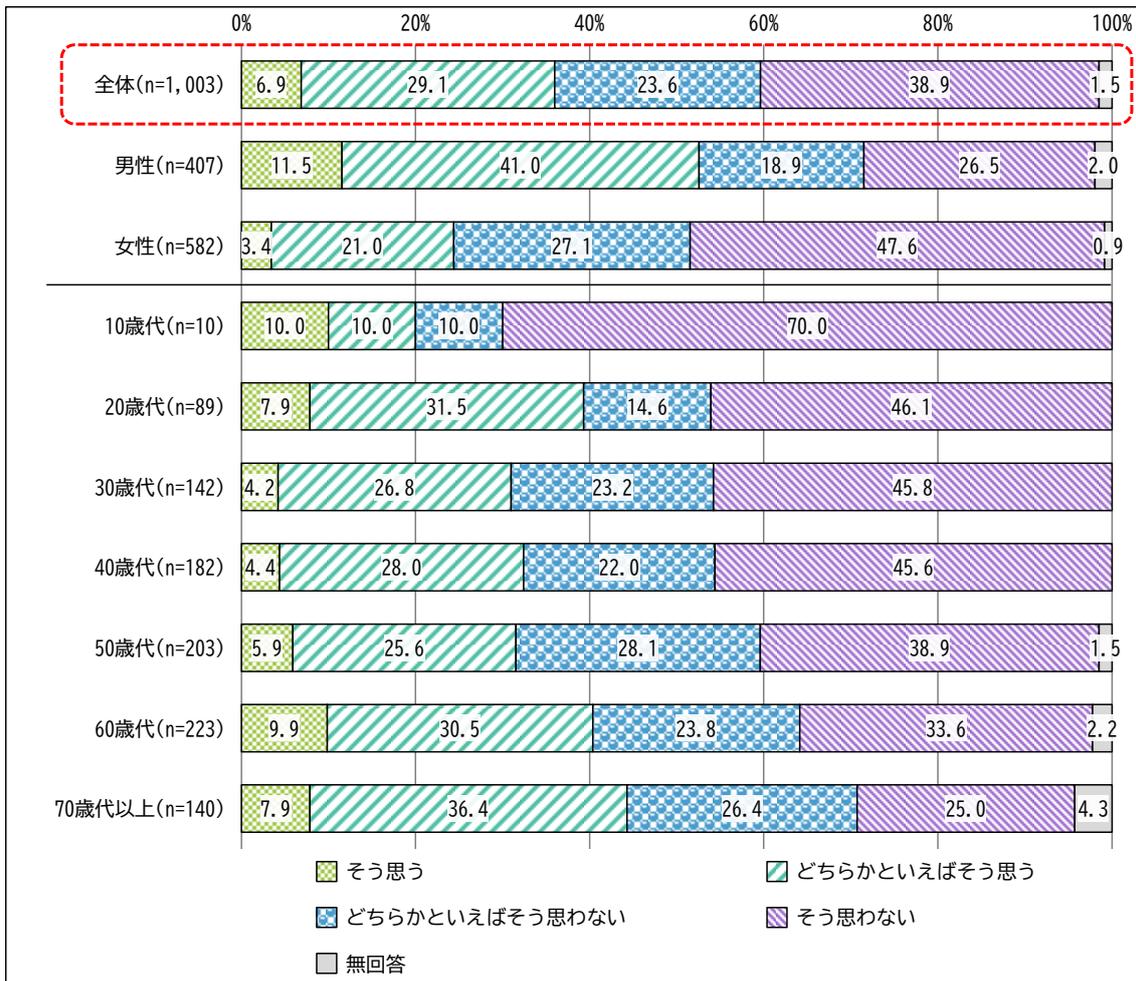
○「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」については、「どちらかといえばそう思う」が49.5%と最も高く、次いで「そう思う」20.7%、「そう思わない」18.1%となっており、7割が『そう思う』と回答しています。

○性別及び年代別でも、いずれも『そう思う』が6割を超えています。



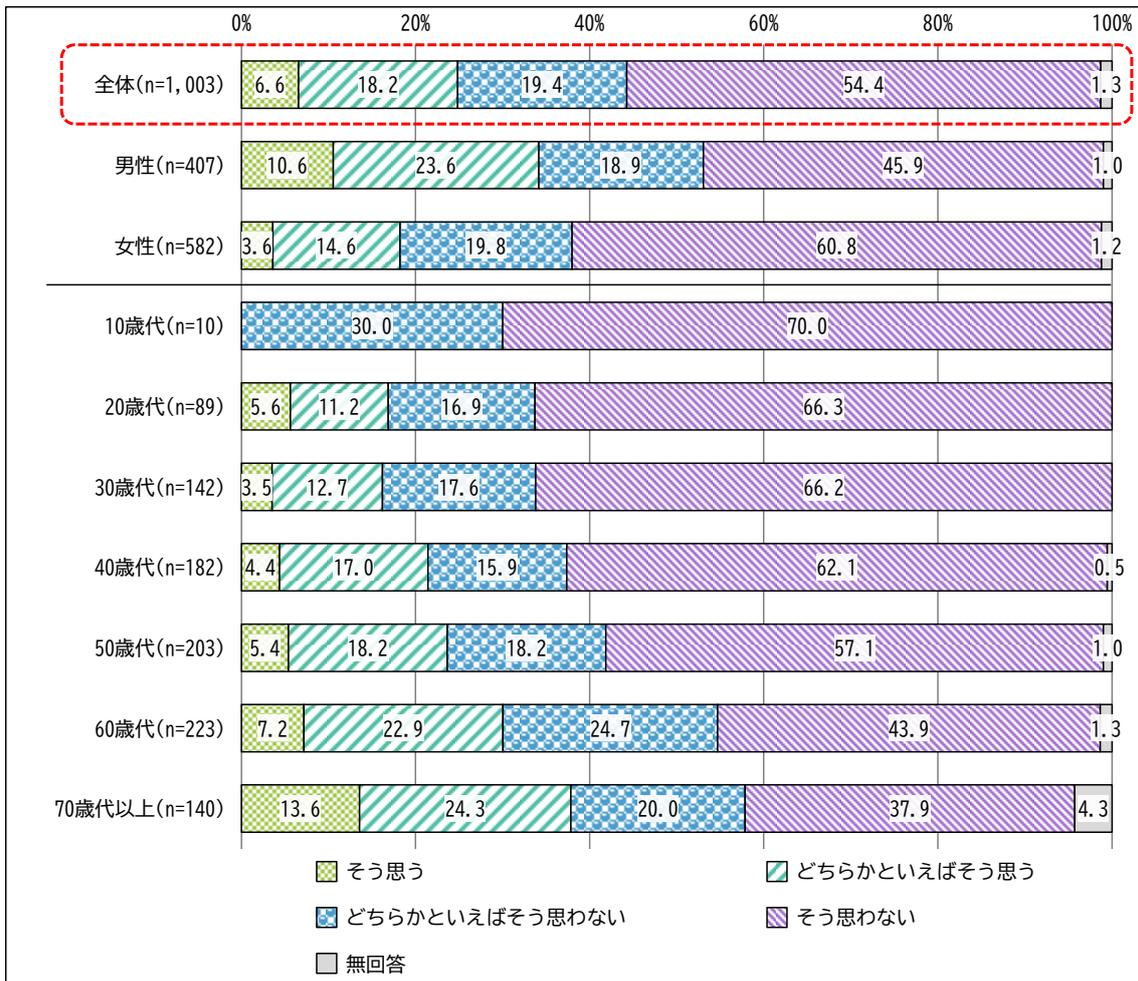
## (2) デートや食事のお金は男性が負担すべきだ

- 「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」については、「そう思わない」が38.9%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」29.1%、「どちらかといえばそう思わない」23.6%となっており、6割が『そう思わない』と回答しています。
- 性別で見ると、男性では「どちらかといえばそう思う」、女性では「そう思わない」が最も高くなっています。また、男性は女性と比べて『そう思う』が高く、『そう思わない』が低くなっており、25ポイント以上差が生じています。
- 年代別で見ると、60歳代までは「そう思わない」が最も高く、特に10歳代では7割を超えており、70歳以上では「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。また、どの年代も『そう思わない』が『そう思う』を上回っています。



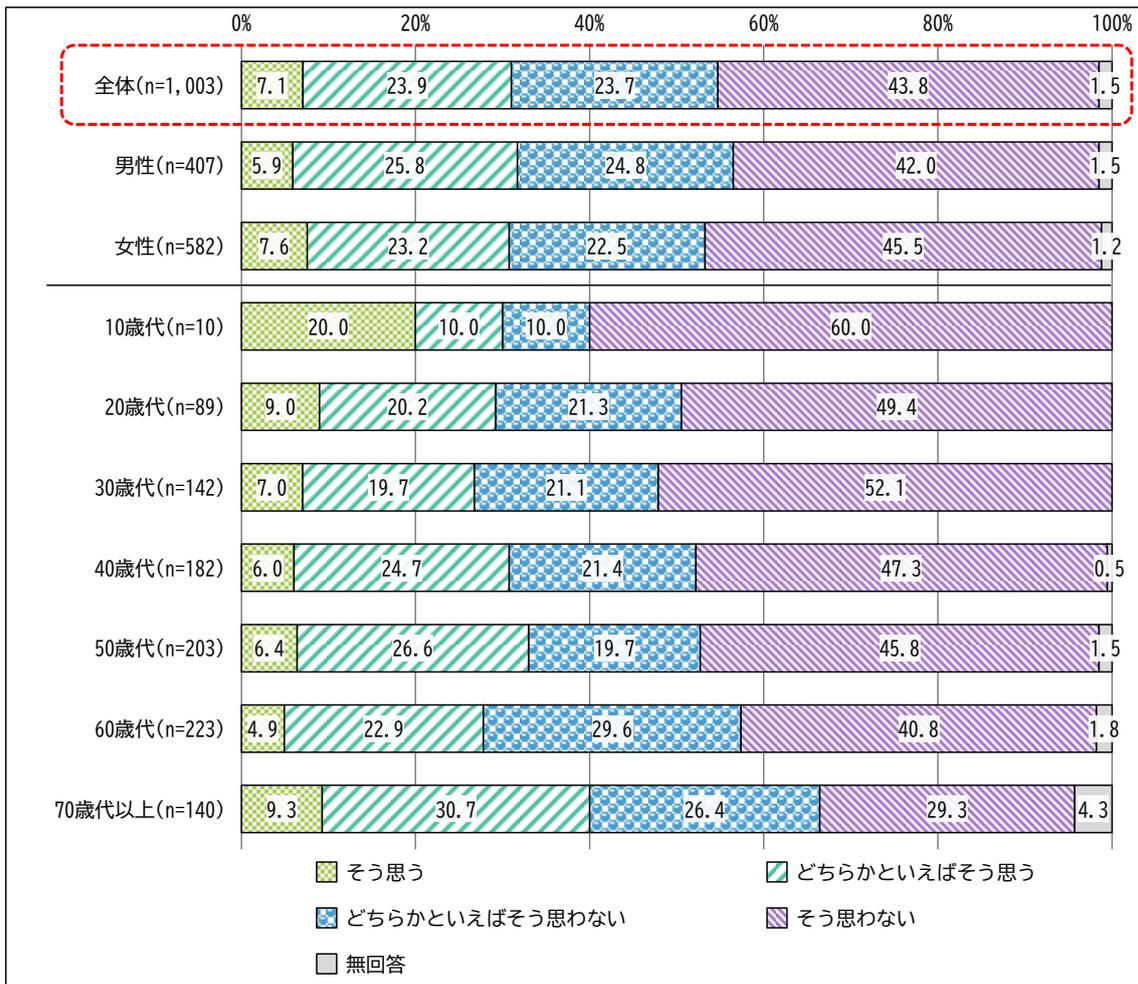
### (3) 男性は結婚して家庭をもって一人前だ

- 「男性は結婚して家庭をもって一人前だ」については、「そう思わない」が54.4%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」19.4%、「どちらかといえばそう思う」18.2%となっており、7割が『そう思わない』と回答しています。
- 性別で見ると、男女ともに「そう思わない」が最も高く、特に女性では60.8%と6割を超えています。また、男性は女性と比べて『そう思う』が高く、『そう思わない』が低くなっており、15ポイント以上差が生じています。
- 年代別で見ると、どの年代も『そう思わない』が『そう思う』を上回っており、特に30歳代以下では8割を超えています。また、60歳代以上では3割が『そう思う』と回答しています。



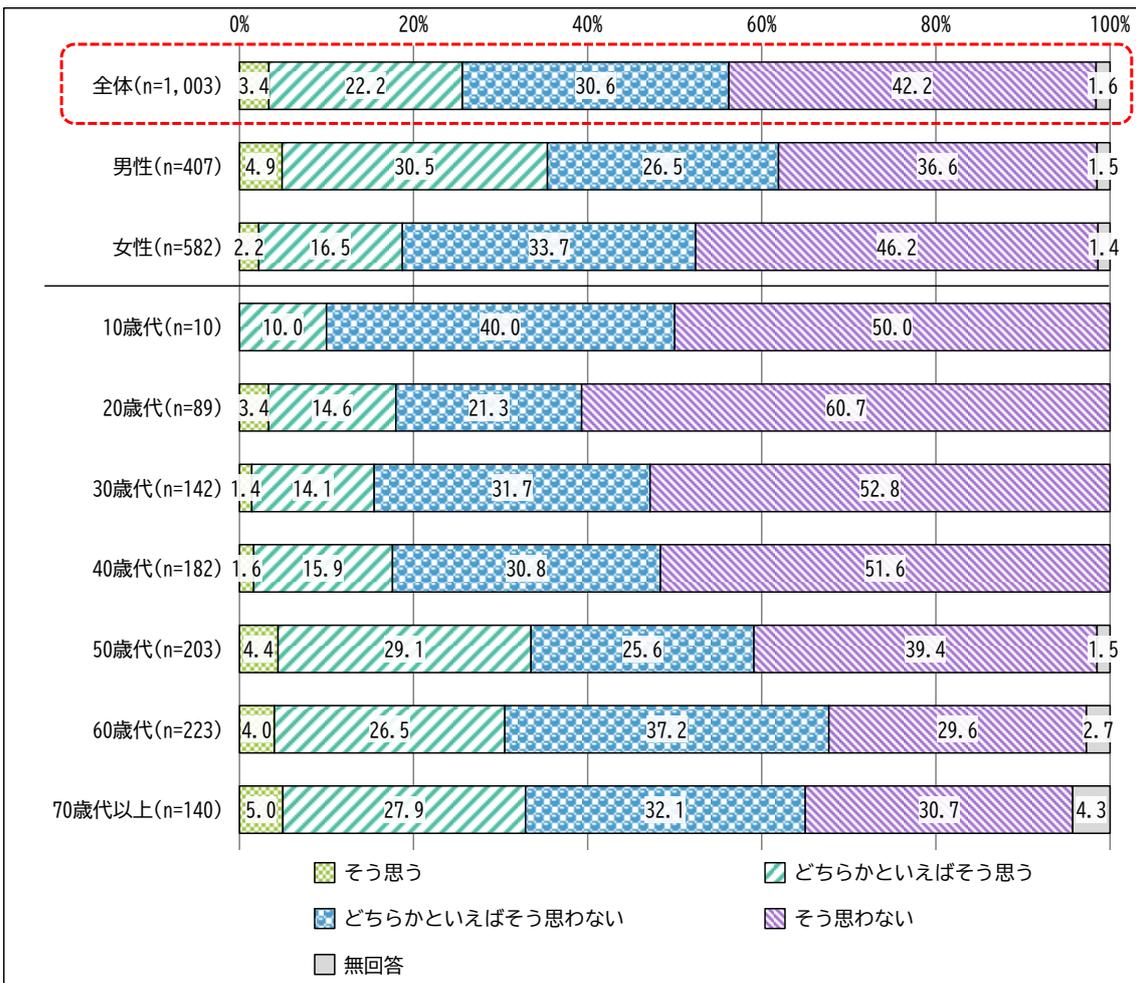
#### (4) 女性は結婚によって、経済的に安定を得る方が良い

- 「女性は結婚によって、経済的に安定を得る方が良い」については、「そう思わない」が43.8%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」23.9%、「どちらかといえばそう思わない」23.7%となっており、6割が『そう思わない』と回答しています。
- 性別で見ると、男女ともに『そう思わない』が6割を超えており、『そう思う』を上回っています。
- 年代別で見ると、60歳代までは「そう思わない」、70歳代以上では「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。また、どの年代も『そう思わない』が『そう思う』を上回っていますが、70歳代以上では4割が『そう思う』と回答しています。



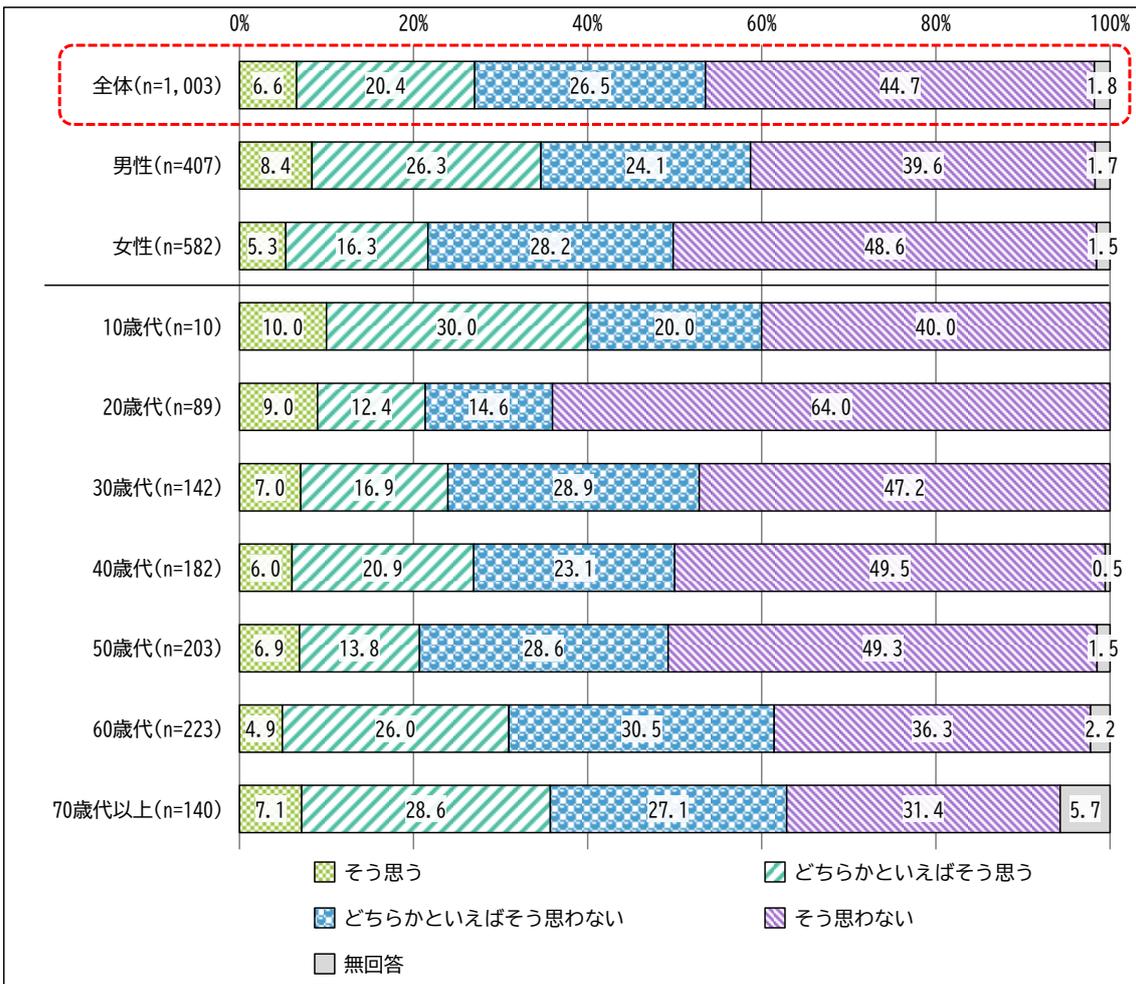
### (5) 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ

- 「共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ」については、「そう思わない」が42.2%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」30.6%、「どちらかといえばそう思う」22.2%となっており、7割が『そう思わない』と回答しています。
- 性別でみると、男女ともに『そう思わない』が6割を超えており、『そう思う』を上回っています。また、男性は女性と比べて『そう思う』が高く、『そう思わない』が低くなっており、15ポイント以上差が生じています。
- 年代別でみると、どの年代も『そう思わない』が『そう思う』を上回っており、特に40歳代以下では8割を超えています。また、40歳代以下では『そう思う』が1割台なのに対し、50歳代以上では3割を超えています。



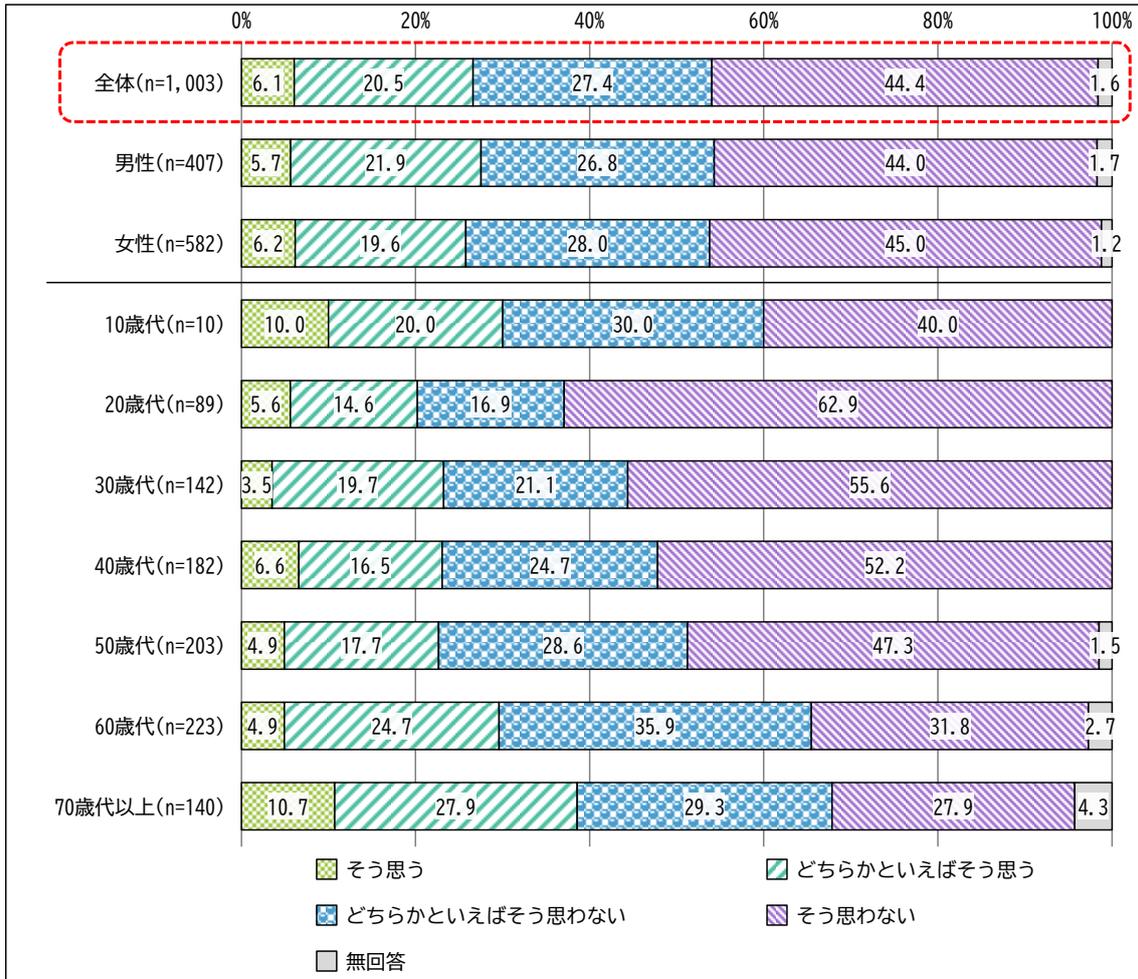
## (6) 組織のリーダーは男性の方が向いている

- 「組織のリーダーは男性の方が向いている」については、「そう思わない」が44.7%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」26.5%、「どちらかといえばそう思う」20.4%となっており、7割が『そう思わない』と回答しています。
- 性別で見ると、男女ともに『そう思わない』が6割を超えており、『そう思う』を上回っています。また、男性は女性と比べて『そう思う』が高く、『そう思わない』が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 年代別で見ると、どの年代も『そう思わない』が『そう思う』を上回っています。また、10歳代では『そう思う』が4割台と他の年代に比べて高くなっています。



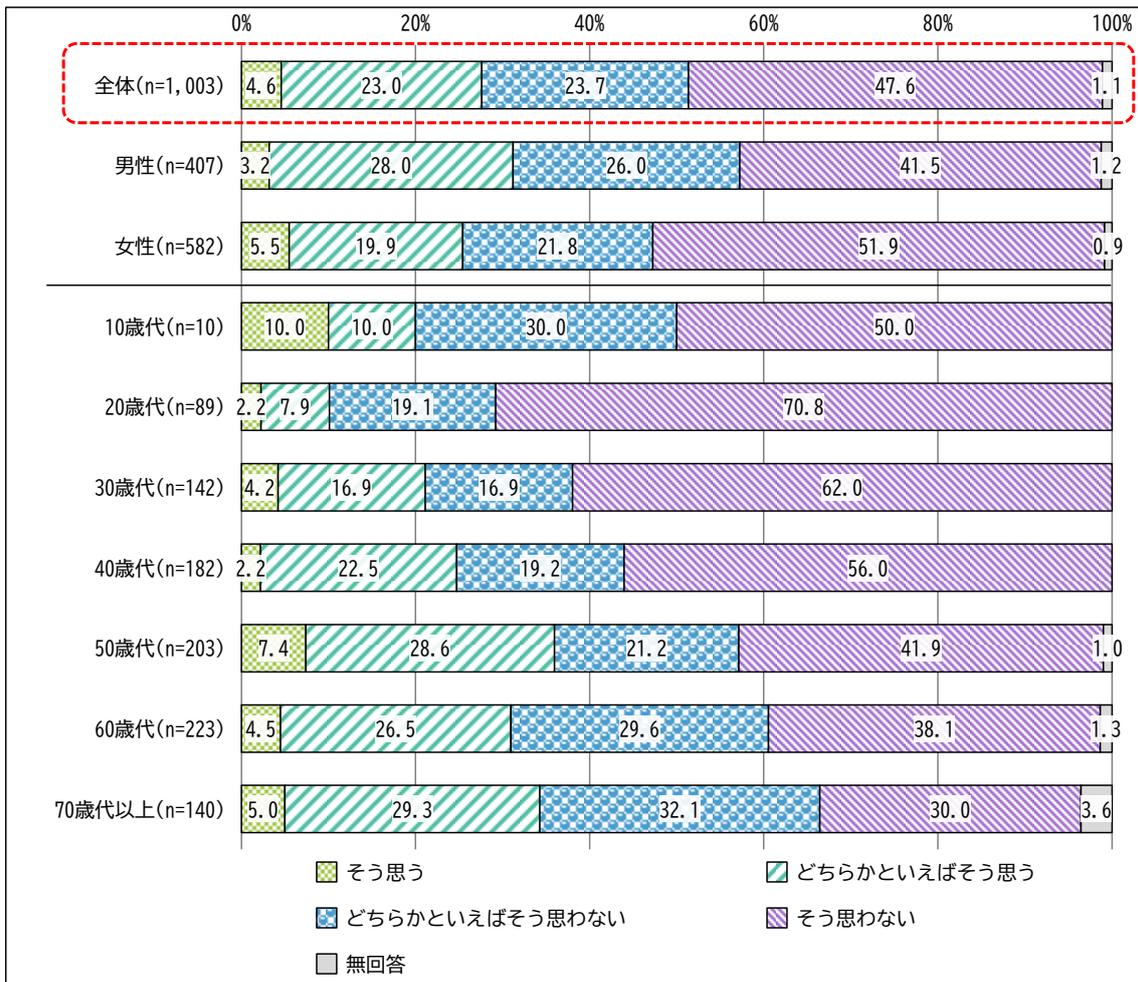
## (7) 大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい

- 「大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい」については、「そう思わない」が44.4%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」27.4%、「どちらかといえばそう思う」20.5%となっており、7割が『そう思わない』と回答しています。
- 性別及び年代別でも、いずれも『そう思わない』が『そう思う』を上回っていますが、70歳代以上では、約4割が『そう思う』と回答しています。



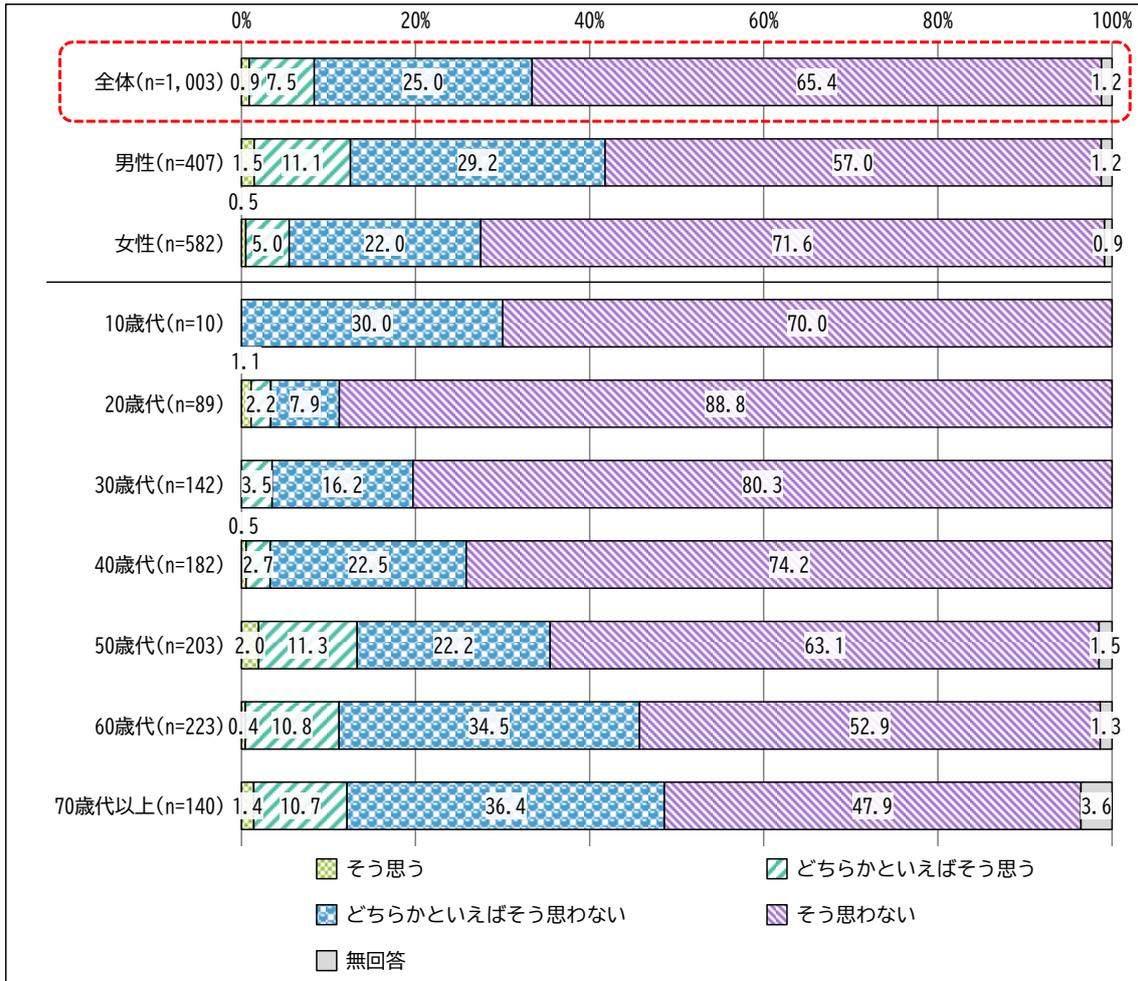
## (8) 親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ

- 「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」については、「そう思わない」が 47.6%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」23.7%、「どちらかといえばそう思う」23.0%となっており、7割が『そう思わない』と回答しています。
- 性別でみると、男女ともに『そう思わない』が6割を超えており、『そう思う』を上回っています。
- 年代別でみると、どの年代も『そう思わない』が『そう思う』を上回っており、特に20歳代以下では8割を超えています。



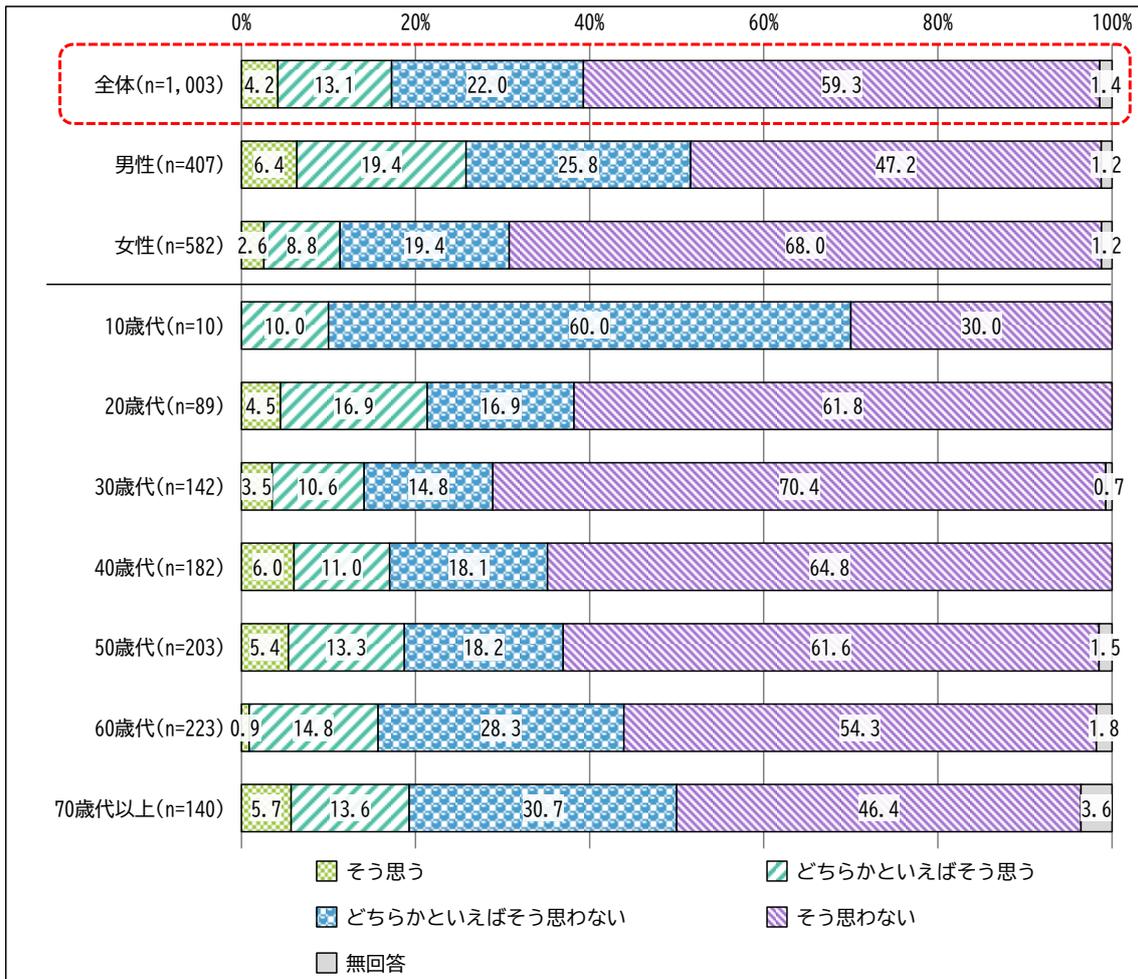
### (9) 実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ

- 「実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ」については、「そう思わない」が65.4%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」25.0%、「どちらかといえばそう思う」7.5%となっており、9割が『そう思わない』と回答しています。
- 性別で見ると、男女ともに『そう思わない』が『そう思う』を大きく上回っています。
- 年代別で見ると、どの年代も『そう思わない』が『そう思う』を上回っており、特に40歳代以下では9割を超えています。



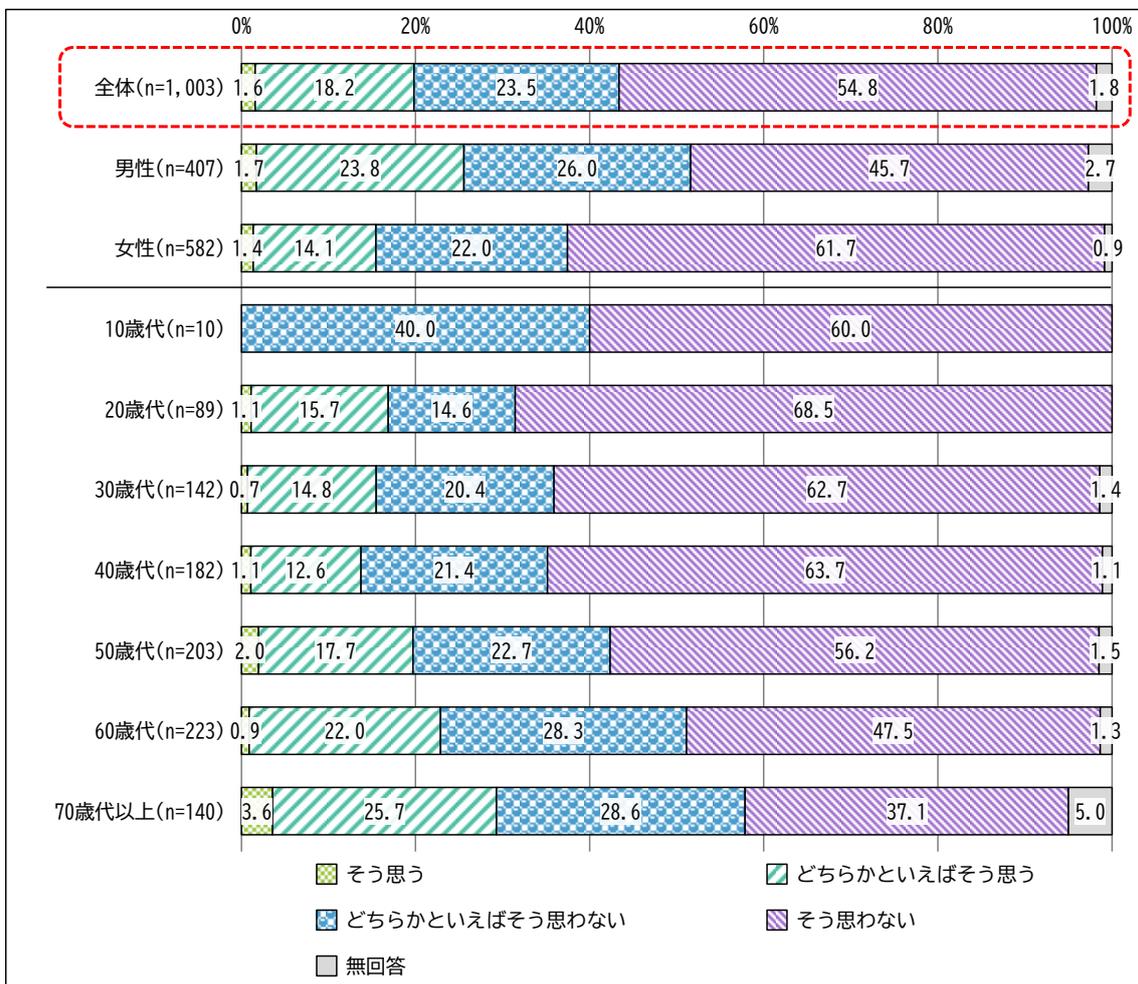
## (10) 家を継ぐのは男性であるべきだ

- 「家を継ぐのは男性であるべきだ」については、「そう思わない」が 59.3%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」22.0%、「どちらかといえばそう思う」13.1%となっており、8割が『そう思わない』と回答しています。
- 性別でみると、男女ともに『そう思わない』が7割を超えており、『そう思う』を上回っています。また、男性は女性と比べて『そう思う』が高く、『そう思わない』が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 年代別でみると、どの年代も『そう思わない』が『そう思う』を上回っており、特に10歳代では9割を超えています。



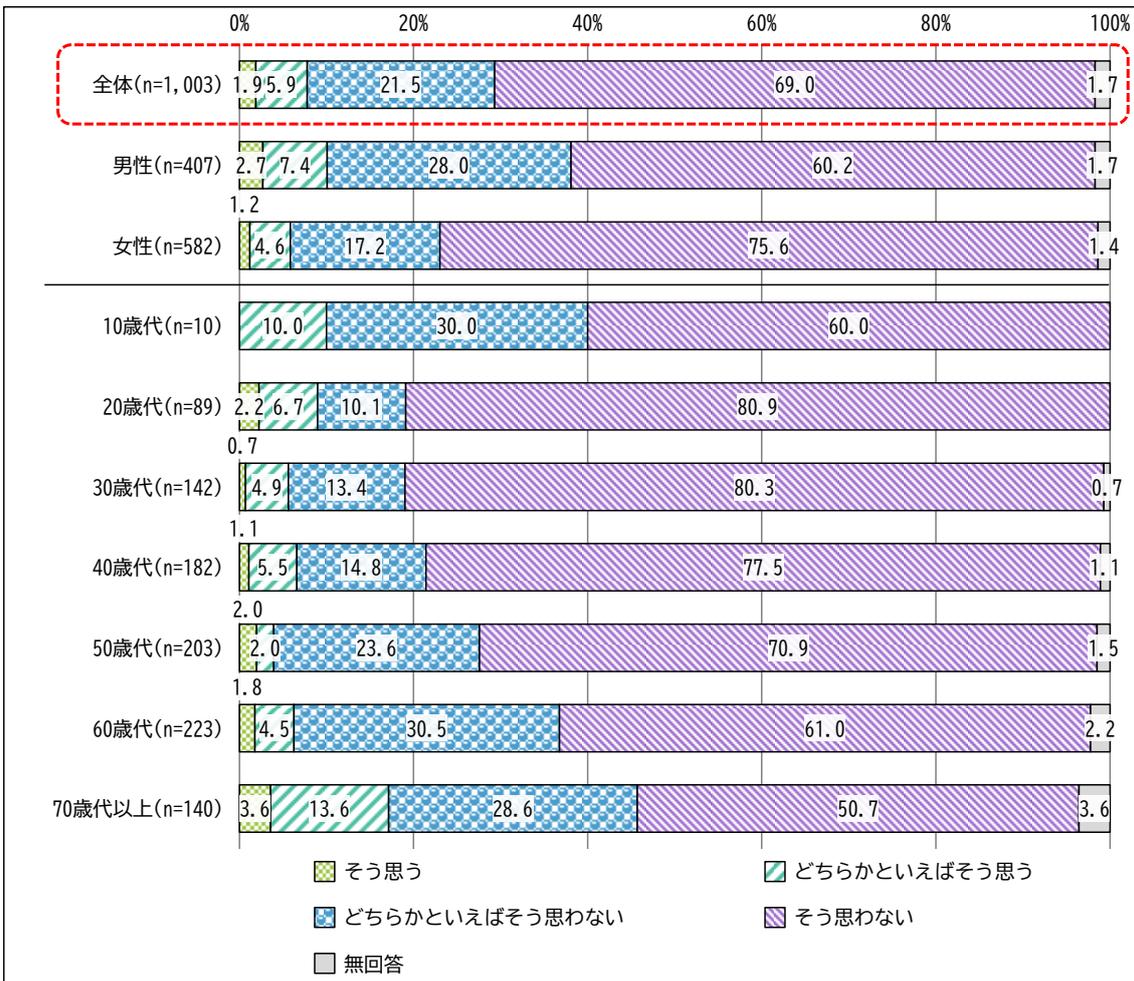
### (11) 共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病すべきだ

- 「共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病すべきだ」については、「そう思わない」が 54.8%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」23.5%、「どちらかといえばそう思う」18.2%となっており、約8割が『そう思わない』と回答しています。
- 性別でみると、男女ともに『そう思わない』が7割を超えており、『そう思う』を上回っています。また、男性は女性と比べて『そう思う』が高く、『そう思わない』が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 年代別でみると、どの年代も『そう思わない』が『そう思う』を上回っており、特に40歳代以下では8割を超えています。70歳代以上では6割台と他の年代に比べて低くなっています。



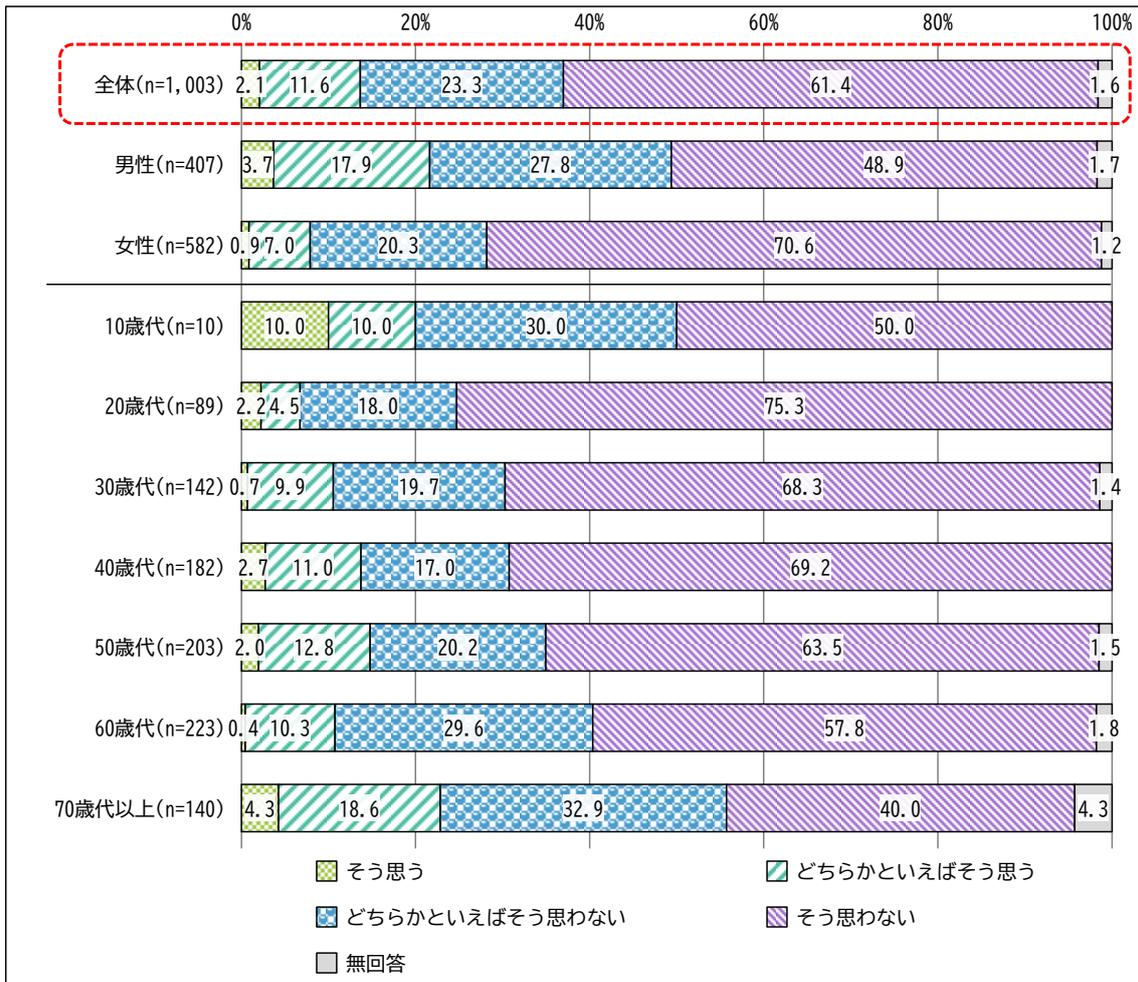
## (12) 学級委員長や生徒会長は男子が、副委員長や副会長は女子の方が向いている

- 「学級委員長や生徒会長は男子が、副委員長や副会長は女子の方が向いている」については、「そう思わない」が69.0%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」21.5%、「どちらかといえばそう思う」5.9%となっており、9割が『そう思わない』と回答しています。
- 性別でみると、男女ともに『そう思わない』が8割を超えており、『そう思う』を大きく上回っています。
- 年代別でみると、どの年代も『そう思わない』が『そう思う』を上回っており、60歳代までは9割を超えています。70歳代以上では7割台と他の年代に比べて低くなっています。



### (13) 男は主に仕事をし、女は主に家庭のことをするべきだ

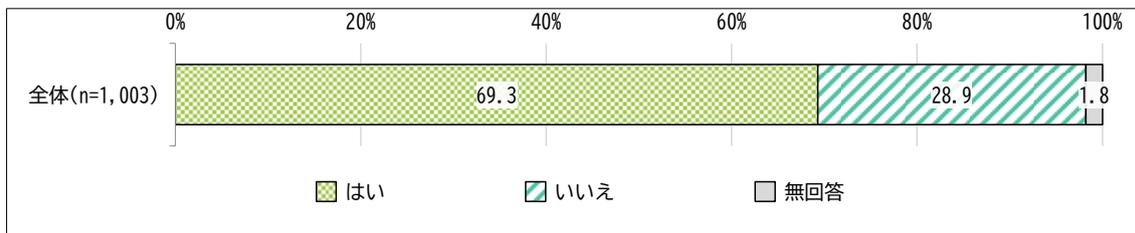
- 「男は主に仕事をし、女は主に家庭のことをするべきだ」については、「そう思わない」が61.4%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」23.3%、「どちらかといえばそう思う」11.6%となっており、8割が『そう思わない』と回答しています。
- 性別でみると、男女ともに『そう思わない』が7割を超えており、『そう思う』を上回っています。また、男性は女性と比べて『そう思う』が高く、『そう思わない』が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 年代別でみると、どの年代も『そう思わない』が『そう思う』を上回っており、特に20歳代では9割を超えています。



### 3. 家庭生活について

#### 問10 あなたは、配偶者・パートナーと同居されていますか。(単数回答)

○配偶者・パートナーとの同居状況については、「はい」が69.3%、「いいえ」が28.9%となっています。

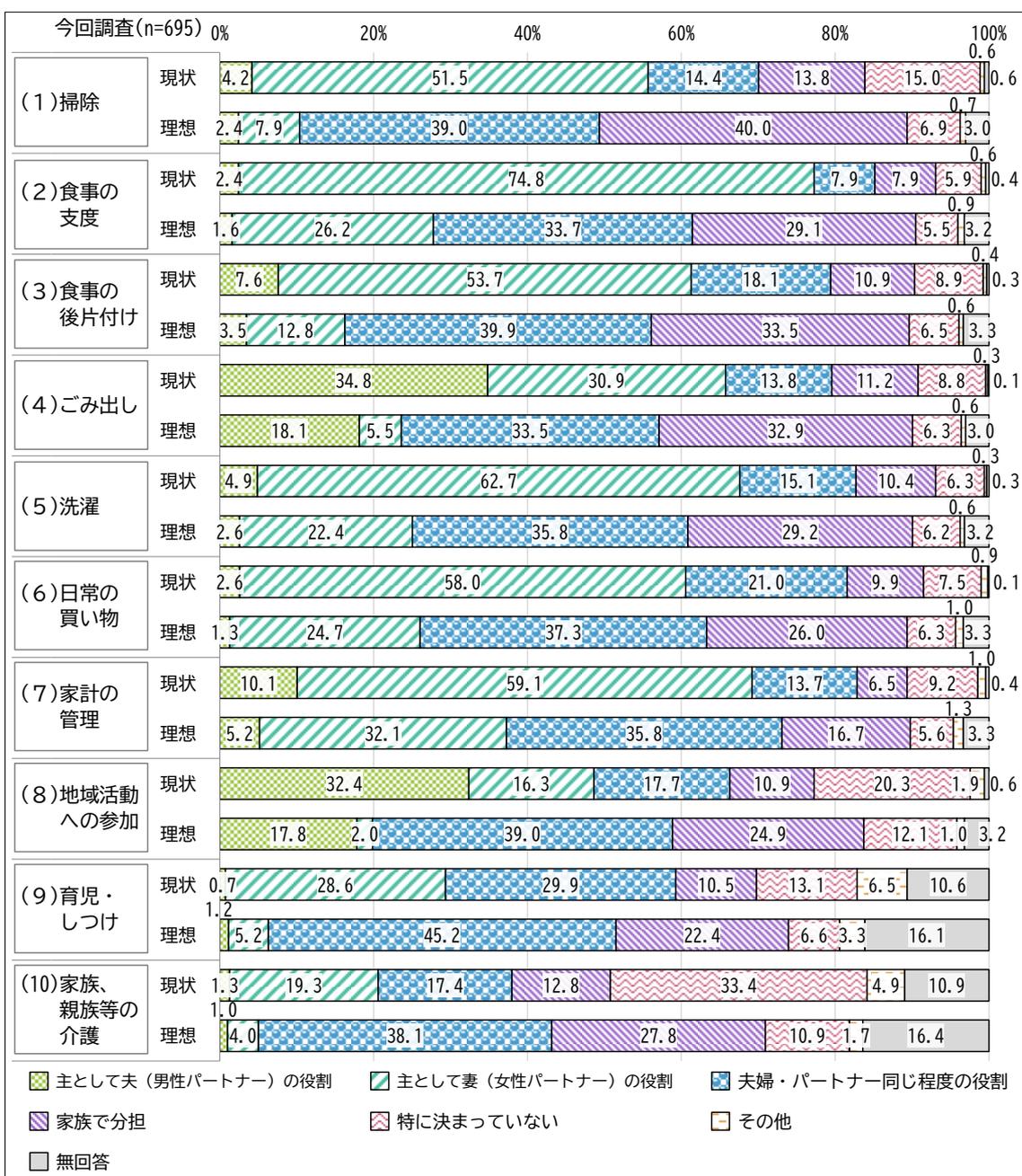


【問10で「1. はい」と答えた方のみ】

問10-1 あなたの家庭では、次のことを実際に誰がしていますか。(単数回答)

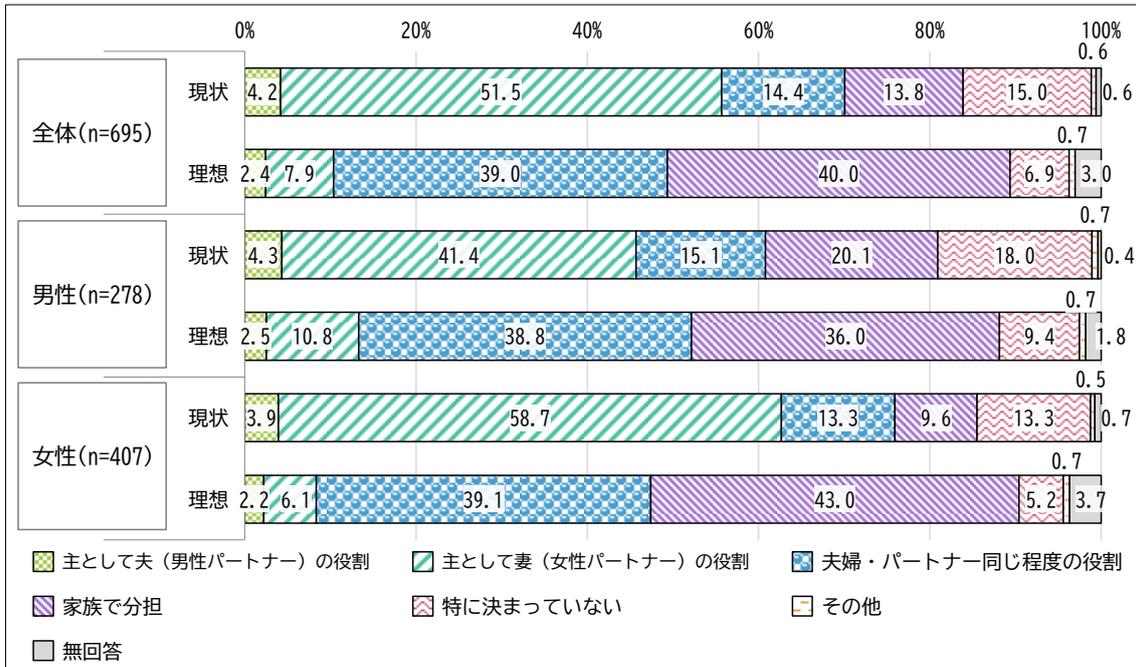
問10-2 理想はどうしたいですか。(単数回答)

- 日常的な暮らしの役割分担については、現状では「ごみ出し」「地域活動への参加」は「主として夫（男性パートナー）の役割」、「育児・しつけ」は「夫婦・パートナー同じ程度の役割」、「家族、親族等の介護」は「特に決まっていない」が最も高くなっていますが、それ以外は「主として妻（女性パートナー）の役割」が最も高く、いずれも5割を超えています。
- 理想としては、「掃除」は「家族で分担」、それ以外は「夫婦・パートナー同じ程度の役割」が最も高くなっています。



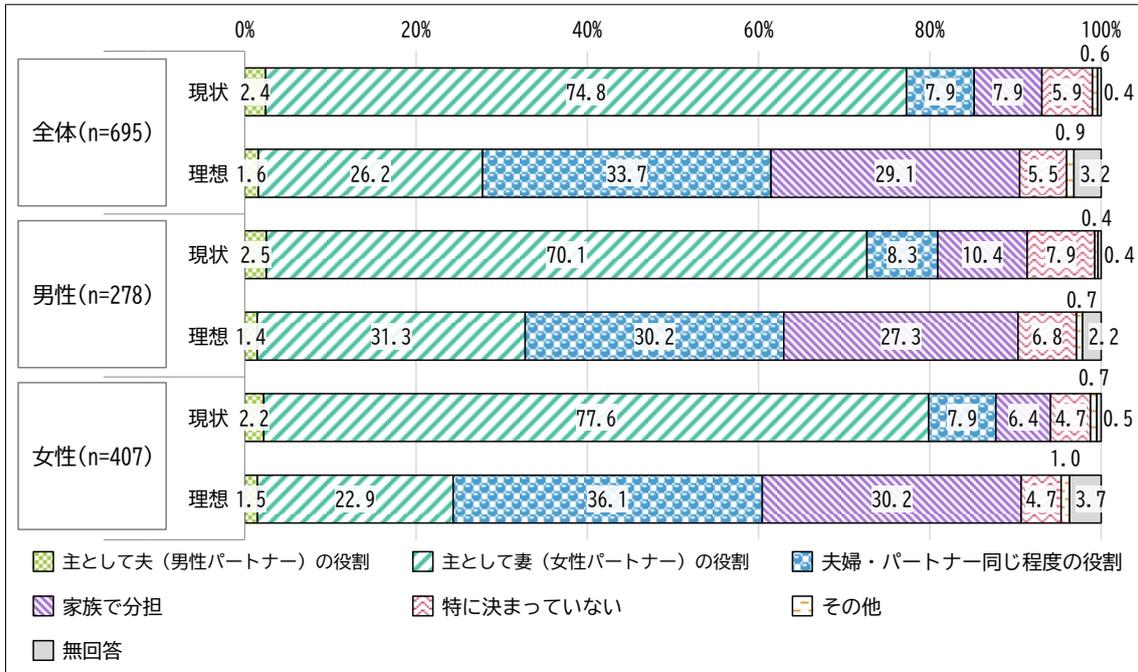
## (1) 掃除

- 「掃除」については、現状では「主として妻（女性パートナー）の役割」、理想では「家族で分担」が最も高くなっています。
- 性別で見ると、現状では、男女ともに「主として妻（女性パートナー）の役割」が最も高くなっていますが、理想では、男性は「夫婦・パートナー同じ程度の役割」、女性は「家族で分担」が最も高くなっています。また、現状では、女性は男性と比べて「主として妻（女性パートナー）の役割」が高く、「家族で分担」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。



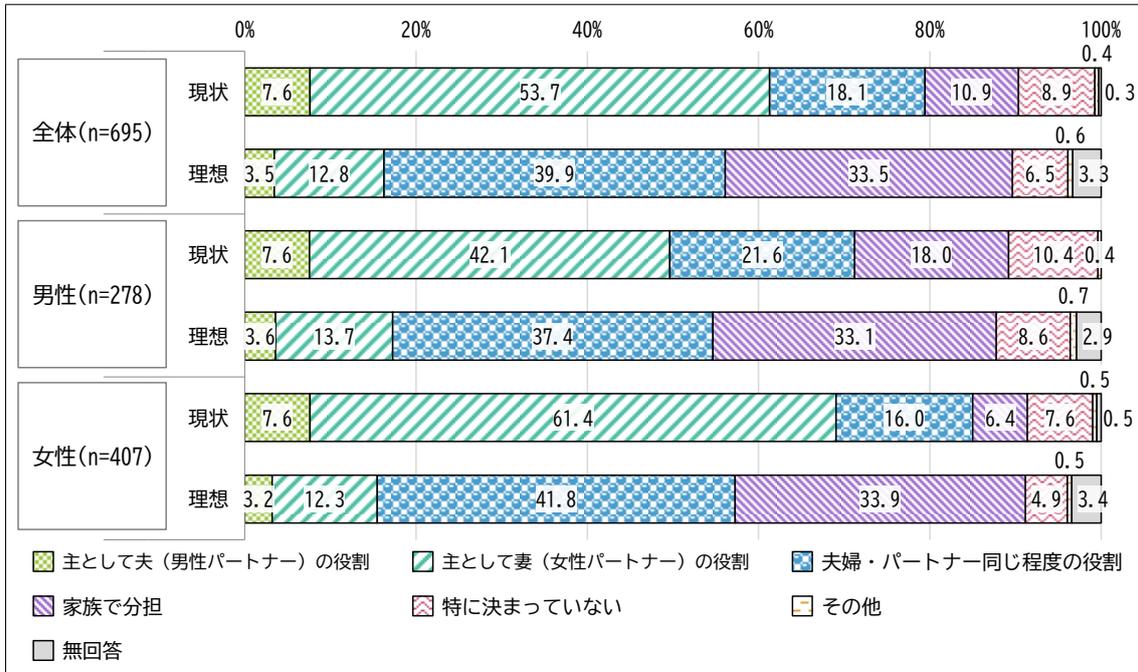
## (2) 食事の支度

- 「食事の支度」については、現状では「主として妻（女性パートナー）の役割」、理想では「夫婦・パートナー同じ程度の役割」が最も高くなっています。
- 性別で見ると、現状では、男女ともに「主として妻（女性パートナー）の役割」が最も高く、男性は理想でも「主として妻（女性パートナー）の役割」が最も高くなっていますが、女性は「夫婦・パートナー同じ程度の役割」が最も高くなっています。



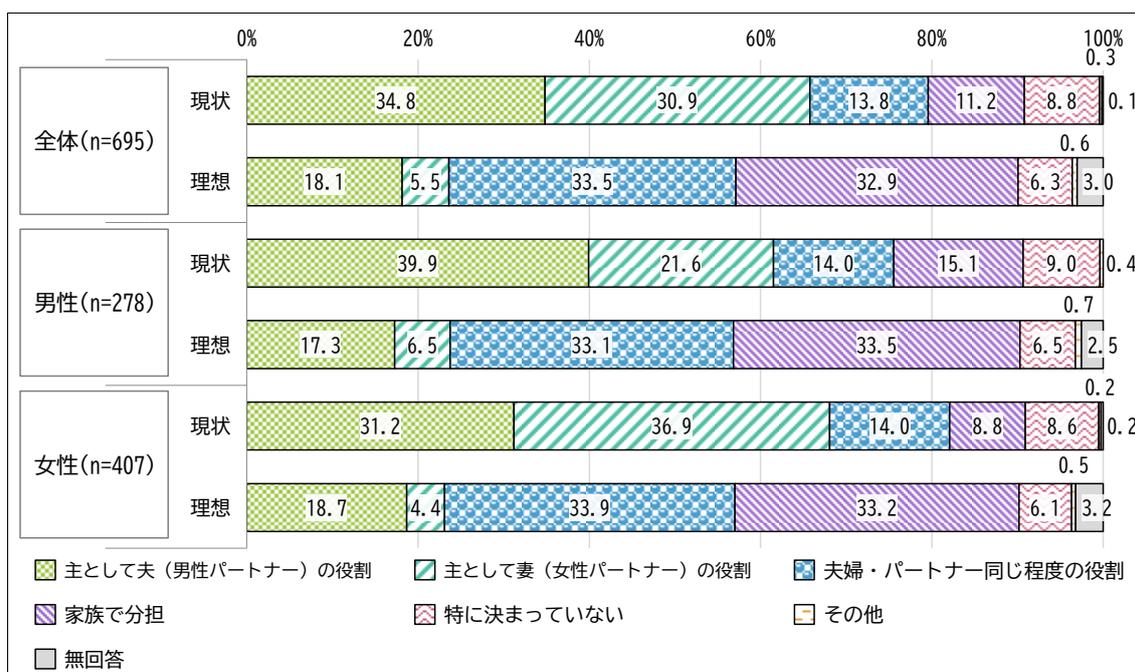
### (3) 食事の後片付け

- 「食事の後片付け」については、現状では「主として妻（女性パートナー）の役割」、理想では「夫婦・パートナー同じ程度の役割」が最も高くなっています。
- 性別で見ると、現状では、男女ともに「主として妻（女性パートナー）の役割」が最も高く、女性は男性と比べて19.3ポイント高くなっています。また、理想では、男女ともに「夫婦・パートナー同じ程度の役割」が最も高くなっています。



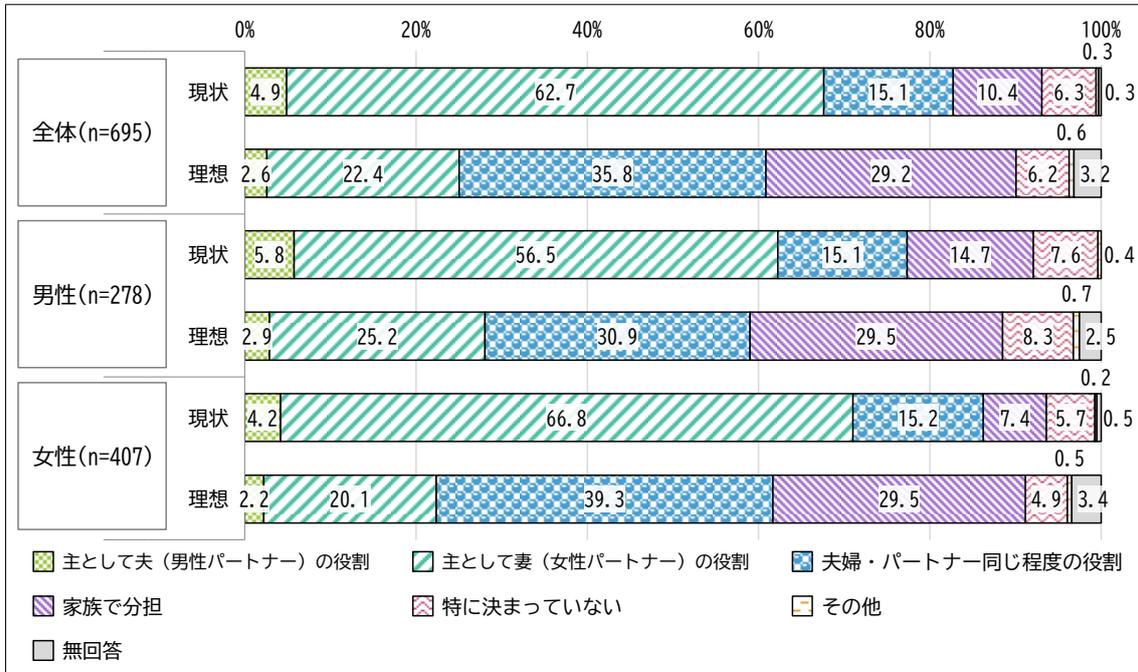
#### (4) ごみ出し

- 「ごみ出し」については、現状では「主として夫（男性パートナー）の役割」、理想では「夫婦・パートナー同じ程度の役割」が最も高くなっています。
- 性別でみると、現状では、男性は「主として夫（男性パートナー）の役割」、女性は「主として妻（女性パートナー）の役割」が最も高く、女性は男性と比べて「主として妻（女性パートナー）の役割」が 15.3 ポイント高くなっています。また、理想では「夫婦・パートナー同じ程度の役割」が最も高くなっています。



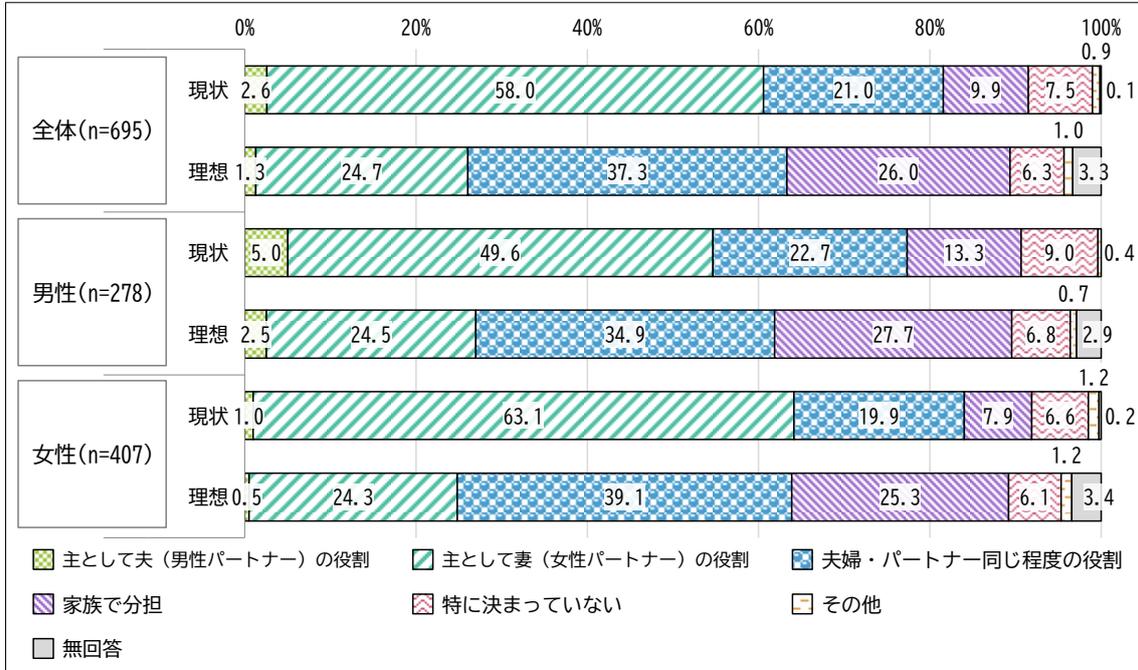
## (5) 洗濯

- 「洗濯」については、現状では「主として妻（女性パートナー）の役割」、理想では「夫婦・パートナー同じ程度の役割」が最も高くなっています。
- 性別で見ると、現状では、男女ともに「主として妻（女性パートナー）の役割」が最も高く、女性は男性と比べて10.3ポイント高くなっています。また、理想では、男女ともに「夫婦・パートナー同じ程度の役割」が最も高くなっています。



## (6) 日常の買い物

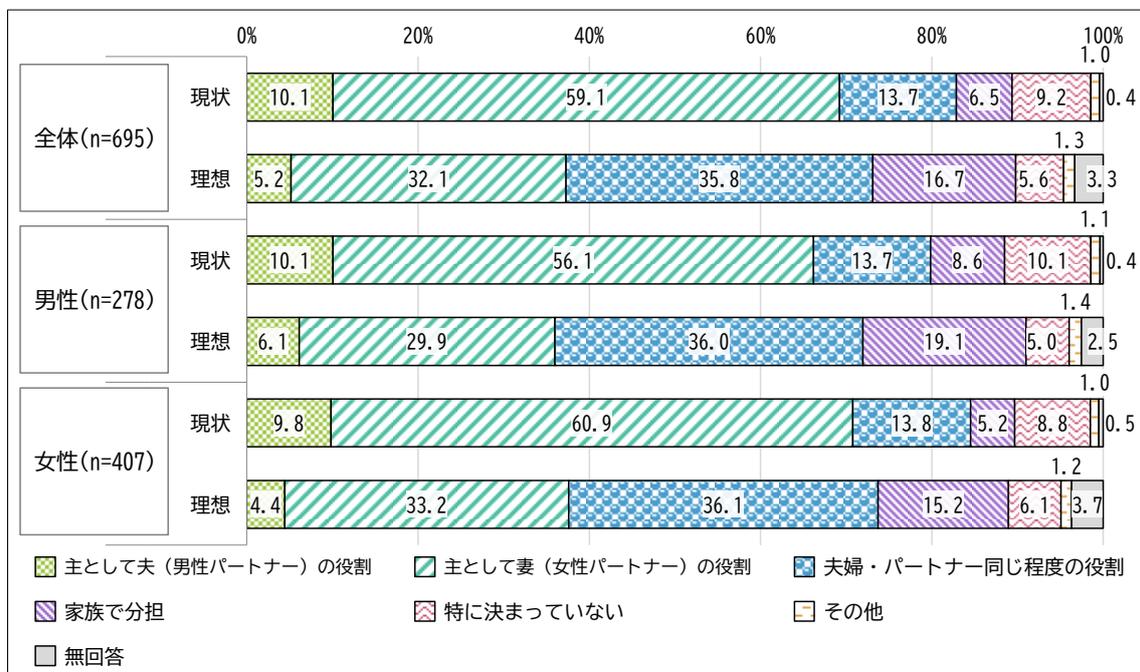
- 「日常の買い物」については、現状では「主として妻（女性パートナー）の役割」、理想では「夫婦・パートナー同じ程度の役割」が最も高くなっています。
- 性別で見ると、現状では、男女ともに「主として妻（女性パートナー）の役割」が最も高く、女性は男性と比べて13.5ポイント高くなっています。また、理想では、男女ともに「夫婦・パートナー同じ程度の役割」が最も高くなっています。



## (7) 家計の管理

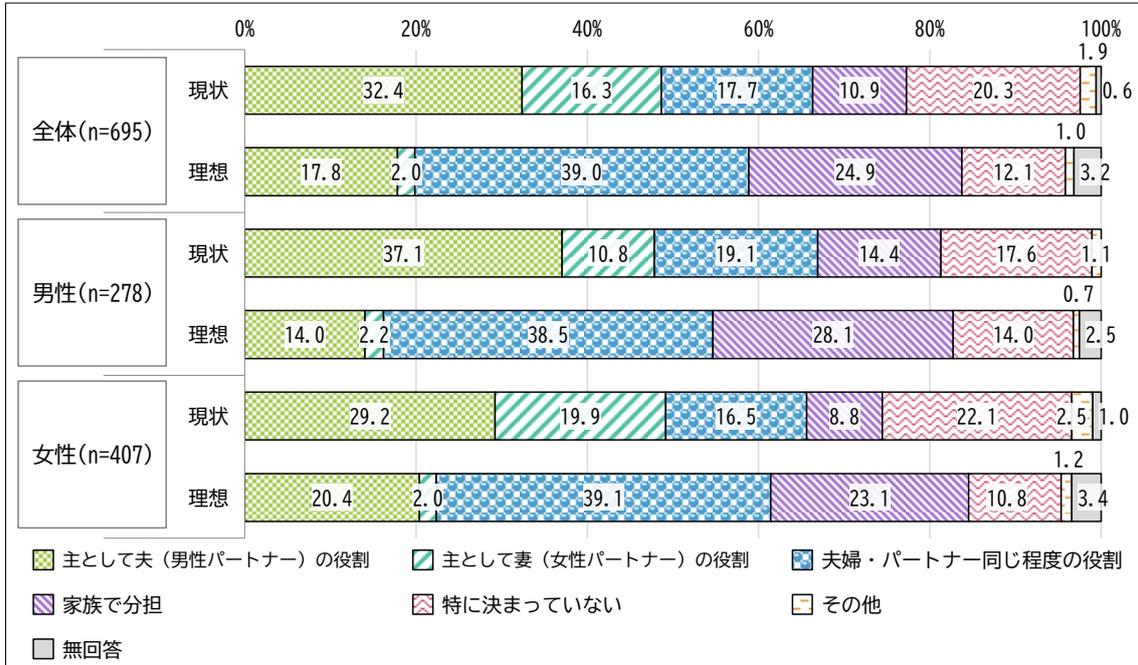
○「家計の管理」については、現状では「主として妻（女性パートナー）の役割」、理想では「夫婦・パートナー同じ程度の役割」が最も高くなっています。

○性別でみると、男女ともに現状では「主として妻（女性パートナー）の役割」、理想では「夫婦・パートナー同じ程度の役割」が最も高くなっています。



## (8) 地域活動への参加

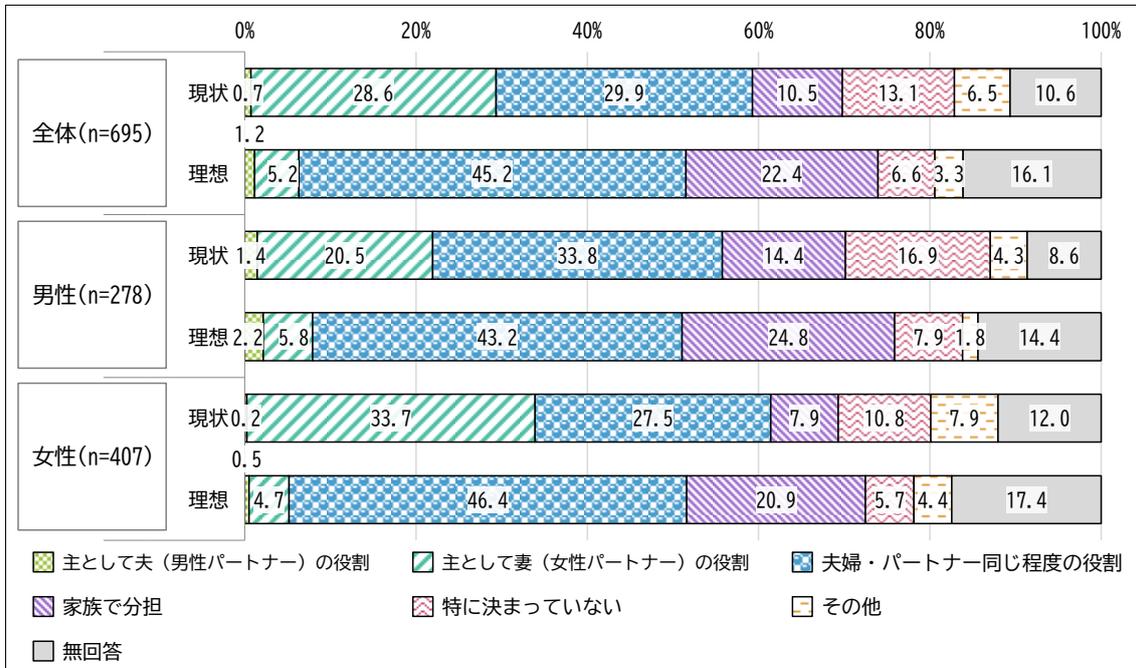
- 「地域活動への参加」については、現状では「主として夫（男性パートナー）の役割」、理想では「夫婦・パートナー同じ程度の役割」が最も高くなっています。
- 性別で見ると、男女ともに現状では「主として夫（男性パートナー）の役割」、理想では「夫婦・パートナー同じ程度の役割」が最も高くなっています。



## (9) 育児・しつけ

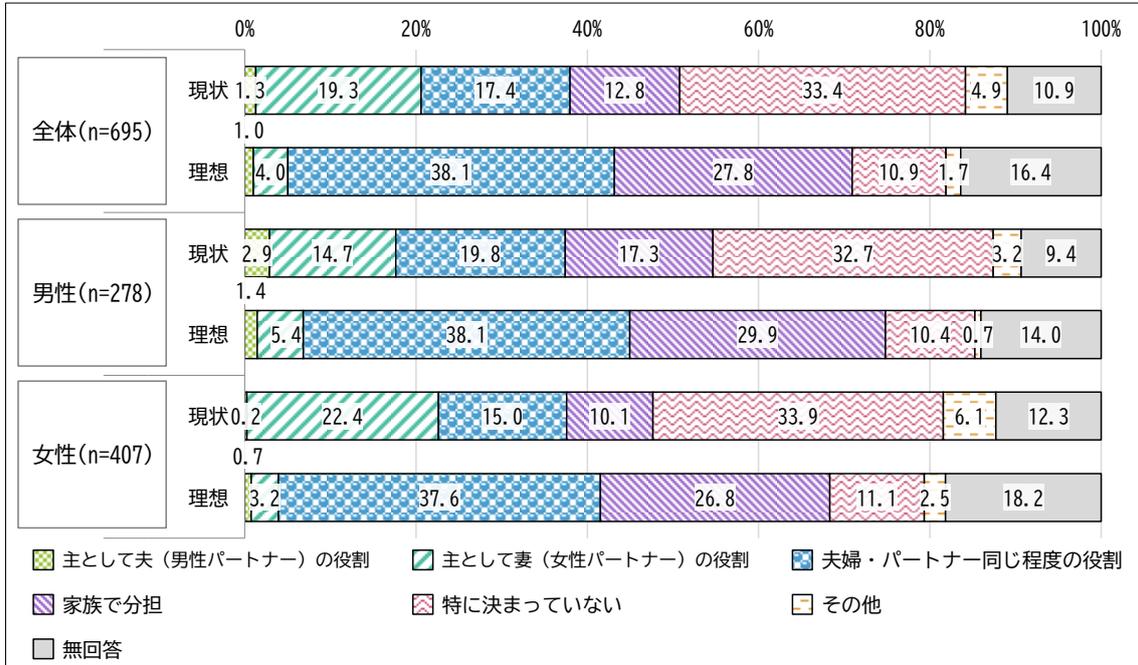
○「育児・しつけ」については、現状では「主として妻（女性パートナー）の役割」、理想では「夫婦・パートナー同じ程度の役割」が最も高くなっています。

○性別で見ると、現状では、男性は「夫婦・パートナー同じ程度の役割」、女性は「主として妻（女性パートナー）の役割」が最も高く、女性は男性と比べて「主として妻（女性パートナー）の役割」が13.2ポイント高くなっています。また、理想では、男女ともに「夫婦・パートナー同じ程度の役割」が最も高くなっています。



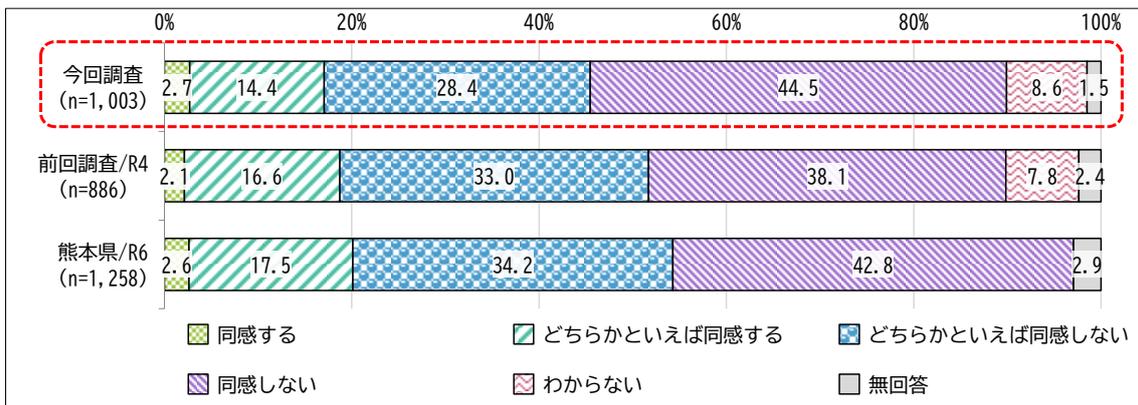
## (10) 家族、親族等の介護

- 「家族、親族等の介護」については、現状では「特に決まっていない」、理想では「夫婦・パートナー同じ程度の役割」が最も高くなっています。
- 性別で見ると、男女ともに現状では「特に決まっていない」、理想では、男女ともに「夫婦・パートナー同じ程度の役割」が最も高くなっています。

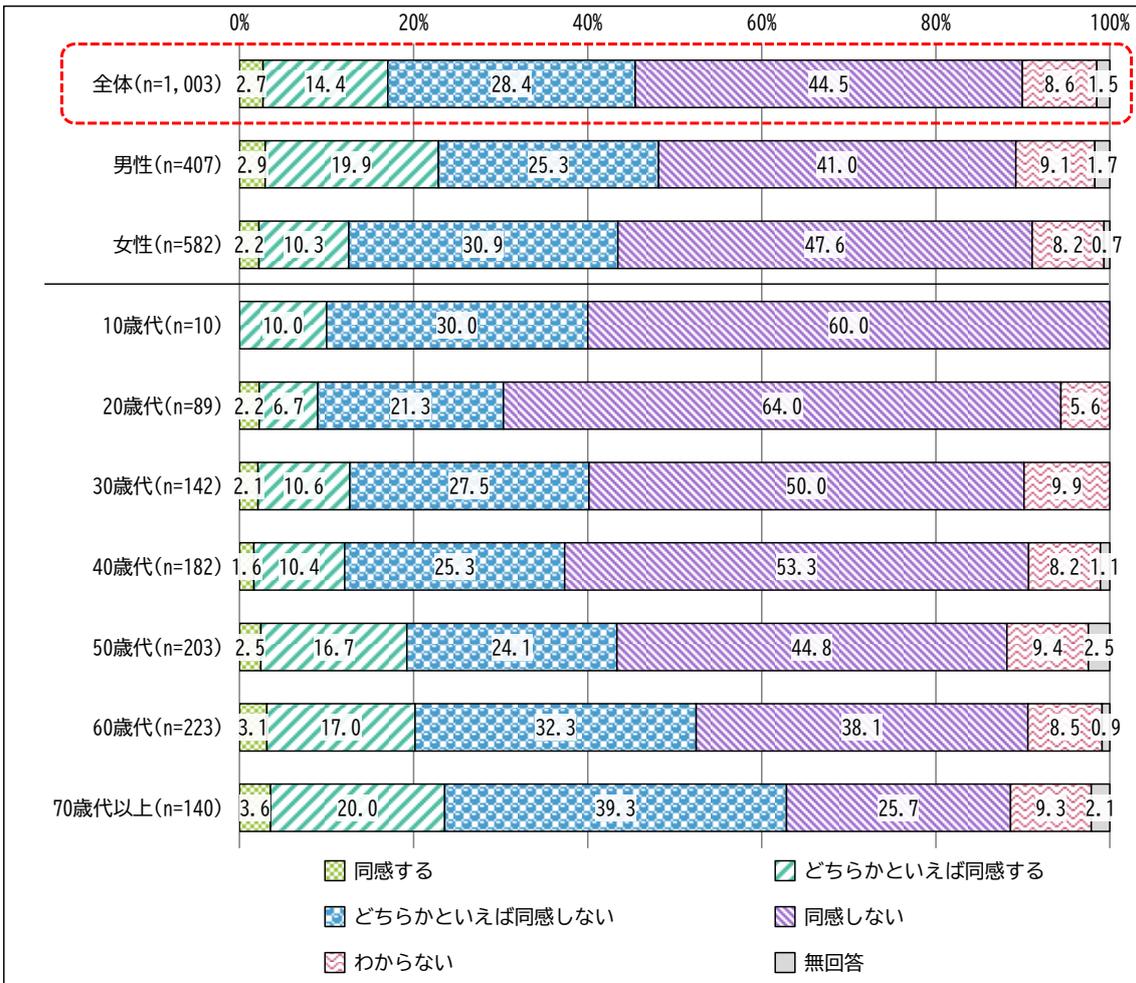


**問11 あなたは、「男は仕事、女は家庭」などと、性別によって役割を固定する考え方について、どう思われますか。(単数回答)**

- 固定的な性別役割意識については、「同感しない」が44.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば同感しない」28.4%、「どちらかといえば同感する」14.4%となっています。
- 性別でみると、男女ともに『同感しない：どちらかといえば同感しない+同感しない』が6割を超えており、『同感する：同感する+どちらかといえば同感する』を上回っています。また、男性は女性と比べて『同感する』が高く、『同感しない』が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 年代別でも、どの年代も『同感しない』が『同感する』を上回っており、特に20歳代以下では8割を超えています。

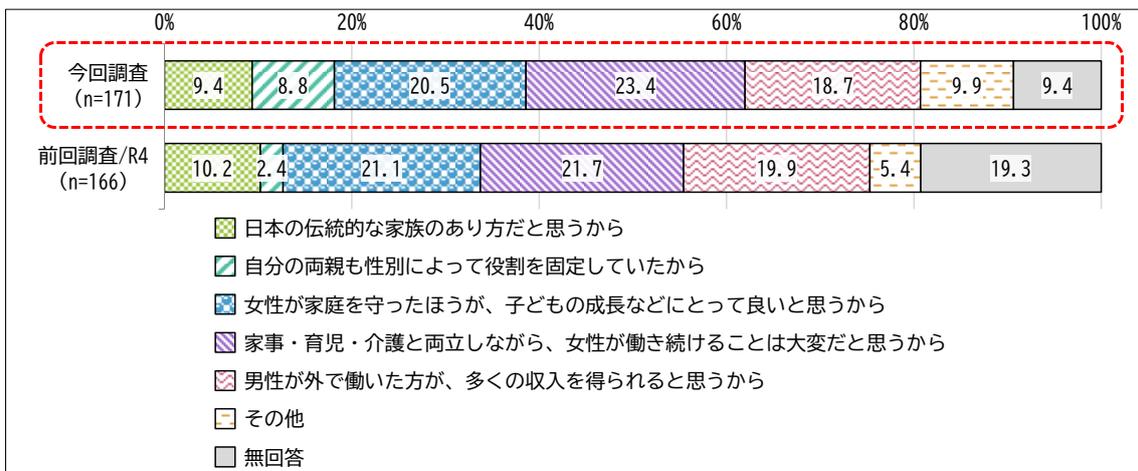


【性・年代別】

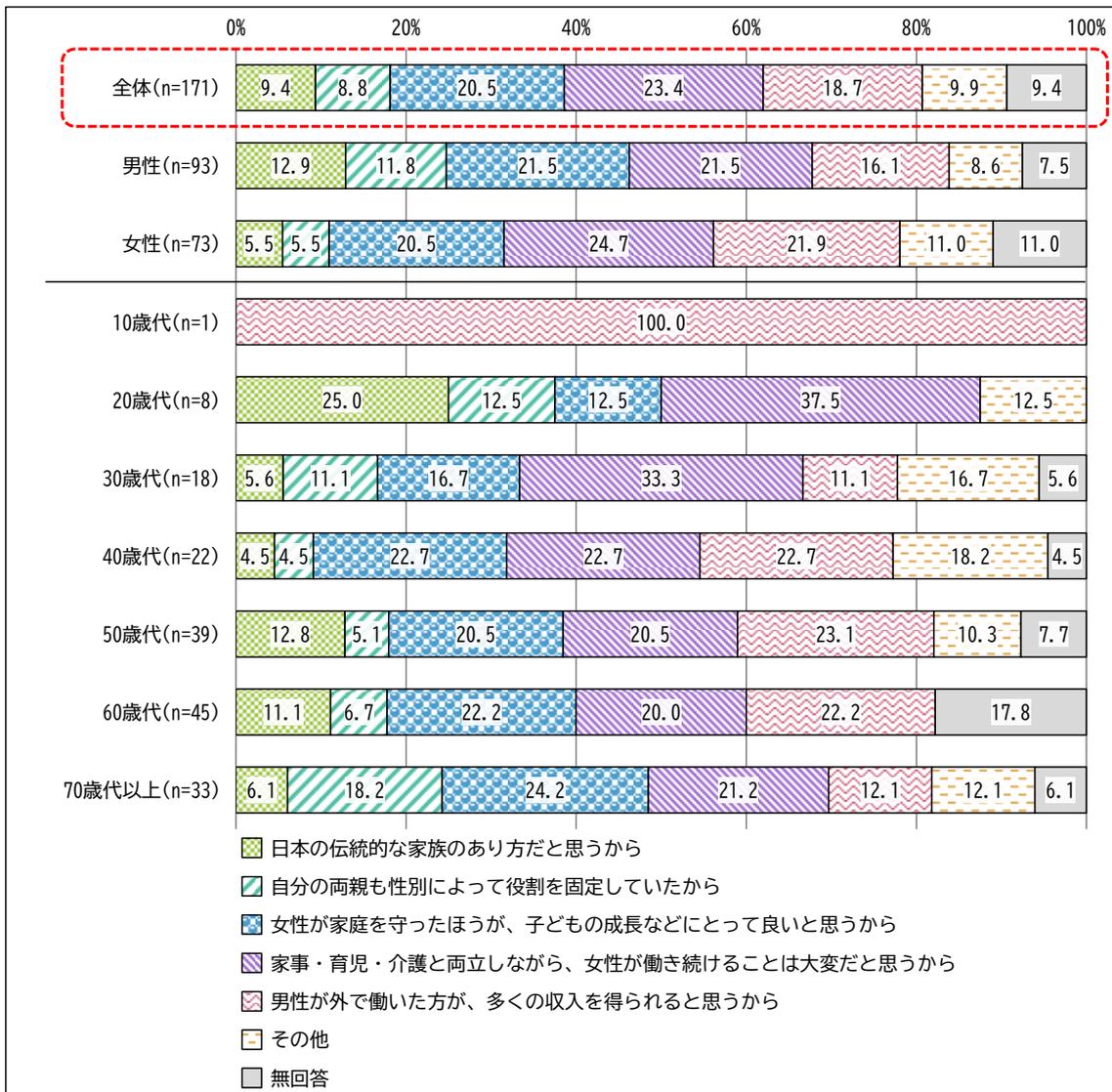


問11-1 それはなぜですか。(単数回答)

- 固定的な性別役割意識に『同感する』理由については、「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」が23.4%と最も高く、次いで「女性が家庭を守ったほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから」20.5%、「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」18.7%となっています。
- 性別でも、男女ともに「女性が家庭を守ったほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから」「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が上位を占めています。



### 【性・年代別】



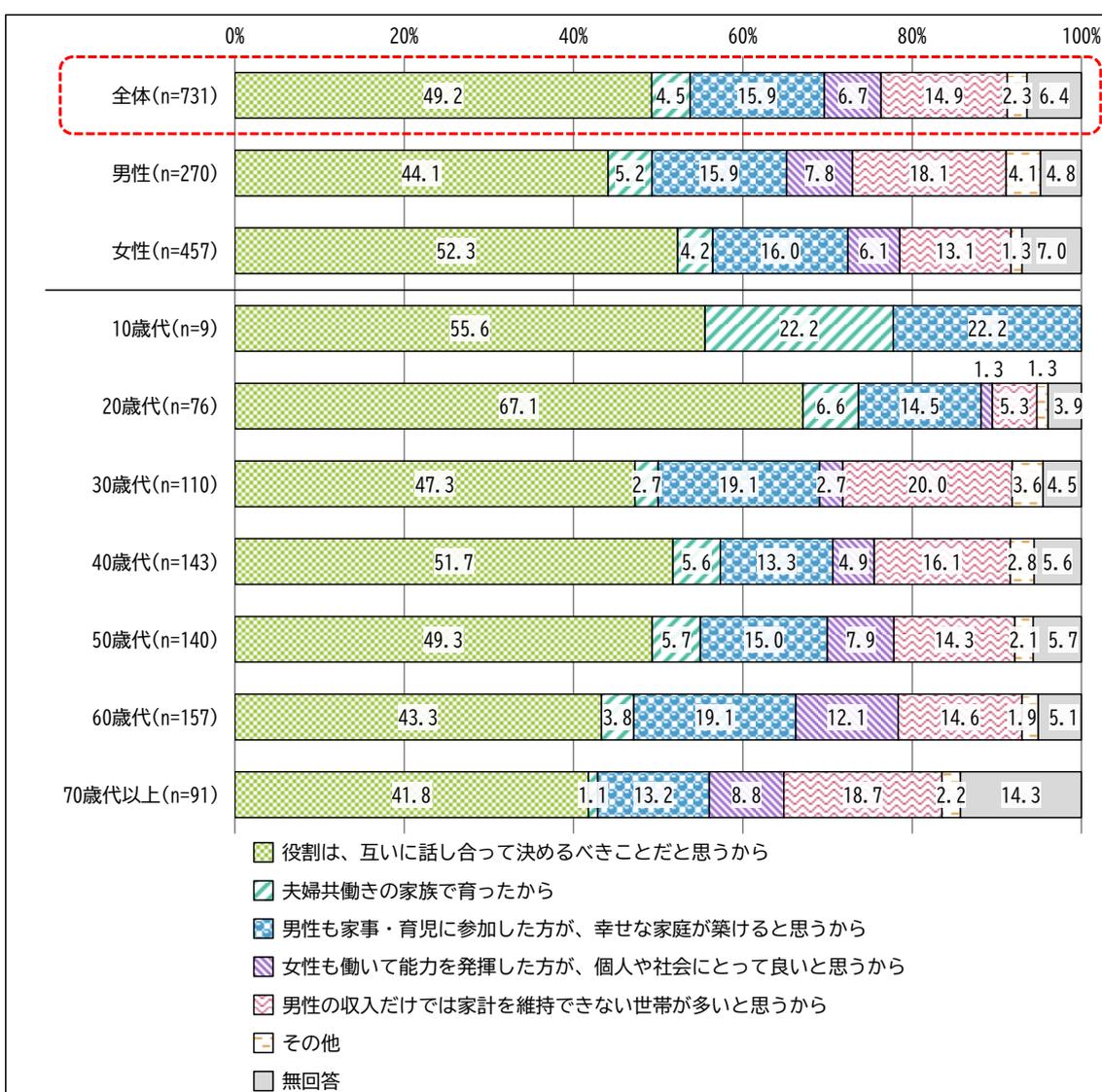
○年代別については、サンプル数が少ないため参考程度。

■問 1 1 - 1 「その他」の具体的な意見

年齢	性別	その他
20 歳代	男性	少子化対策のため
30 歳代	男性	時代に合わせる
	女性	生物的に向き・不向きがあるから。男性は女性よりも育児に本能として対応できないこともある（夜中起きれないとか）。女性は筋力で生物的に男性よりは少ないので、力仕事に向いていないなど。 今がそういう現状だから。
40 歳代	男性	男性の体は生命体として使い捨てである。
	女性	ずっと自宅も疲れる。外で働きたい。
		性差に適していない役割や仕事を無理してやる必要はないと思うから。
		男性と女性の能力や適正が違うから。
それぞれの性別によって特性としての得意不得意があることは否定できないと思うから。強制されたり、当てはまらない人を否定する社会でなければ良いと思う。		
50 歳代	男性	体の作り、その他特性を活かしたり、補うようお互い協力すべき
		母性 = 家庭だと思う
	生物学的に、動物学的に	
	女性	主婦業をしたいと望む人もいると思う。
70 歳代以上	男性	神様がそう作ったから。
-	-	女性は妊娠すれば産後 1 年（母乳等）ぐらいまで実質的に仕事ができない期間があるため

問11-2 それはなぜですか。(単数回答)

- 固定的な性別役割意識に『同感しない』理由については、「役割は、互いに話し合っ  
て決めるべきことだと思うから」が49.2%と最も高く、次いで「男性も家事・育  
児に参加した方が、幸せな家庭が築けると思うから」15.9%、「男性の収入  
だけでは家計を維持できない世帯が多いと思うから」14.9%となっています。
- 性別でも、男女ともに「役割は、互いに話し合っ  
て決めるべきことだと思うから」が最も高くなっています。
- 年代別で見ると、どの年代も「役割は、互いに話し合っ  
て決めるべきことだと思うから」が最も高くなっています。また、10歳代  
では「夫婦共働きの家族で育ったから」が2割を超えており、他の年代と  
比べて高くなっています。

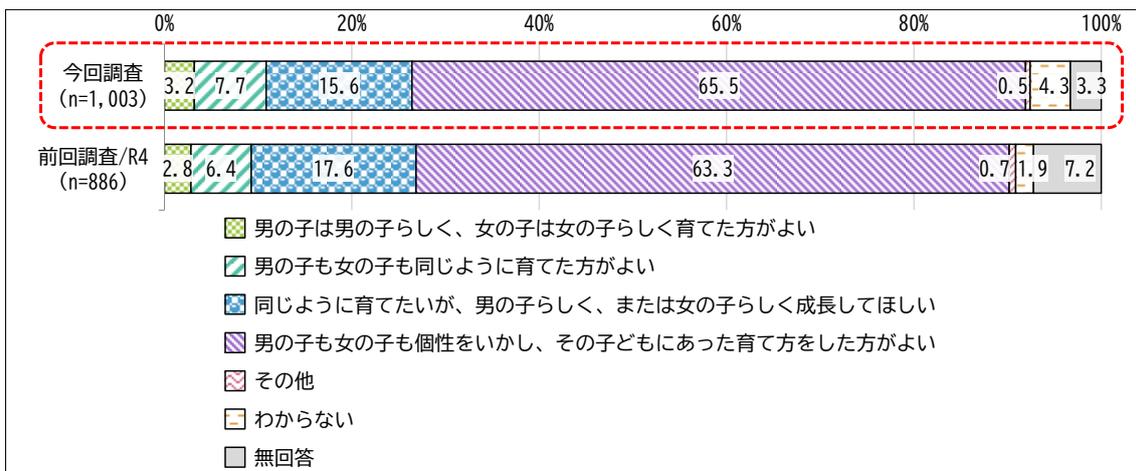


■問11-2「その他」の具体的な意見

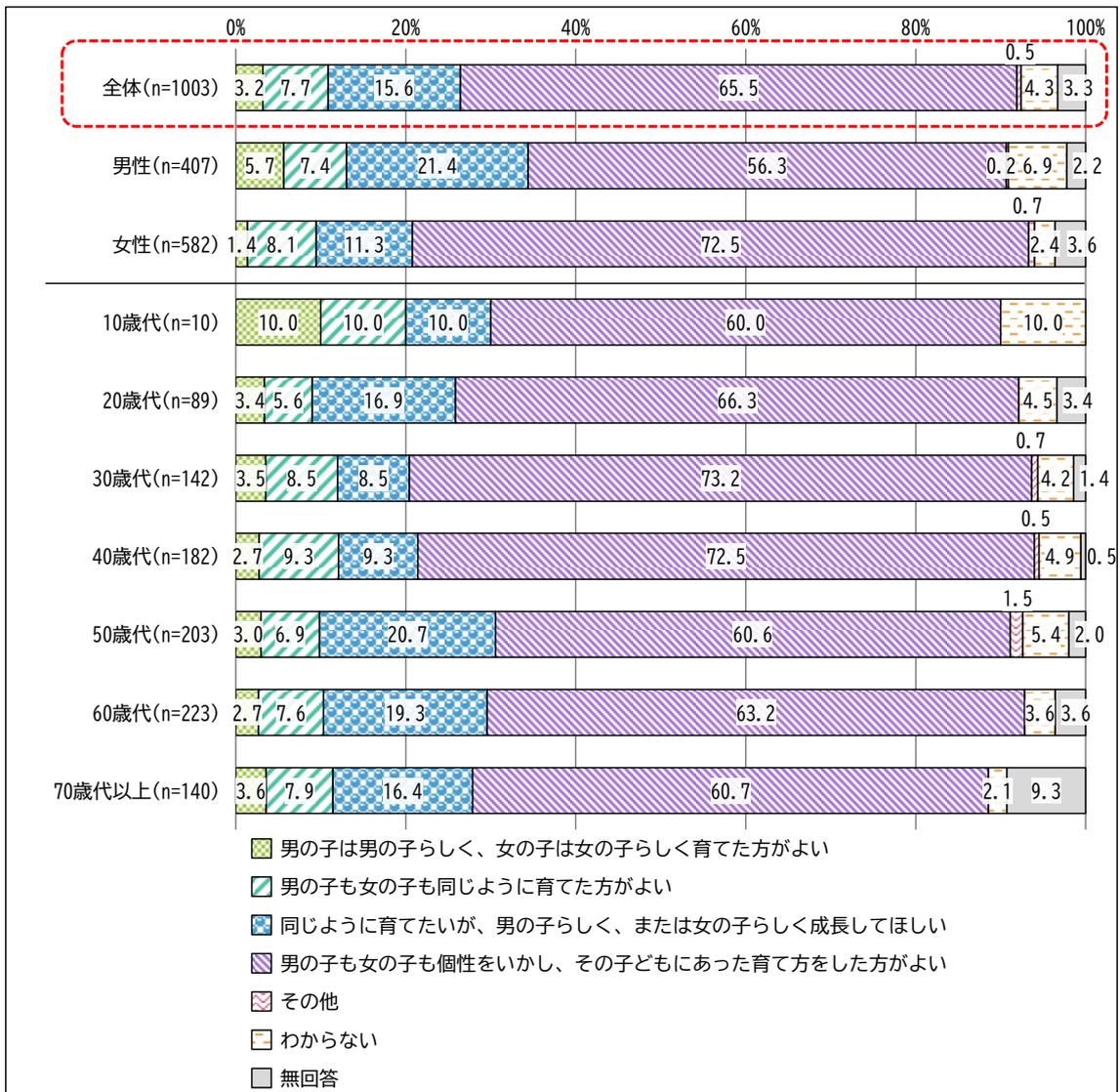
年齢	性別	その他
20 歳代	男性	共働きの方が男女共に仕事と家庭両方に携われるから
30 歳代	男性	「男は仕事、女は家庭」なんて考え方は古臭いし、クソ食らえだ。 (言葉が悪くてすみません。)
		時代に合わせるべき
	女性	お互い向き・不向きがあるから、「男は家庭、女は仕事」の場合もあるから。
		昔の考えが根強すぎて不平等すぎる。未だに男は仕事、女は家庭だと思っている男が多すぎて、全く家や子どものことに協力的じゃない。
40 歳代	男性	この言葉を使うこと自体がおかしい。話し合っ決めてとかではなく、自然にどちらかがすればいい。
		役割を固定する意味がない。出来る人がやればよい。
	女性	得意な方が家庭の役割を果たすと全てが私の負担になるから
		個人の性格に合った特性と互いの話し合いによる歩みよりと思う。
50 歳代	男性	得意な方が優先してする。
	女性	男性・女性を問わず、一人一人が自立する事が良いと思うから。
		女が仕事して家事をするのが当たり前と思わないから。
60 歳代	男性	どうして性別によって役割を分担するのか？
		男も家事すべき
		別に決める必要はないと思うから。できる人がやれば良い。
70 歳代以上	男性	共に年金を受給しており、無理に働く必要がない。

## 問12 あなたは、子どもの育て方についてどのように考えますか。(単数回答)

- 子どもの育て方に対する考え方については、「男の子も女の子も個性をいかし、その子どもにあった育て方をした方がよい」が65.5%と最も高く、次いで「同じように育てたいが、男の子らしく、または女の子らしく成長してほしい」15.6%、「男の子も女の子も同じように育てた方がよい」7.7%となっています。
- 性別でみると、男性は女性と比べて「同じように育てたいが、男の子らしく、または女の子らしく成長してほしい」が高く、「男の子も女の子も個性をいかし、その子どもにあった育て方をした方がよい」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 年代別でも、どの年代も「男の子も女の子も個性をいかし、その子どもにあった育て方をした方がよい」が最も高く、特に30～40歳代では7割を超えています。



【性・年代別】



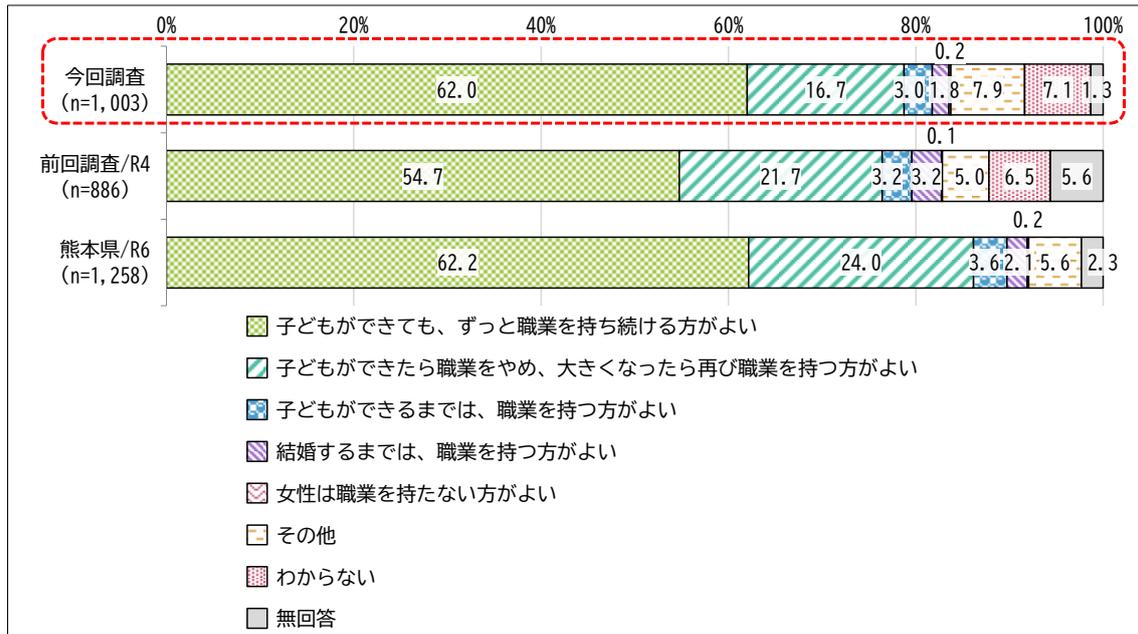
■問12「その他」の具体的な意見

年齢	性別	その他
30歳代	女性	基本的に男は男、女は女という枠はあった方がよいが、性同一性障害などもあるため、臨機応変に対応する。
40歳代	女性	子どもはいない。
50歳代	男性	愛情を注ぐだけ、好きなように育つ。
	女性	人として尊重し、心を育てたい。

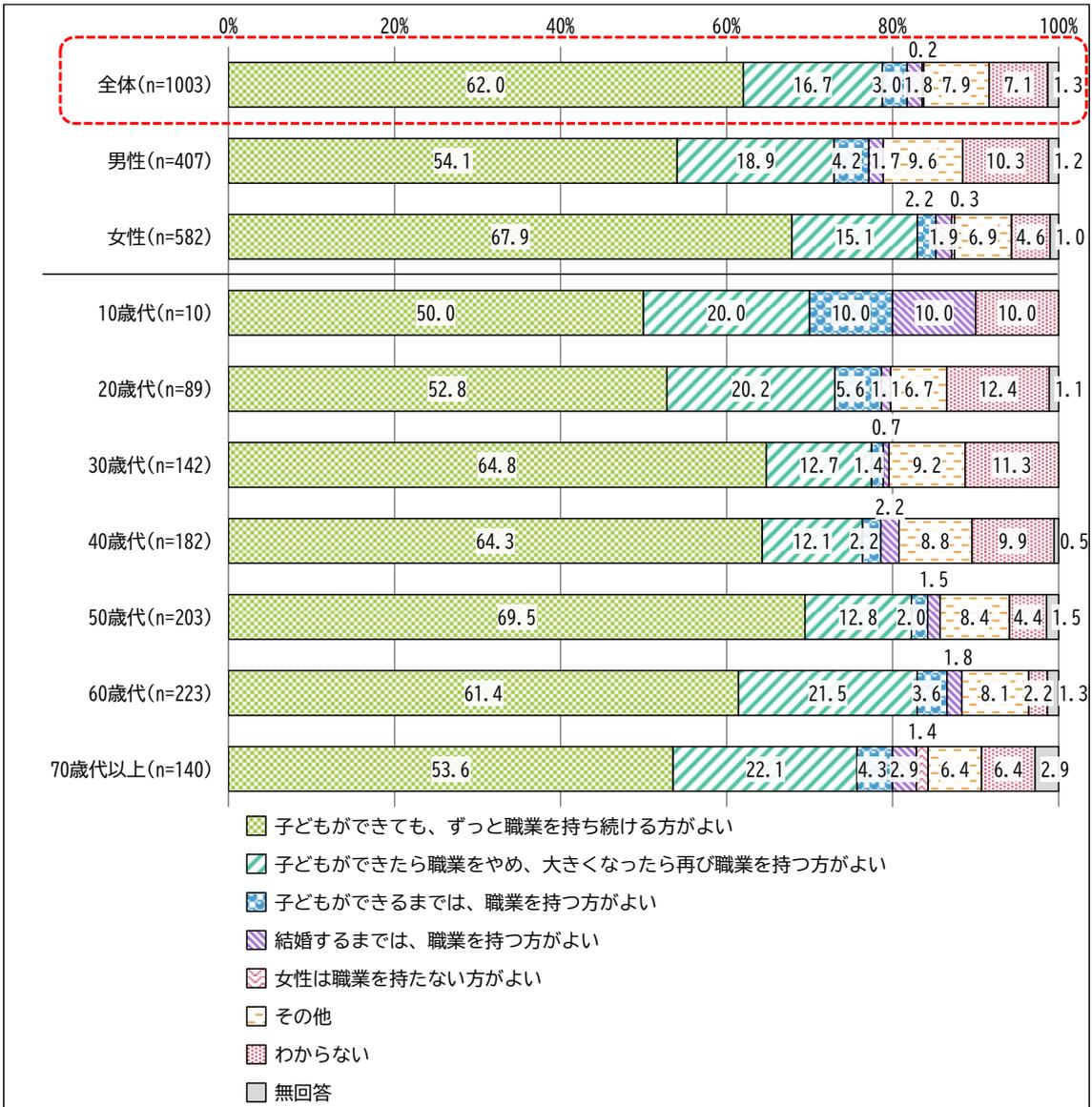
## 4. 女性の働き方や社会参画について

### 問13 あなたは、女性の働き方についてどのように考えますか。(単数回答)

- 女性の働き方における考え方については、「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が62.0%と最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」16.7%、「その他」7.9%となっています。
- 性別でも、男女ともに「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が最も高く、女性は男性と比べて13.8ポイント高くなっています。
- 年代別でも、「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が最も高く、30～60歳代では6割を超えています。



【性・年代別】



■問13「その他」の具体的な意見

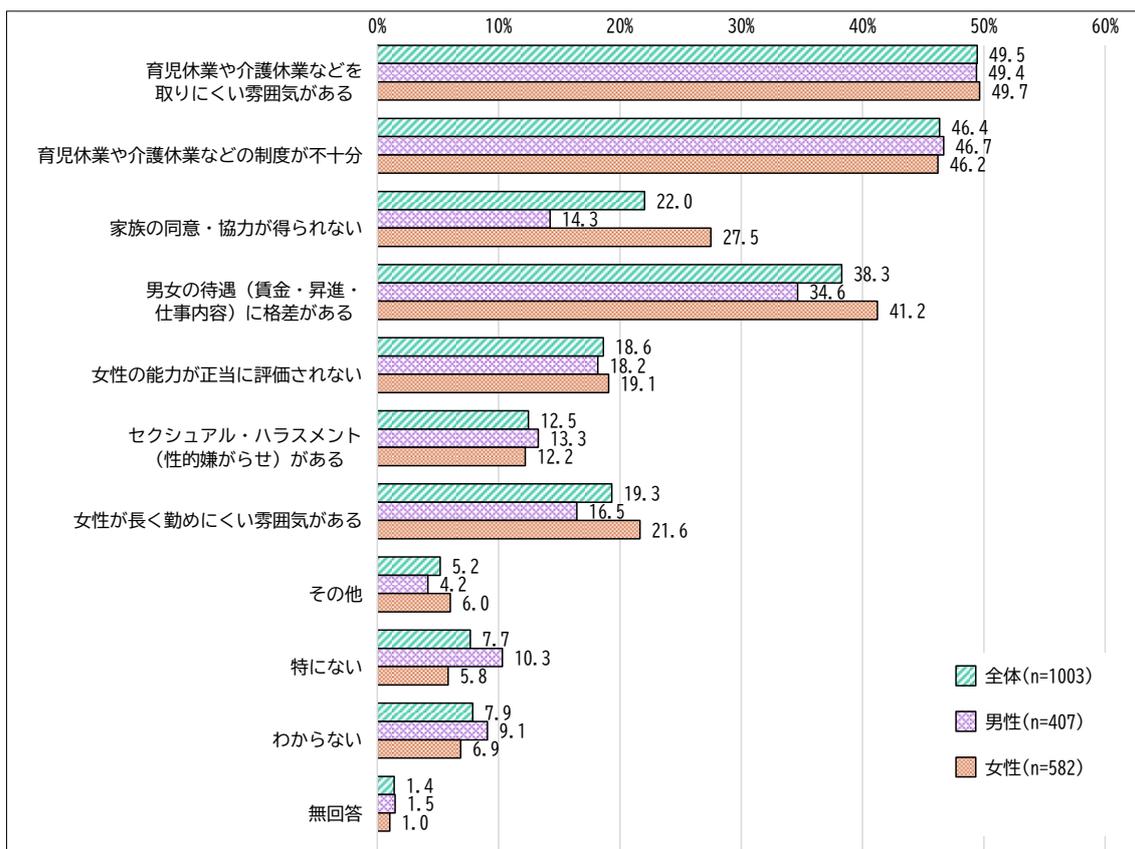
年齢	性別	その他
20 歳代	男性	本人の意思次第
		自分に合った働き方をするのが一番
		基本的には職業を持つが、状況に応じて一時的に辞めたり、時間を短縮したりする方がよいが、これは男性でも同様である。
		個人の好きなようにすればいい。
		その人の好きなようにすればよい。
		子どもができたら、リモート等の子どもが目に入る範囲での職業を持てるとよい。
30 歳代	男性	本人次第
		人による
		働きたい時に働けたら良い。
		その人その人の考え方でいいと思う
	女性	その時々で仕事につけるとよいと思う
		本人の好きにしたら良い
		本人が希望する働き方を選べるのがよい
		本人の希望であればそれで良い（どのような働き方でも）
		その時の状況によるものだと思う
		個人が子どもを産めるかどうか、つきたい職業があるか無いかなどで大きく変わるため、女性という括りで答えられません。私は差別に感じました。この質問を作るなら男性もあった方がよいのではないのでしょうか？
		子どもや結婚関係なく、自分がやりたい職業を選択できるとよい
		自分の思うように働けばいいと思う
その時の状況に合わせて選択できた方がよい		
40 歳代	男性	本人の好きにしたら良い
		働きたい時に働けば良い。
		それぞれの考えにあった働き方ができると良い
		その人が出来るタイミングで働けばよい。
		規模の大小に関わらず、企業が柔軟に対応すべき。
		男性でも女性でも、お金が欲しいと思ったら働けばいい。
	女性	個人の考えを尊重すべきであって、女性だからといった考えは持つべきではない。
		その時の状況や環境に応じたら良い
		その時の環境で異なるのではっきり言えない
		その時の状況によって人それぞれ違うと思う。働きたくても働けない、働きたくなくても働かないと生活できないなど、いろいろだと思ふ。
家庭のスタイルに合わせて柔軟に変化できるものでありたいと思ふ。		

年齢	性別	その他	
		本人がやりたいならやればいいし、家庭や育児に力を入れたいならそれでいいし、各々の考えで自由にやれる世の中になればいいと思う。自分が病気したり、子どもに集中したりできるような仕事をやらなくても、安心して生活できればいいと思う。	
40 歳代	女性	そのような状況になった時に自分のやりたい選択ができる環境であれば良い	
		希望できるようであれば良い。←この選択肢がないことが残念。	
		その女性の環境や価値観で決めるべきだと思う	
50 歳代	男性	その女性毎の考えが尊重されて実現できる社会であれば良いと思います	
		自分にとって大切な仕事に巡り会えるかどうかです。	
		置かれた状況の下、夫婦間で最善の選択肢を選べば良いと思います	
		人それぞれ	
		本人の自由「～がよい」「～がいけない」のくくりが？	
	女性	女性だと必ず子どもをつくる、結婚するという質問がおかしい！どちらも出来ていない女性は働くな！という事でしょうか？（職業をもつな）	
		個人の自由では	個人の考えで良い。
		子どもがいてもいなくても個の考え次第で生活能力に応じて	
		状況に応じて選択できる方が良い	
		それぞれの家庭環境があるため、家族や本人が納得する形を企業側でも理解と協力をお願いしたい	
		家庭の事情、考え方等によりその夫婦や家庭にあったやり方が良い	
		自分が納得できる働き方をすれば良いと思う。	
		職業を持つ・持たないではなく、子どもができたら関わりたい年齢まで子育てをして、その後仕事に復帰してもいいと思う。ただその時働ける環境は大事だと思う	
		子どもが小さい間は一緒にいてあげたいが、収入が少なく、生活苦やキャリアを重視する人は働いた方がよい。人それぞれ。	
60 歳代	男性	個人の自由	女性のスキルによって
		家族によって違う	それぞれの家庭次第
		女性だからどうこうということではない。	
		パートナーの意思を尊重します。	
		職業を持つ、持たないは自由である	
		本人の意志にまかせる	
	女性	可能な限り好きなように。	会社による
		仕事をするかしないかは、本人が決めること	
		子どもを産み育てるのも親と子どもの貴重な時間だと思います。自分の後悔から、仕事ができる環境になってから職業を持つ方がいいと思います。	

年齢	性別	その他
		家庭と仕事が両立出来るのであれば、仕事を続けた方が良いと思う。
		自分のペースでやることをする
		自分の意志で決めたらよいと思う。働きたいなら働いてもいいし、本人の気持ちを尊重する。
		その時の状況次第で個人次第？
70 歳代以上	男性	産休後、体調次第で職に就く
		結婚、育児で仕事をやめる事はない。共働きしないと経済的に負担が大きい現実がある。
		家事も働きだと考える。それぞれ、その人の生き方だと思う。
		その女性の考えを尊重する。
	女性	女性の職業が何であるかにもよるし、女性の考え方も 1 人 1 人違うので、それぞれの夫婦が話し合っ決めて決めることだと思う。
		結婚して夫の収入だけで生活できる余裕があれば、家庭に専念しても良いと思う。理由：子どもができてからのこと、病気をしやすいし、家に親が居る安心感が持てる。
		生活の為に、子どもを育てるのにお金は必要

問14 あなたは、女性が職業を持ち続けるうえでの問題は何だと思いますか。  
(複数回答)

- 女性の就業継続を妨げる要因として、「育児休業や介護休業などを取りにくい雰囲気がある」が49.5%と最も高く、次いで「育児休業や介護休業などの制度が不十分」46.4%、「男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある」38.3%となっています。
- 性別でも、「育児休業や介護休業などを取りにくい雰囲気がある」「育児休業や介護休業などの制度が不十分」「男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある」が上位を占めています。また、女性は男性と比べて「家族の同意・協力が得られない」が13.2ポイント高くなっています。



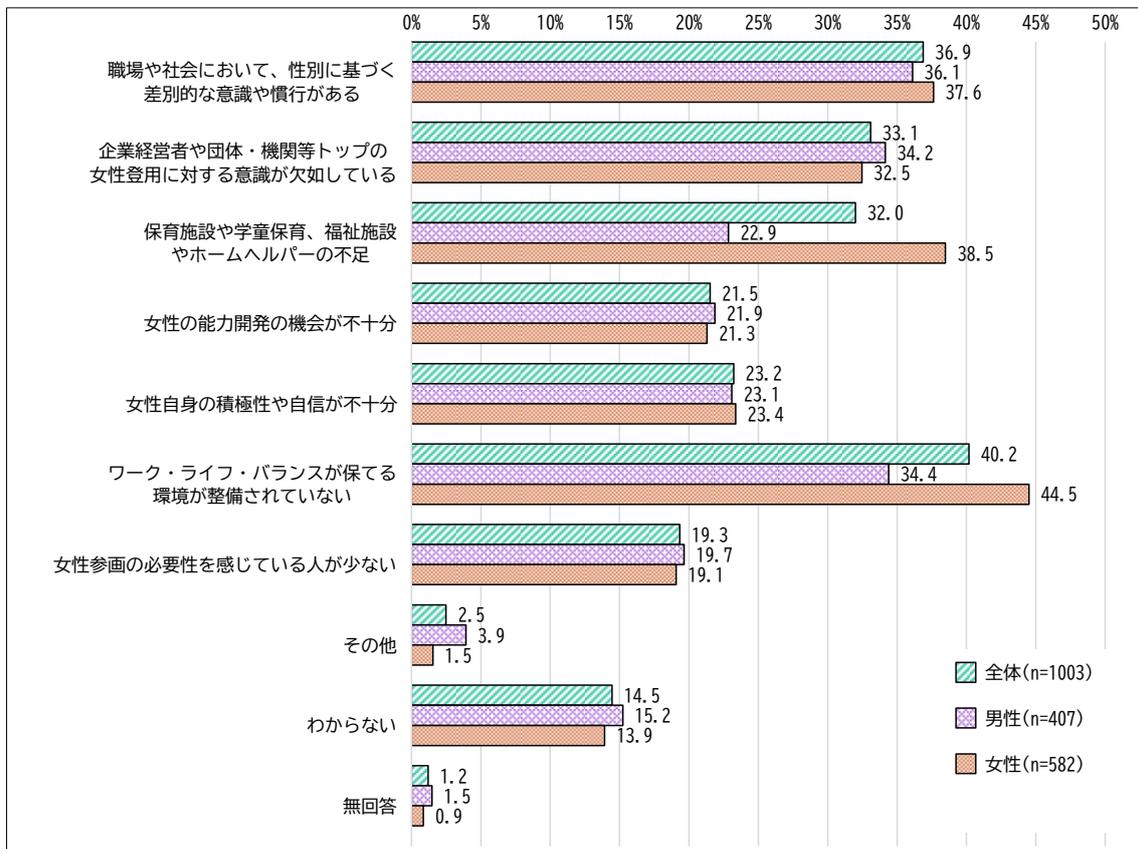
■問14「その他」の具体的な意見

年齢	性別	その他
20 歳代	男性	育休後、職場復帰しても従前のポジションに居づらい(法整備されているとはいえ、育休中は誰かに仕事の躰寄せがいくため)
		保育園への入園が困難なため、十分な育児休暇を取らないまま復帰する必要がある。
	女性	産休、育休中、給料が減ること
		男性の職場の理解がなく、女性に負担がかかる
		育休などはあっても、その後、発熱時などの対応は母親がする場合が多いため、職場に迷惑をかけるという負い目がある。
30 歳代	男性	時短勤務などの制度が浸透していない
		子どもの為の休みをとると、批判される。
		男性の育児休暇・介護休暇が取りづらい雰囲気がある為、女性が取らざるを得ない
		男性側の育児休業や介護休業が現実的に不可能であること
	女性	子どもが発熱の時のお迎えは女性が行くなどといった思い込み、雰囲気がある
		育児短時間勤務が6才までしか使えない。小1から小3ぐらいまでは手がかかるのに、フルタイムにならなければいけない
		子どもを産む時に働けないので、収入が安定している男性に合わせて引っ越しがあったり、職場の理解が無いことが多い。仕事をしていると男女共に仕事は簡単に休めない。
		お金は必要。育休明けの賃金補助もあると住みやすい。
		子どもの熱の時に帰るのが、周囲に対し申し訳ない
		物理的にフルタイムで子どもに寄り添う働き方ができない
		子の病気で休んだりするのは結局女性がしている。男性側の会社に理解がないので、結局女性が仕事も育児も家事もすべて負担していると思う。
		子どもの看護などで休暇が取りづらい
		給料が入らなかったり、減ってしまう。産んだらできるだけ家で育てたいと思うが、お金が出ないためやめるしかない。
		育児休業や介護休業とは別で、フレキシブルな勤務体制が必要であると思う
		休みが取りにくい。残業が多い。
		家事と育児と仕事をするのは体力的にきつい
		子どもの突発的な休みに対応しにくい空気がある
		子どもが体調を崩すと女性が休むことが多いから、保育園内に病児保育を入れてほしい(あるところが少ない)。体調を崩した時だけ預けるのは本人の負担だから、なるべく慣れたところに預けたい。
		小さい子どもがいる母親が早退・欠勤すると陰口や悪口が聞かれる

年齢	性別	その他	
40歳代	女性	夫の協力	家事の負担が大きい
		中小企業は制度が不十分に感じる	
		子どもの病気などで欠勤を気にする。	
		男性の家庭への参加できる環境整備	
		子どもの急な対応をするのは現状母親が多いため、その時夫も同じように対応できるようになれば負担は半々になる。会社のフォローの仕組みも整っていかないと、安心して子育てと仕事を両立できない。会社の仕事に負担が多いと子育てでも大変な時に余裕なくなる。	
50歳代	男性	女性自身の仕事に対する意識	保育の充実
		育児に対する社会の意識改革が進んでいない。	
		選択肢がなさすぎる。他の国を見習うべきでは？	
		企業、事業主等の女性に対する思いが薄い	
	女性	体力的に家庭（育児）と仕事を両立できない。	
		仕事と家庭の両立が難しい。家庭を優先すると職場の同じ部署の人に迷惑をかける。	
		子どもがいる場合、子どもに接せる時間が減る（特に幼少期）	
		子育て（少子化）のみに焦点が当たっている。職業（場）によってのちがひ	
60歳代	男性	女性自身が昇進を避ける傾向がある	
		女性自身が外で働いて人に命令される事でイヤな思いをしたり体力的にキツイ思いをするより、家に居て家族をコントロールして指示した方がよいと思う人が多い気がする。（バカな男を働かせて管理する賢い女性が多い）	
		女性の仕事への意識、取り組み方（私は女性だから）	
		休業補償と企業の減税優遇処置	
	女性	子育て	
		子どもが病気等で、職場にも迷惑をかけ職場も休まれて困るから。	
		出産後、子供の病気等、預かってくれる所がない。保育園からすぐ電話がある。身内も高齢となれば尚更。頼れる人も限られる。2人目、3人目などあり得ない。	
	70歳代以上	男性	生活が出来ない
女性		男性も女性も人それぞれなので、出来るものがすれば良い。男性の協力は少ないと思う。	

**問15 あなたは、政治や行政、企業などのさまざまな分野において、管理職等への登用など企画や方針決定の場に女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。（複数回答）**

- 企画や方針決定の場に女性の参画が少ない理由については、「ワーク・ライフ・バランスが保てる環境が整備されていない」が40.2%と最も高く、次いで「職場や社会において、性別に基づく差別的な意識や慣行がある」36.9%、「企業経営者や団体・機関等トップの女性登用に対する意識が欠如している」33.1%となっています。また、「保育施設や学童保育、福祉施設やホームヘルパーの不足」も3割を超えています。
- 性別でみると、男性では「職場や社会において、性別に基づく差別的な意識や慣行がある」、女性では「ワーク・ライフ・バランスが保てる環境が整備されていない」が最も高くなっています。また、女性は男性と比べて「保育施設や学童保育、福祉施設やホームヘルパーの不足」「ワーク・ライフ・バランスが保てる環境が整備されていない」が10ポイント以上高くなっています。



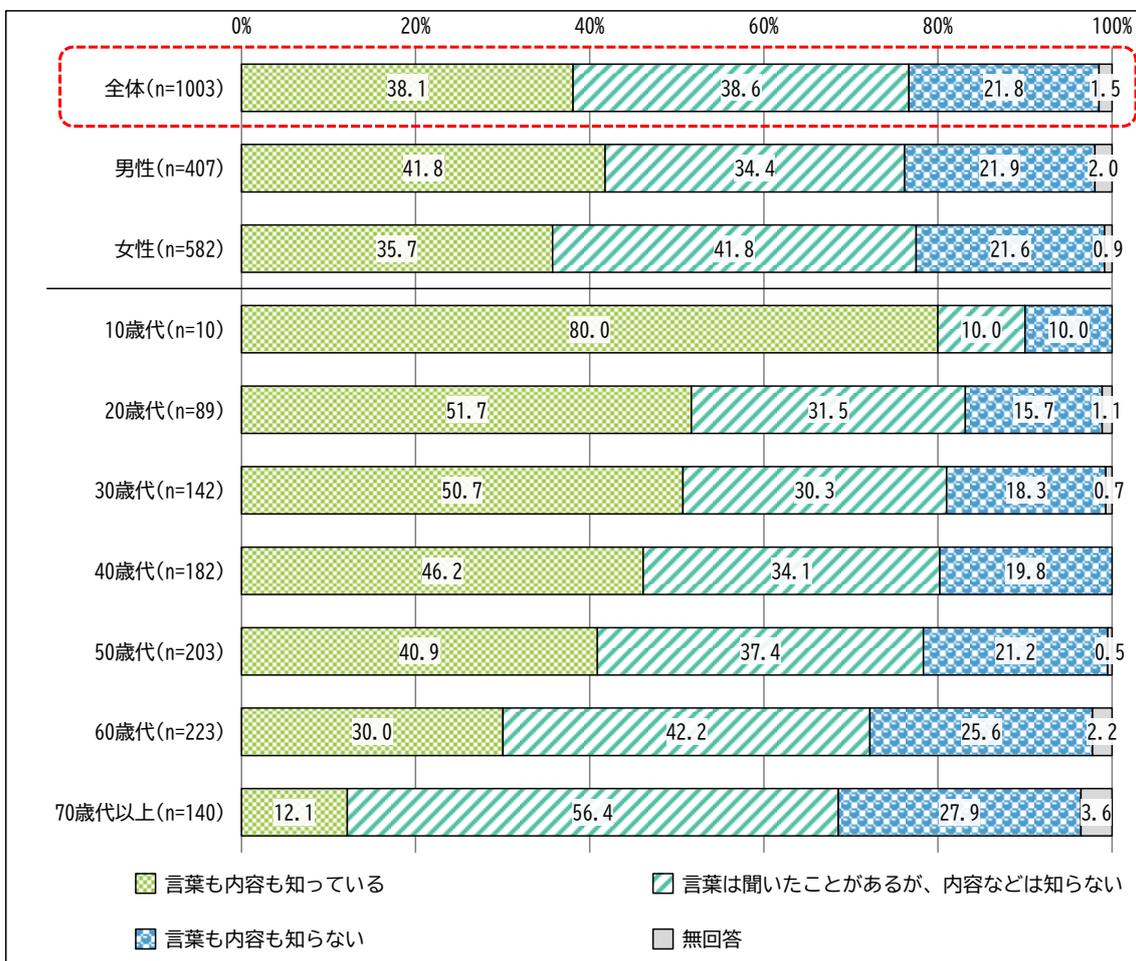
■問15「その他」の具体的な意見

年齢	性別	その他
30 歳代	男性	人によると思うが、女性と男性を比べたら、男性の方が管理職に向いている能力が高い為だと思う
	女性	何を基準にされているのですか？管理職ではどこからどこまでですか？それが分からないと答えられません。女性は多いと思います。
40 歳代	男性	経営や社会活動の運営を真剣にやろうと思う時、子どもを産む点、生理的な問題があり、持続的、体力的、継続的な点を考えたときに体のつくりが違うので仕方ない。
		前例が、「自分では同じようにできない」と感じるケースなのかもしれない。
	管理職適正が高い人が少ない。家庭を支えている人が多く、管理職になりたい女性の数も少ない。	
	女性	女性は性質上、集団のトップに立てる要素はあまりない。利己的で考えが小さい。 女性に比べ、男性は権力や肩書き重視で判断する傾向があると思います
50 歳代	男性	共感を主とする女性が多いから   国自体が問題では？
		管理職が如何なるものかという認識からの判断
		古い人間が上にいる会社はダメ。若い人間を上にあげるべき。
	女性	能力のある女性の人材が少ないから
		日本は女性が子どもを産んでからのライフステージが、上手く組み立てにくいと思う
		女性で長く勤めている人が少ない 出産して子育て優先の母親が多い為
60 歳代	男性	間いがかしいと思う
		管理職や企画方針決定には責任が伴い、忙しくなると思うから
		現在までの社会が男性社会だから、いくらがんばっても女性はむくわれない。
	個人能力の評価基準を明確にすること。	
女性	女性のやる事が多すぎる。男性は気づきが悪い。	
70 歳代以上	男性	人を育てること。女性の人材育成やプログラム・モデルの実践

## 5. ワーク・ライフ・バランスについて

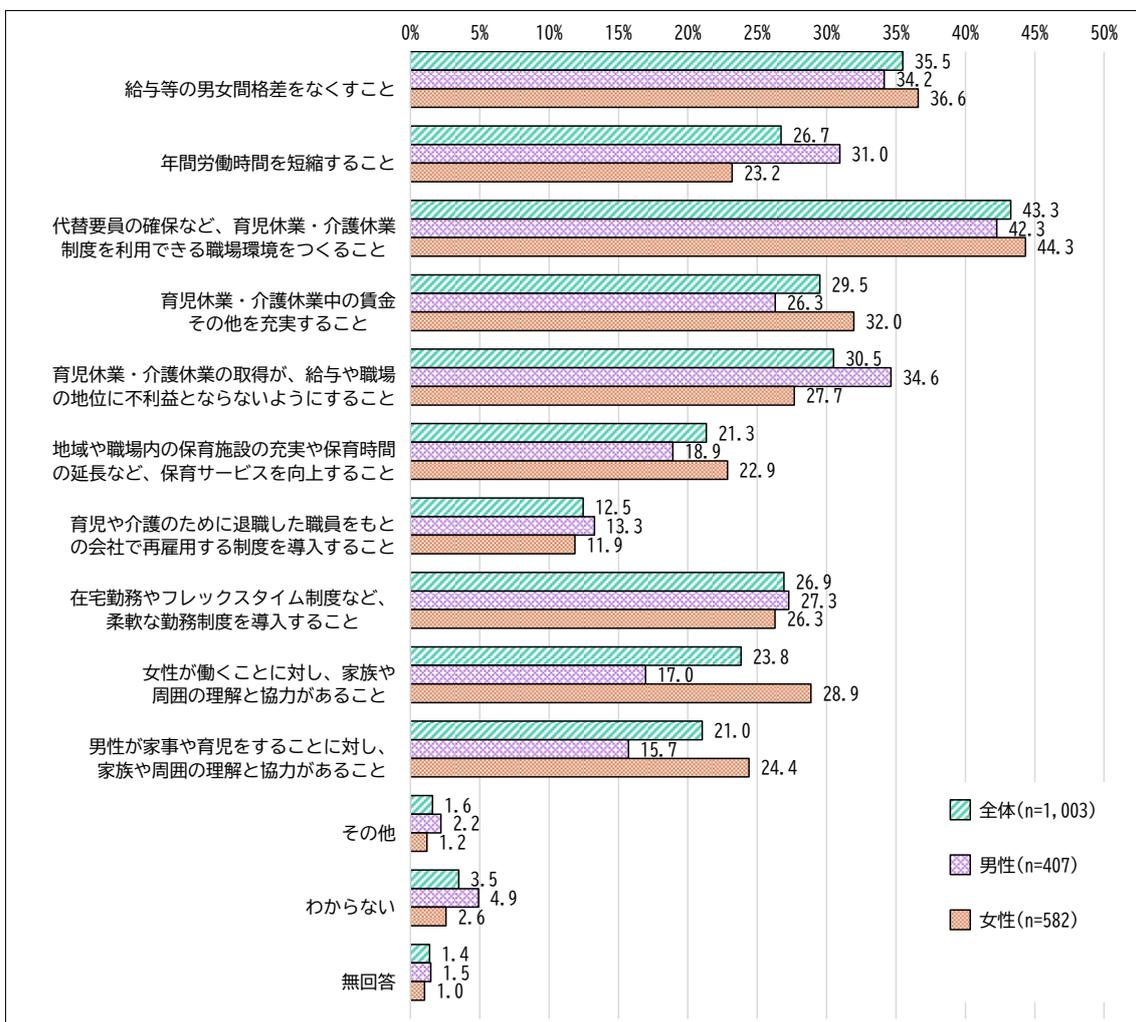
### 問16 あなたは、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）という言葉をごどの程度知っていますか。（単数回答）

- 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度については、「言葉は聞いたことがあるが、内容などは知らない」が38.6%と最も高く、次いで「言葉も内容も知っている」38.1%、「言葉も内容も知らない」21.8%となっています。
- 性別で見ると、男性では「言葉も内容も知っている」、女性では「言葉は聞いたことがあるが、内容などは知らない」が最も高くなっています。
- 年代別で見ると、50歳代までは「言葉も内容も知っている」、60歳代以上では「言葉は聞いたことがあるが、内容などは知らない」が最も高くなっています。また、年代が高くなるにつれ「言葉も内容も知っている」が低く、「言葉も内容も知らない」が高くなっています。



問17 一般的に、男女が共に仕事と家庭の両立をしていくためには、どのような条件が必要だと思いますか。(複数回答)

- 男女が共に仕事と家庭の両立をするために必要な条件については、「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が43.3%と最も高く、次いで「給与等の男女間格差をなくすこと」35.5%、「育児休業・介護休業の取得が、給与や職場の地位に不利益とならないようにすること」30.5%となっています。
- 性別でみると、男女ともに「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が最も高くなっています。また、女性は男性と比べて「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が11.9ポイント高くなっています。



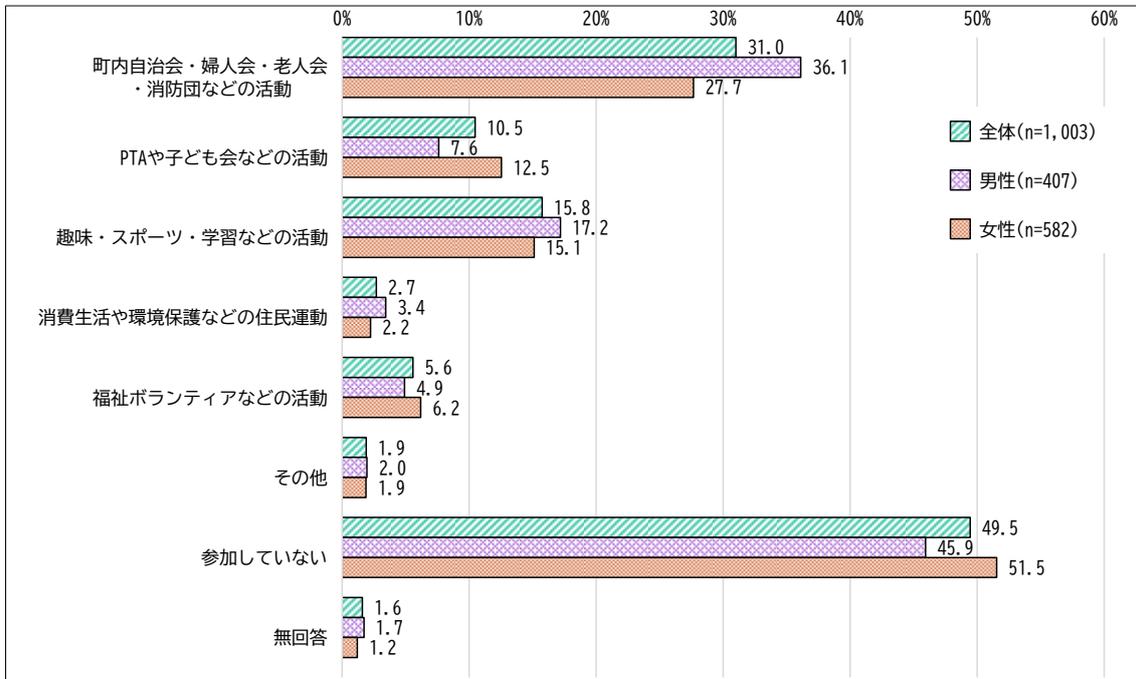
■問17「その他」の具体的な意見

年齢	性別	その他
30 歳代	男性	両立は必要無いと思う。男性・女性関係なく、給料が高い方が仕事に集中し、給料が低い方が子育てや家事を行うと効率が良いと思う
	女性	育児短時間勤務を子が12才になるまでに教員も延長してほしい。小学生こそ手がかかります。私の両親も夫の両親も遠方ですぐ頼れないので、私（母）の負担が大きい。
		賃金が上がること（2人とも）。どの分野のどの職場でも再雇用や中途雇用をすること（しやすくすること） 給与の根本的な底上げ、社会全体が未来を見据えて課題解決に取り組めるよう働きかけることが必要
40 歳代	男性	再雇用のある環境   ストレスなく仕事ができること
		国民負担等（税制、社会保障費）を圧倒的に軽減する。これ以外ない。生活に余裕が生まれれば解決する。仕事したくない女性もいる。うちの妻はそう。政府の失敗が20数年続いている。これが問題。
	女性	そもそも家事に対する男性のやる気。
		企業側も社員の家庭環境を理解し柔軟に対応できるような社会の仕組みを作ること。
50 歳代	男性	男性、女性と論ずる事自体に違和感を感じる
		上記の10条件の必要性が理解されているのに、実現が？マーク
	女性	ここに書いてある、すべての条件が必要だと思います 夫婦共働きしないと生活が苦しい家庭ばかり。一方だけの収入でも生活が出来る様にしない限り、本当の意味でも両立は成立しない。
60 歳代	男性	女性が子どもを産まない事。将来人類は滅びるが、両立はする。または、女性が子どもを産んだ後は、全て男性か、社会全体で子どもを育てる。
		必要無い

## 問18 あなたは、現在地域の活動や行事に参加していますか。(複数回答)

○地域活動等への参加状況については、「参加していない」が49.5%と最も高く、次いで「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」31.0%、「趣味・スポーツ・学習などの活動」15.8%となっています。

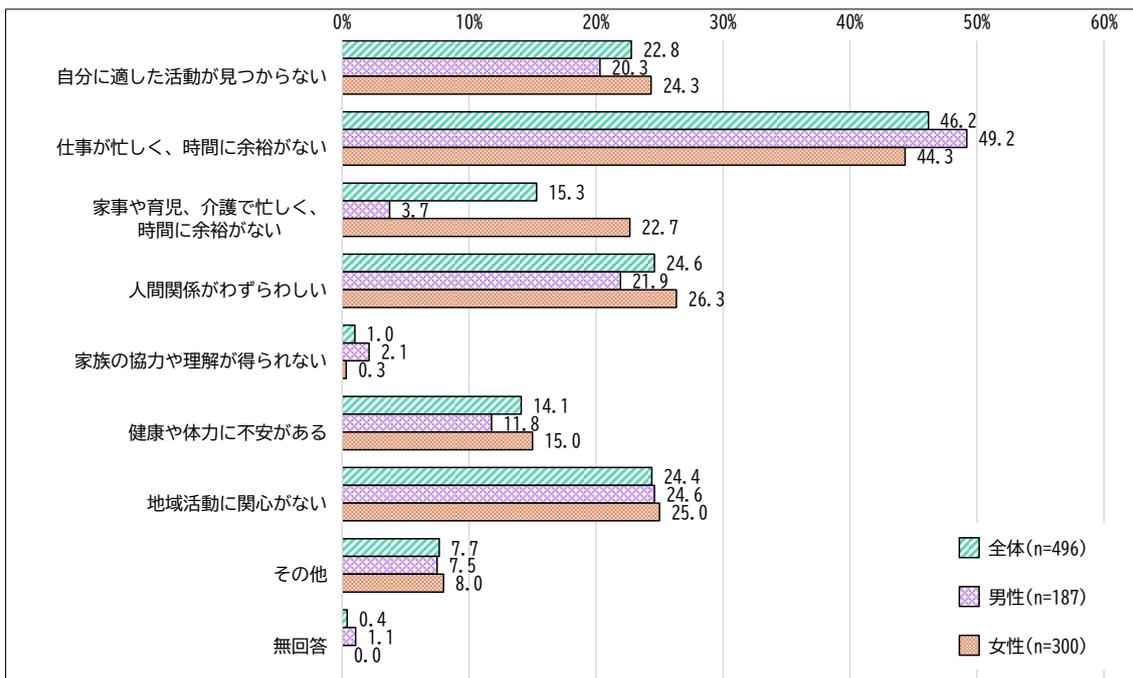
○性別でみても、男女ともに「参加していない」が最も高くなっています。



【問18で「7. 参加していない」と答えた方のみ】

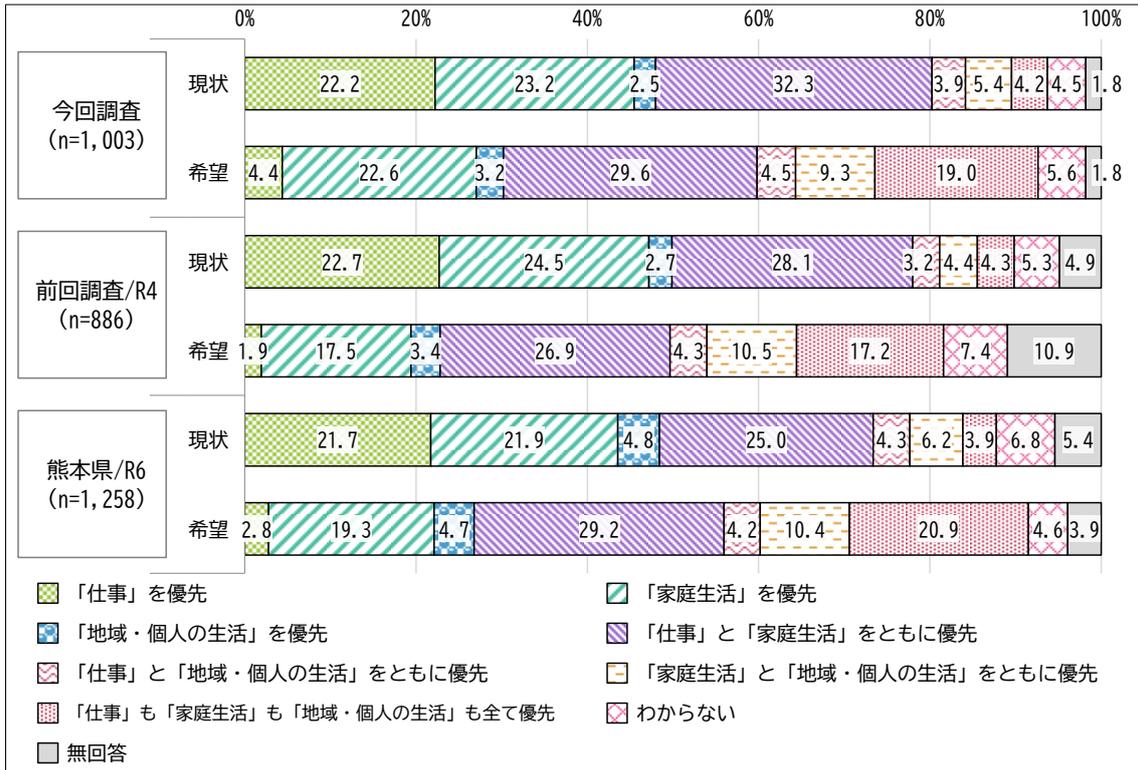
問18-1 それはなぜですか。(複数回答)

- 地域活動等に参加していない理由については、「仕事が忙しく、時間に余裕がない」が46.2%と最も高く、次いで「人間関係がわずらわしい」24.6%、「地域活動に関心がない」24.4%となっています。
- 性別でも、男女ともに「仕事が忙しく、時間に余裕がない」が最も高くなっています。また、女性は男性と比べて「家事や育児、介護で忙しく、時間に余裕がない」が19.0ポイント高くなっています。



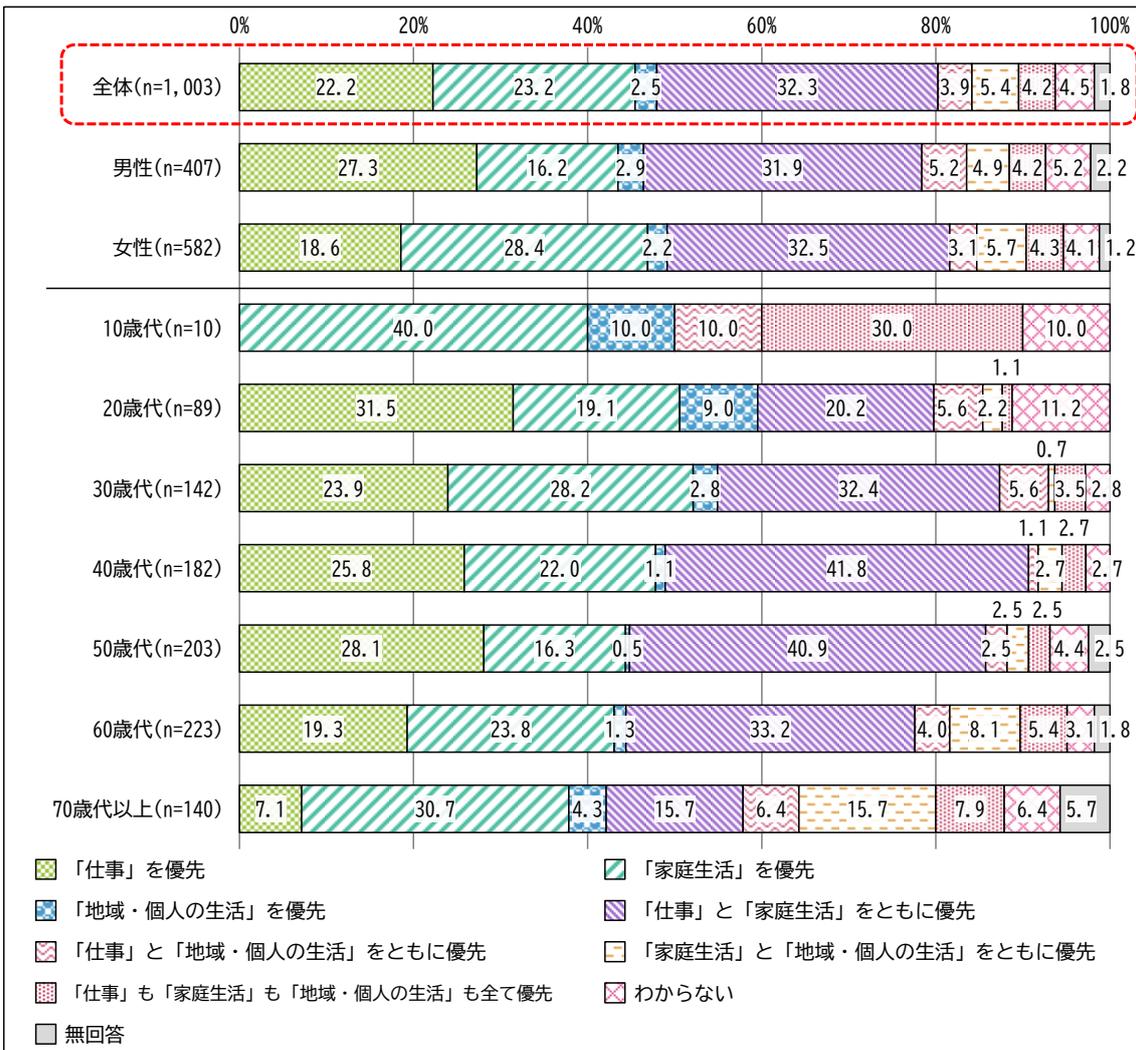
**問19 あなたの生活の中での、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、現状に最も近いもの及び希望に最も近いものは次のうちどれですか。（単数回答）**

○生活の中での現状の優先度については、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が32.3%と最も高く、次いで『「家庭生活」を優先』23.2%、『「仕事」を優先』22.2%となっています。希望する優先度については、上位2位は同様の結果となっていますが、3番目に高いのは、現状では『「仕事」を優先』に対し、希望では『「仕事」も「家庭生活」も「地域・個人の生活」も全て優先』となっています。



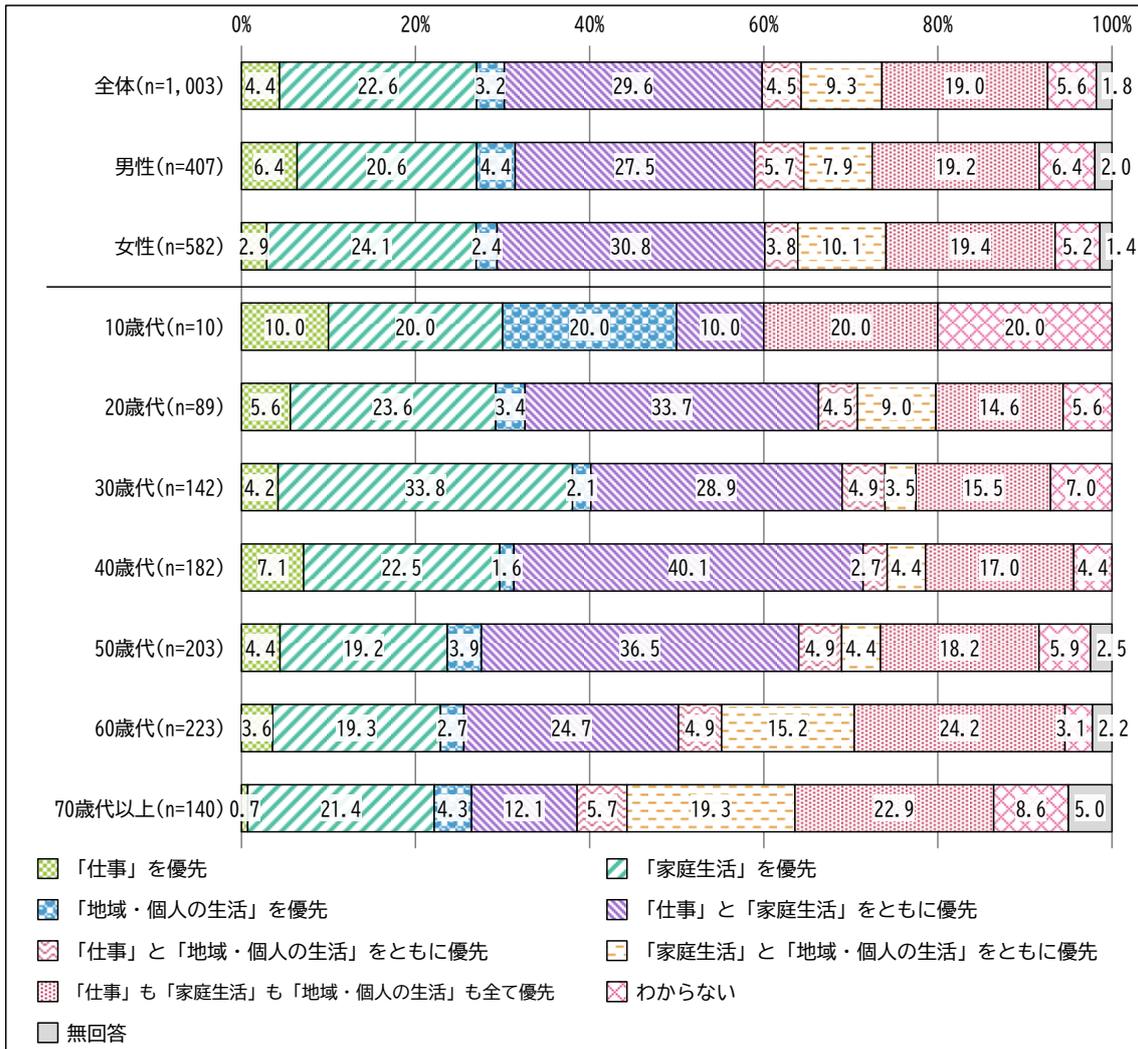
## (1) 現状に最も近いもの

- 生活の中での現状の優先度について、性別で見ると、男女ともに『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が最も高くなっています。また、女性は男性と比べて『「家庭生活」を優先』が12.2ポイント高くなっています。
- 年代別でも、10歳代及び70歳代以上では『「家庭生活」を優先』、20歳代では『「仕事」を優先』、それ以外の年代では『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が最も高くなっています。また、10歳代では『「仕事」も「家庭生活」も「地域・個人の生活」も全て優先』が他の年代に比べて高くなっています。



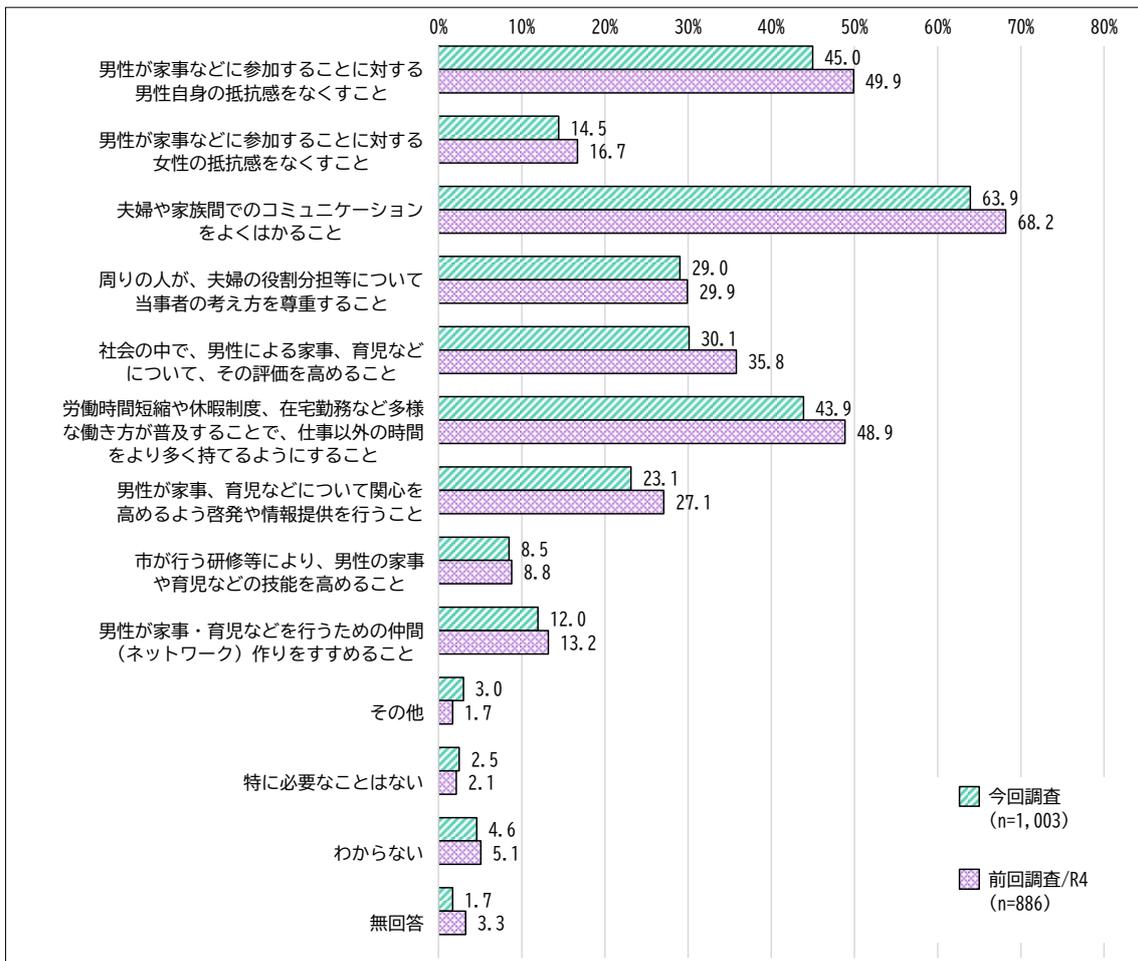
## (2) 希望に最も近いもの

- 生活の中での希望の優先度について、性別で見ると、男女ともに『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が最も高くなっています。
- 年代別でも、10歳代では『「家庭生活」を優先』『「地域・個人の生活」を優先』『「仕事」も「家庭生活」も「地域・個人の生活」も全て優先』『わからない』が同率で最も高く、30歳代では『「家庭生活」を優先』、70歳代以上では『「仕事」も「家庭生活」も「地域・個人の生活」も全て優先』、それ以外の年代では『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が最も高くなっています。また、10歳代では「わからない」が他の年代に比べて高くなっています。

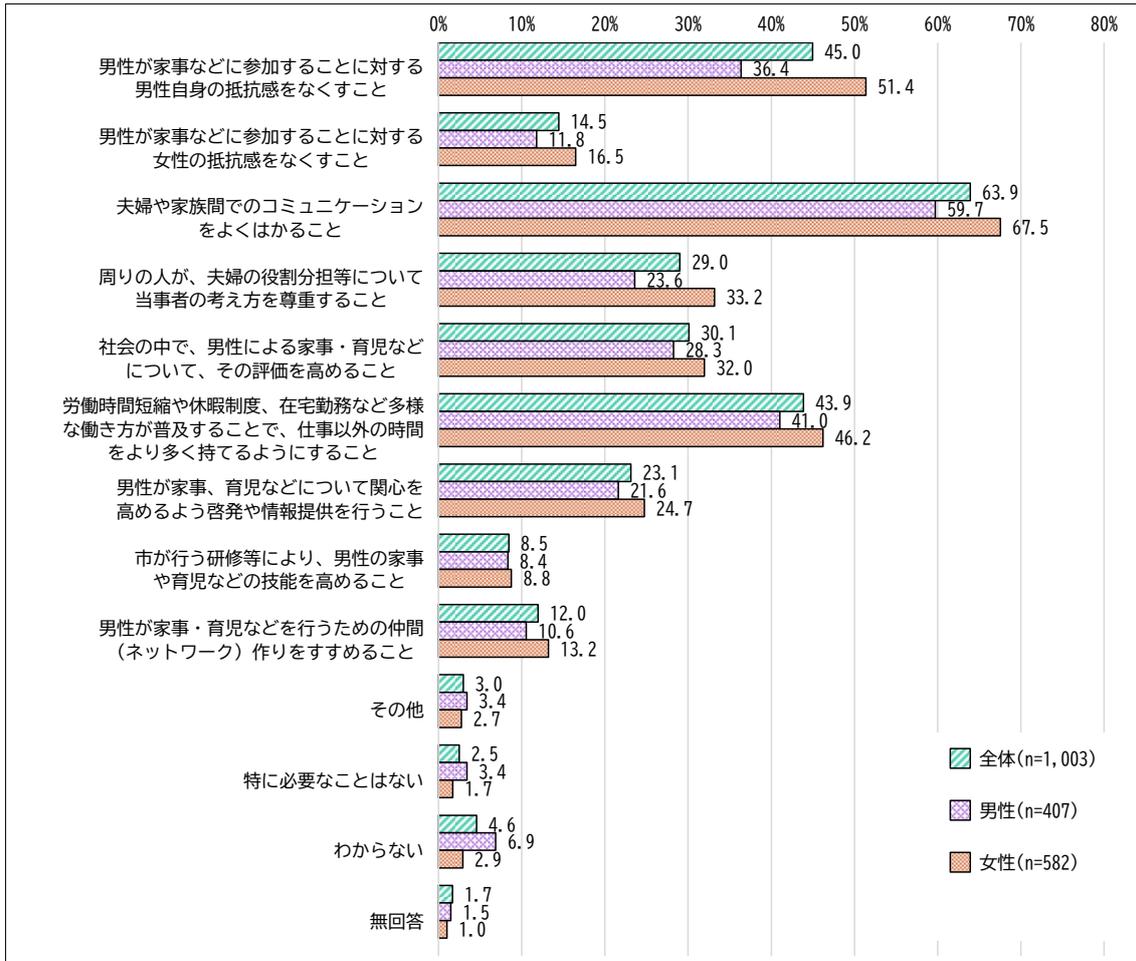


**問20 あなたは、男女がともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）**

- 男女がともに家事、子育て、介護地域活動等に積極的に参加するために必要なことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が63.9%と最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」45.0%、「労働時間短縮や休暇制度、在宅勤務など多様な働き方が普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」43.9%となっています。
- 性別でみると、男女ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も高くなっています。また、女性は男性と比べて「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が15.0ポイント高くなっています。



## 【性別】



■問20「その他」の具体的な意見

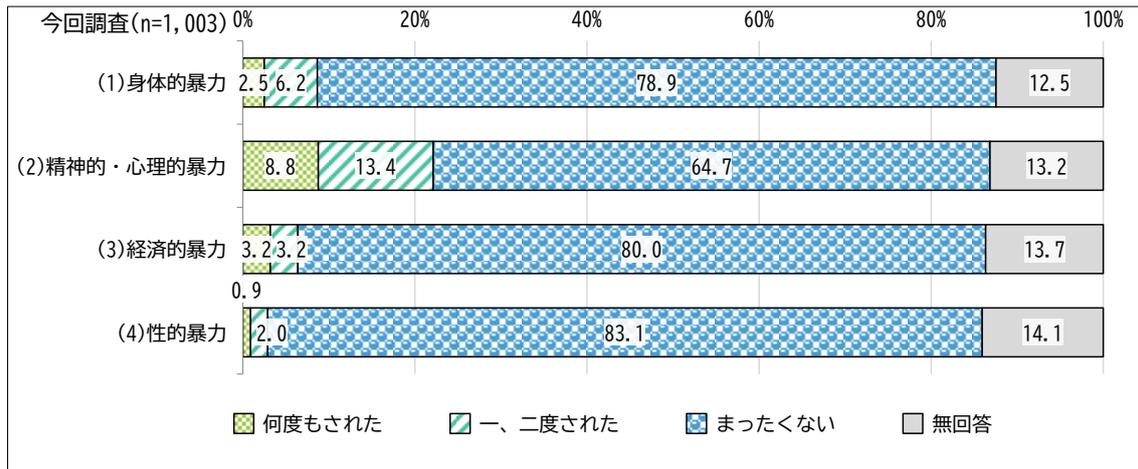
年齢	性別	その他
20 歳代	男性	周りが地域活動に参加しようが参加しまいが、文句を言わないこと
30 歳代	男性	経済状況や家族の状況で変わるので、無理矢理参加していく必要は無いと思う
	女性	時間とお金と心の余裕が必要 利用可能なサービスのお知らせ、保育・介護が利用できない場合の休暇制度と周囲の理解
40 歳代	男性	生活に圧倒的に余裕を持つ事。   資本主義を追求しない社会
		男性の家事に対して抵抗感をなくす、評価を高めるといよりも、当たり前の感覚になる必要があると思う。
		どちらもストレスなく生活できること
	女性	男性が家事・育児するのが当たり前という教育をする事
		高齢者の意識を変えること（地域社会、企業の意思決定に強い力をもっているため）
		監査の際に労働環境も見て、しっかり会社に指導してほしい 男性社員の子どもへの行事や病気の時の有給や欠勤のしやすさ 男性が家事・育児に参加できる労働環境や利用のしやすさなどの制度等
50 歳代	男性	必要に応じてすべきだと思う。   自分らしさ、自然体
		日本国民全てが納得する十分な社会保障
		税金が高く、安心して生活できないからでは？
		金銭的余裕が無い為、イメージできない
	女性	昭和世代の男尊女卑思考を改めて欲しい。私の世代は女性が活躍しようとするのを良しとしない60代以上の年代から虐げられる事が非常に多く、変わろうとして独りもがいても、嫌われて排除されてきたし、女性も「女性」を武器にした立ち回りをする人が多く、不快に思う事が多々ある。
		昔からの固定観念をなくすこと
		親の介護支援を手厚くして欲しい 貧困層をなくし、夫婦・家族で金銭的、精神的なゆとりを感じる事
60 歳代	男性	男は子供を産む事は出来ないの、それ以外全ての事は男がやる事 男女ともに協力することを当たり前と思えばいいのでは
		将来に夢を持てる仕掛けが必要。40歳までは働き控えを無くし、規制をかけない。やる気を伸ばす政策が必要。今の政策はその真逆をして、移民が頼りの労働環境になっている。
	女性	今の若い人は男性の参加は多いと思うが、年代が上の方は考え方が参加しようと思っていない人が多いと思う。
		小・中・高校とこれまで以上に学習の中に取り入れる。生活があつての仕事である。女性が主ではなく男性が主であってもよい。その意識を変えていく学習をしていく。
		男性も具体的な協力が出来ることの情報提供する機会を増やすと分かりやすいと思います。
70 歳代以上	女性	男性！男性と言っても仕事はミスが出来ないし。家は休めないほど今は男性もしんどいですわ。

## 6. ドメスティック・バイオレンス等について

【問21は、配偶者やパートナー、交際相手がいる（いた）方のみ】

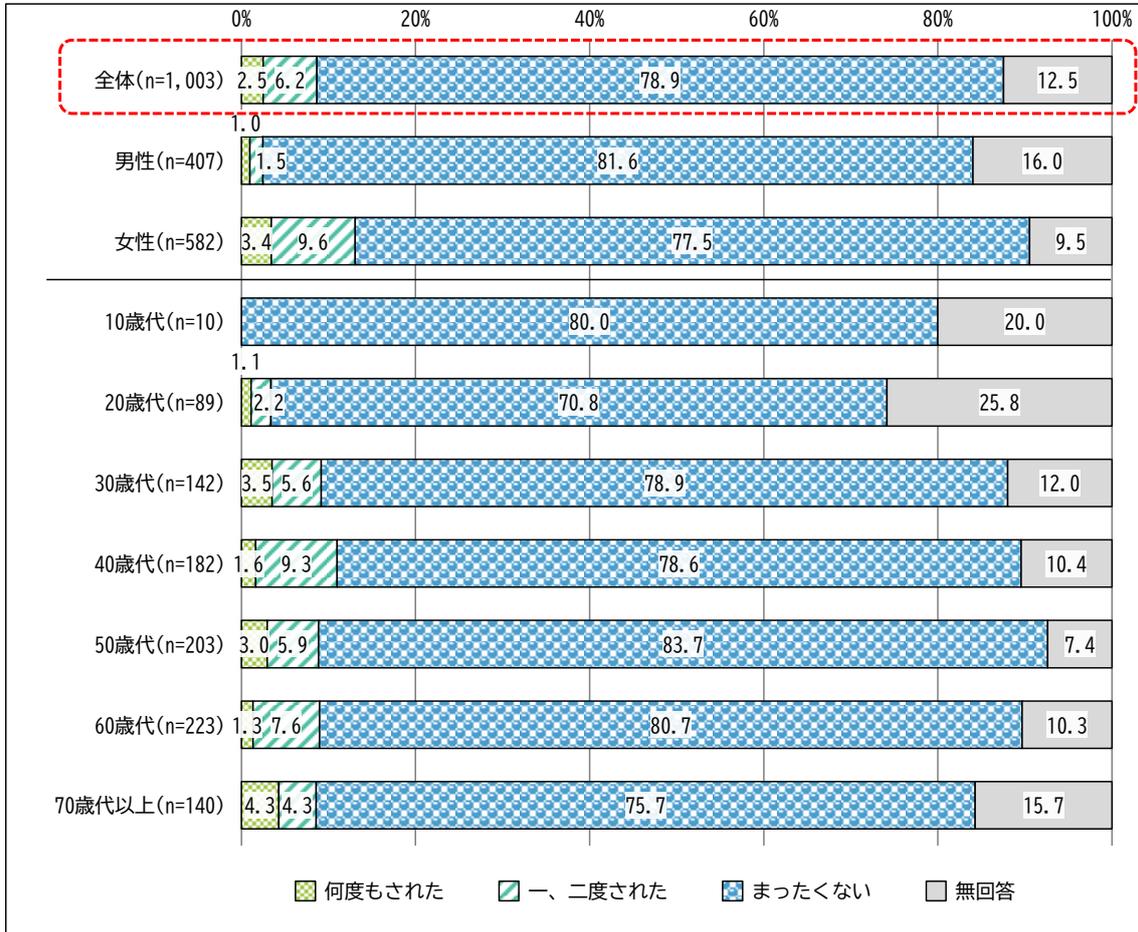
問21 あなたは、これまでに配偶者やパートナー、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。（単数回答）

○配偶者やパートナーから心や体に苦痛を感じるような行為を受けた経験の有無については、いずれも「まったくない」が最も高くなっています。また、「精神的・心理的暴力」については、『経験がある：何度もされた＋一、二度された』が2割を超えています。



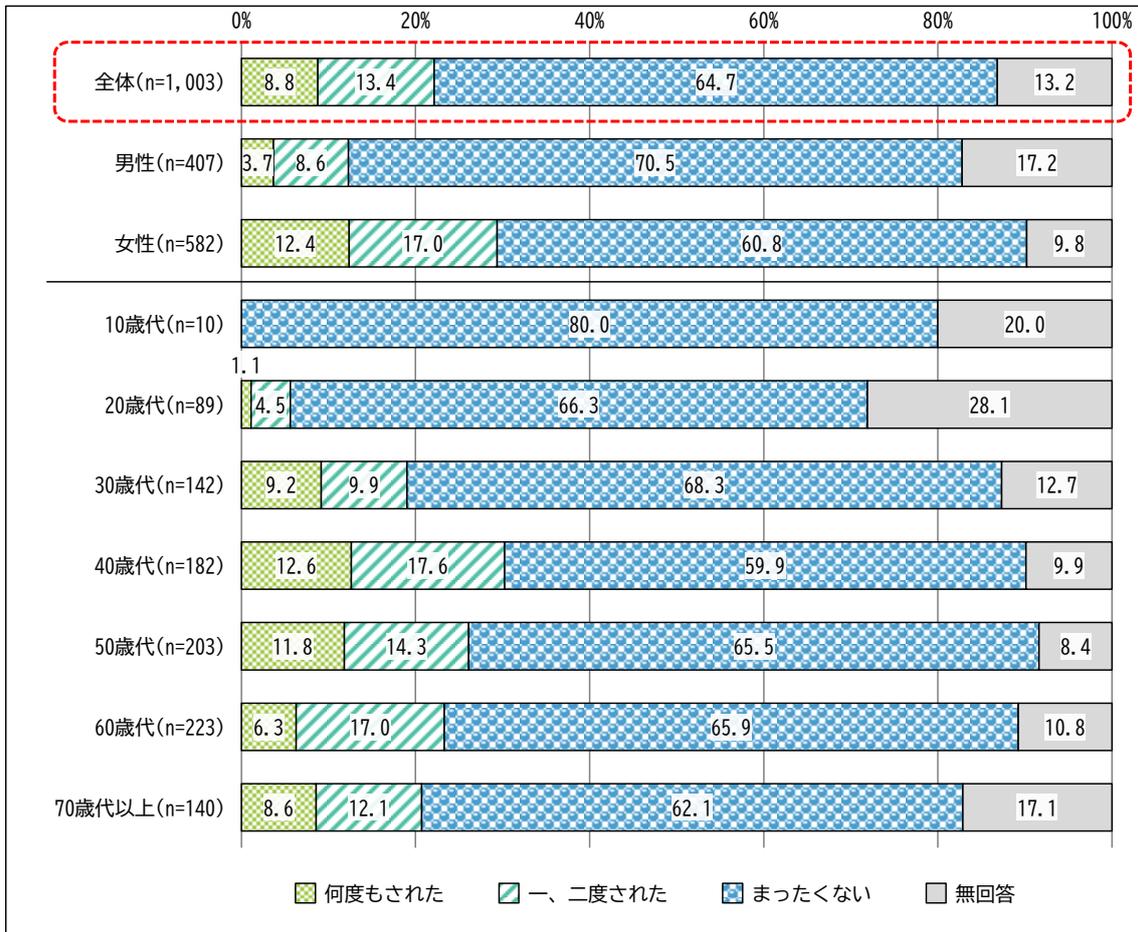
### (1) 身体的暴力（殴ったり蹴ったりするなど）

- 「身体的暴力」の経験の有無については、「まったくない」が78.9%と最も高く、次いで「一、二度された」6.2%、「何度もされた」2.5%となっています。
- 性別及び年代別でみても、「まったくない」が最も高く、いずれも7割を超えています。女性及び40歳代では1割が『経験がある』と回答しています。



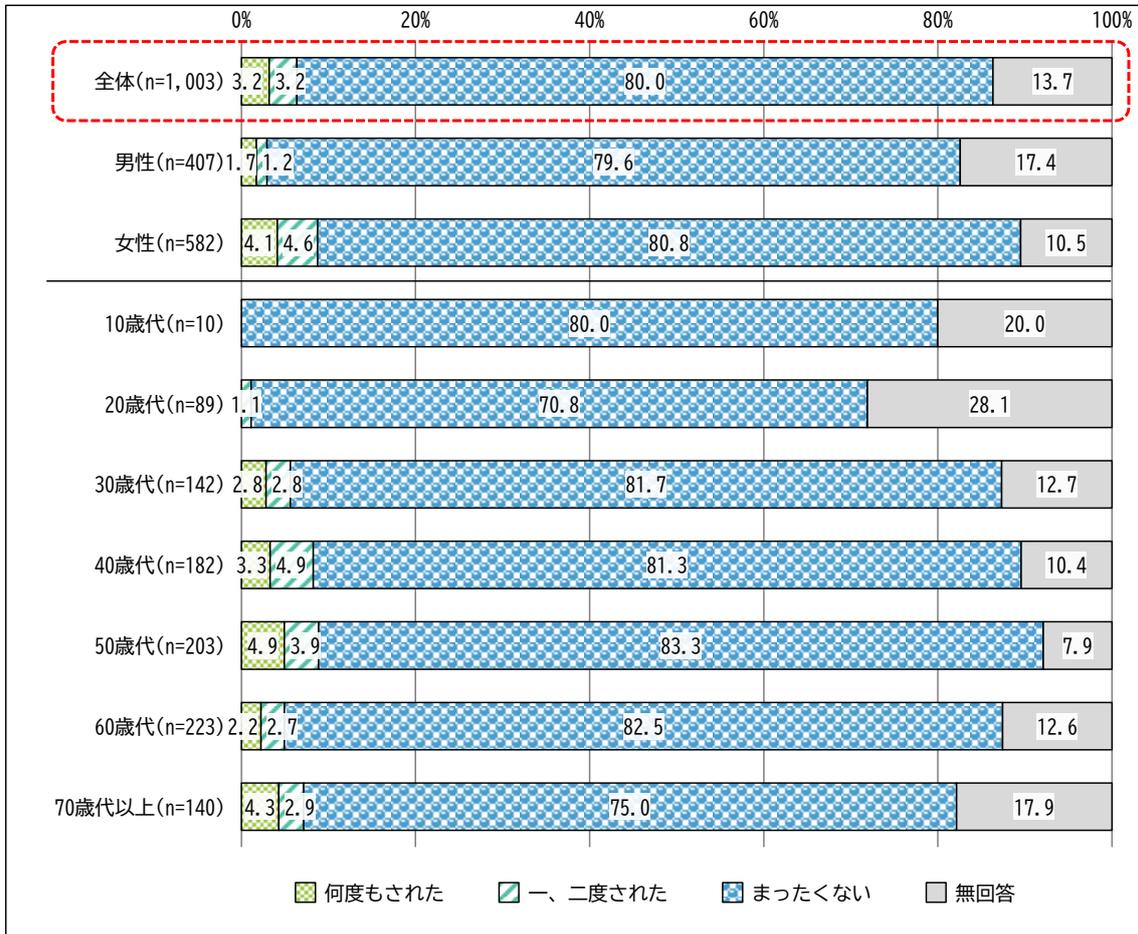
## (2) 精神的・心理的暴力（心無い言動等により、相手の心を傷つけるものなど）

- 「精神的・心理的暴力」の経験の有無については、「まったくない」が64.7%と最も高く、次いで「一、二度された」13.4%、「何度もされた」8.8%となっています。
- 性別でも、男女ともに「まったくない」が最も高くなっていますが、女性は男性と比べて『経験がある』が17.1ポイント高くなっています。
- 年代別でも、「まったくない」が最も高く、特に10歳代では8割を超えています。また、30歳代以上では約2割～3割が『経験がある』と回答しています。



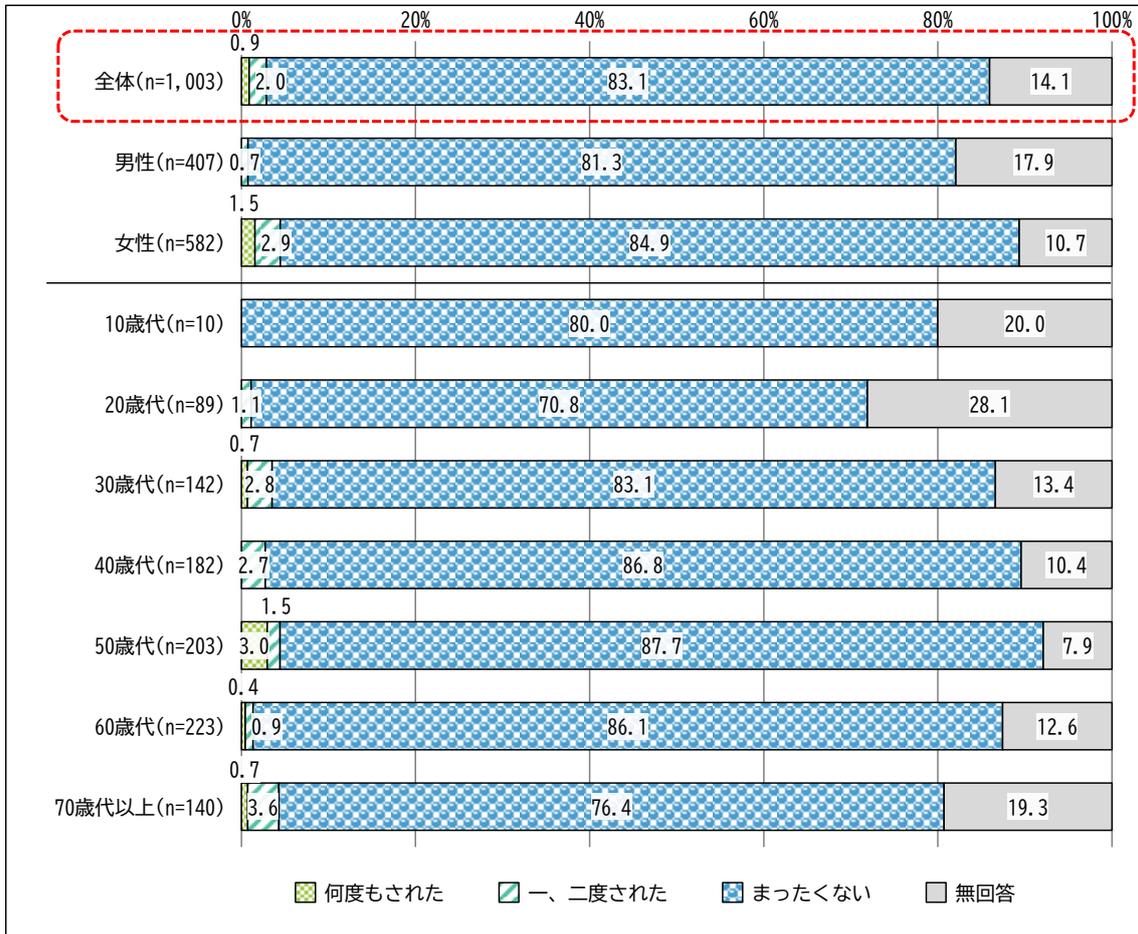
### (3) 経済的暴力（生活費を渡さない、もしくは仕事を制限するなど）

- 「経済的暴力」の経験の有無については、「まったくない」が80.0%と最も高く、次いで「何度もされた」「一、二度された」3.2%となっています。
- 性別及び年代別でみても、「まったくない」が最も高く、いずれも7割を超えています。



#### (4) 性的暴力（性的行為や中絶を強要する、避妊に協力しないなど）

- 「性的暴力」の経験の有無については、「まったくない」が83.1%と最も高く、次いで「一、二度された」2.0%、「何度もされた」0.9%となっています。
- 性別及び年代別でみても、「まったくない」が最も高く、いずれも7割を超えています。

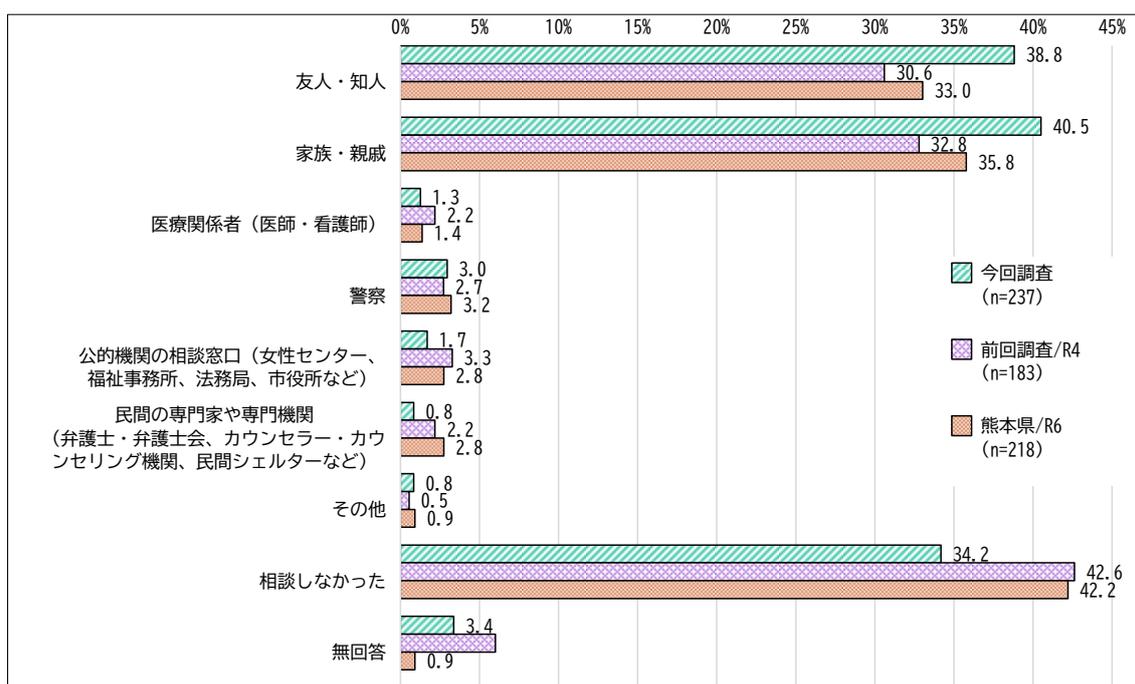


【問21で1つでも「何度もされた」又は、「一、二度された」と答えた方のみ】

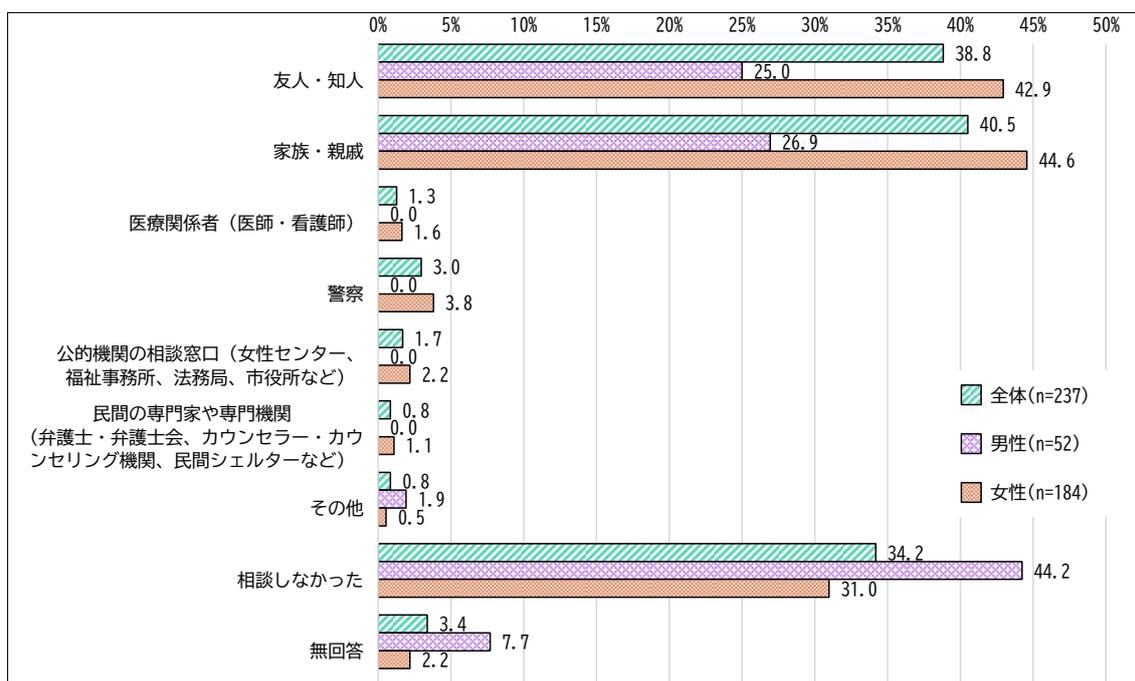
問21-1 そのことについて、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。  
(複数回答)

○心や体に苦痛を感じるような行為を受けた際の相談先については、「家族・親戚」が40.5%と最も高く、次いで「友人・知人」38.8%、「相談しなかった」34.2%となっています。

○性別でみると、男性では「相談しなかった」が最も高く、女性では「友人・知人」「家族・親戚」が4割を超えています。また、女性は男性と比べて「友人・知人」「家族・親戚」が高く、「相談しなかった」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。

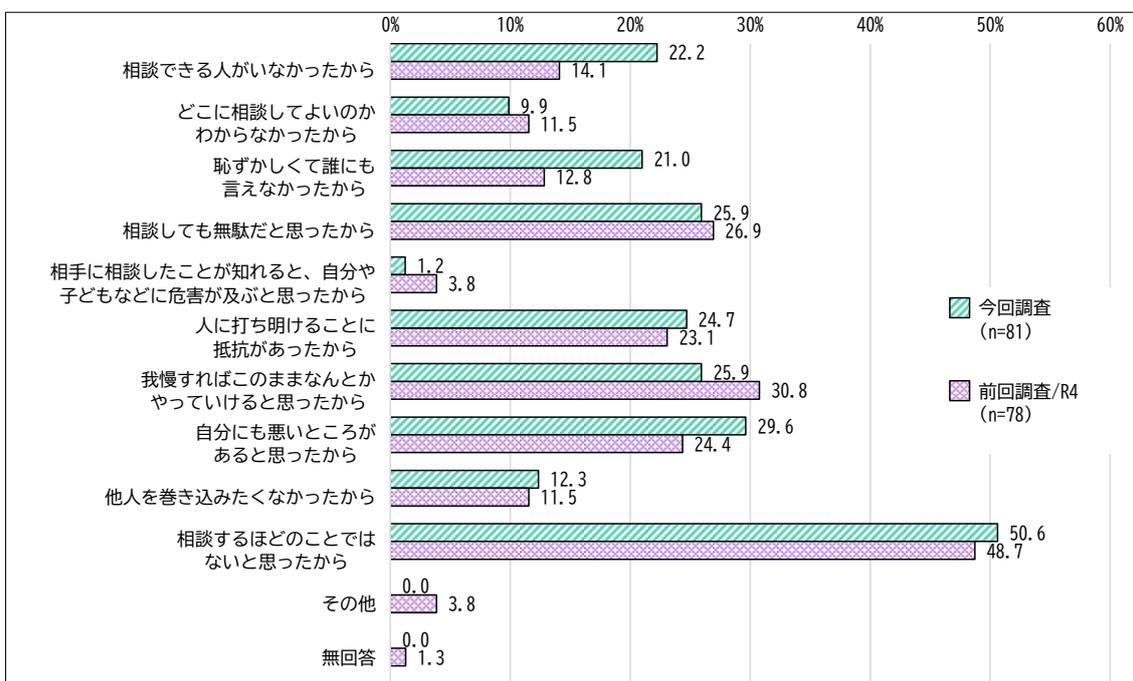


【性別】

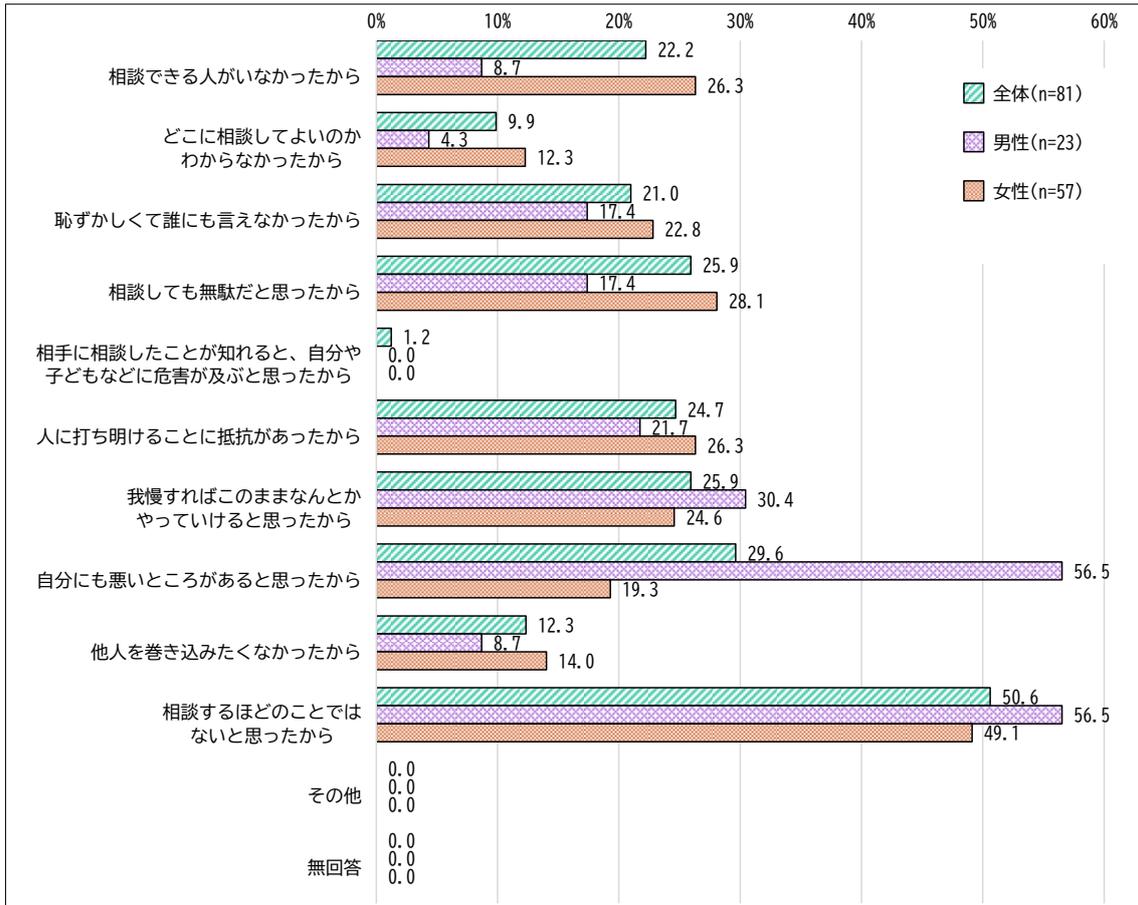


問21-2 相談しなかったのはなぜですか。(複数回答)

- 心や体に苦痛を感じるような行為を受けた際、相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が 50.6%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」29.6%、「相談しても無駄だと思ったから」「我慢すればこのままなんとかやっていけると思ったから」25.9%となっています。
- 性別でみると、男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高く、加えて男性では「自分にも悪いところがあると思ったから」も同率で最も高くなっています。また、女性は男性と比べて「相談できる人がいなかったから」「相談しても無駄だと思ったから」が高く、「自分にも悪いところがあると思ったから」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。

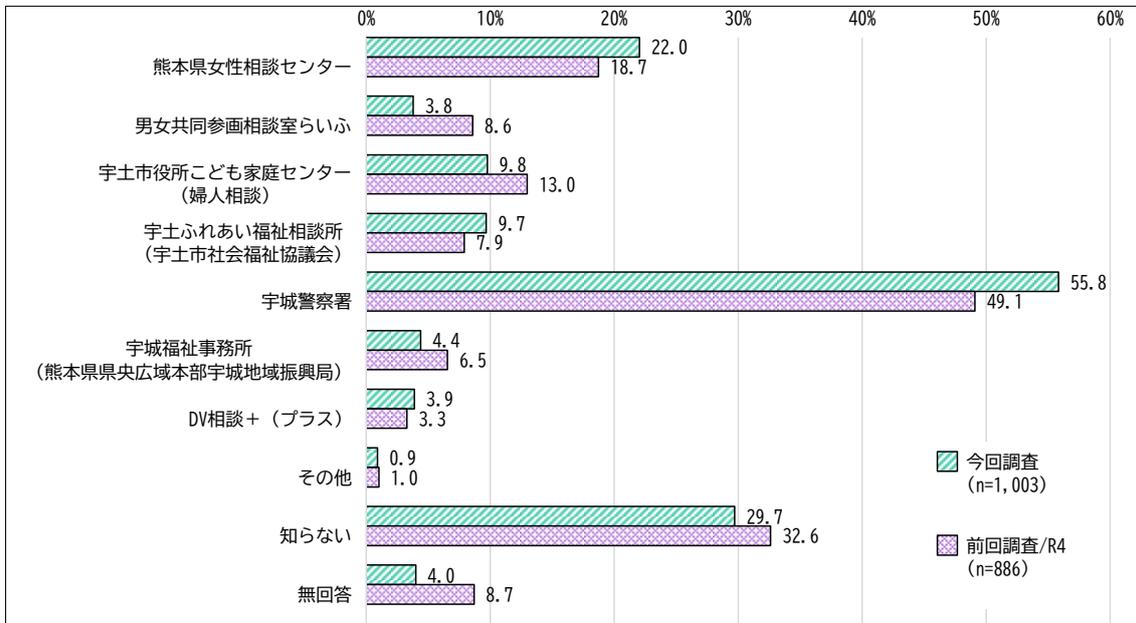


【性別】

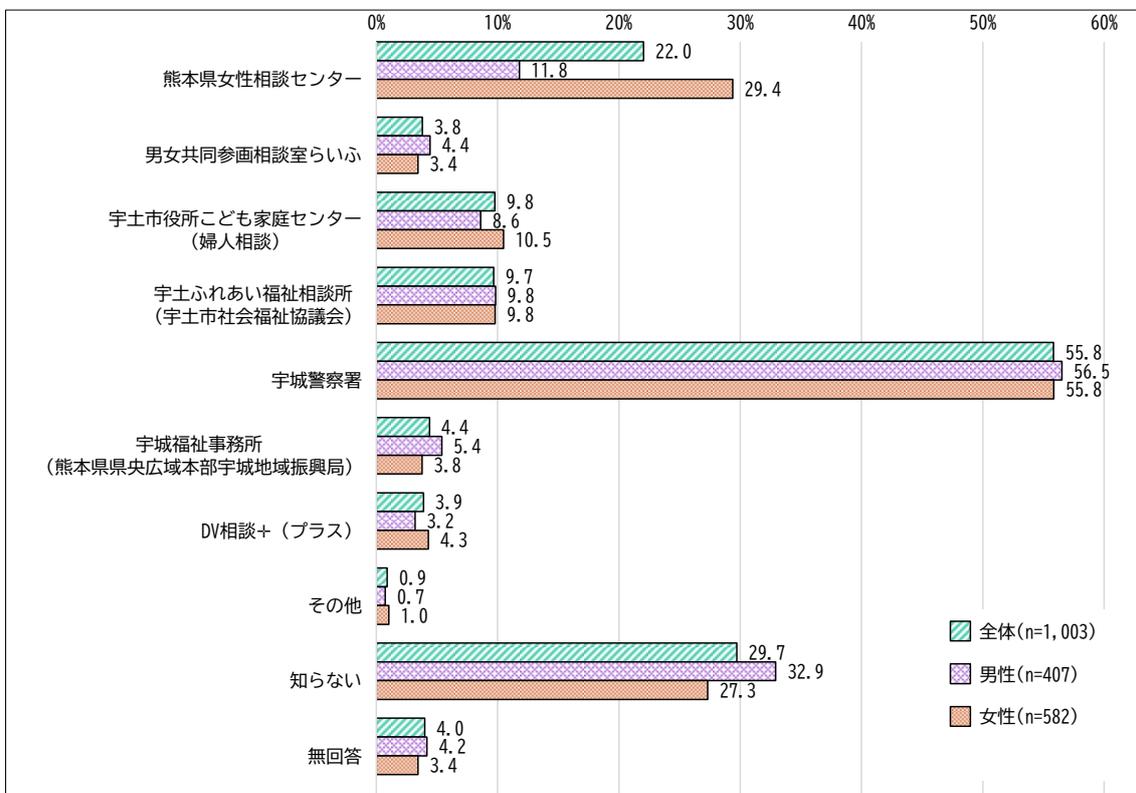


## 問22 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）やデートDVに関する問題を相談できる機関について、どのような相談機関を御存知ですか。（複数回答）

- DV問題の相談機関の認知度については、「宇城警察署」が55.8%と最も高く、次いで「知らない」29.7%、「熊本県女性相談センター」22.0%となっています。
- 性別でみると、男女ともに「宇城警察署」が最も高くなっています。また、女性は男性と比べて「熊本県女性相談センター」が17.6ポイント高くなっています。

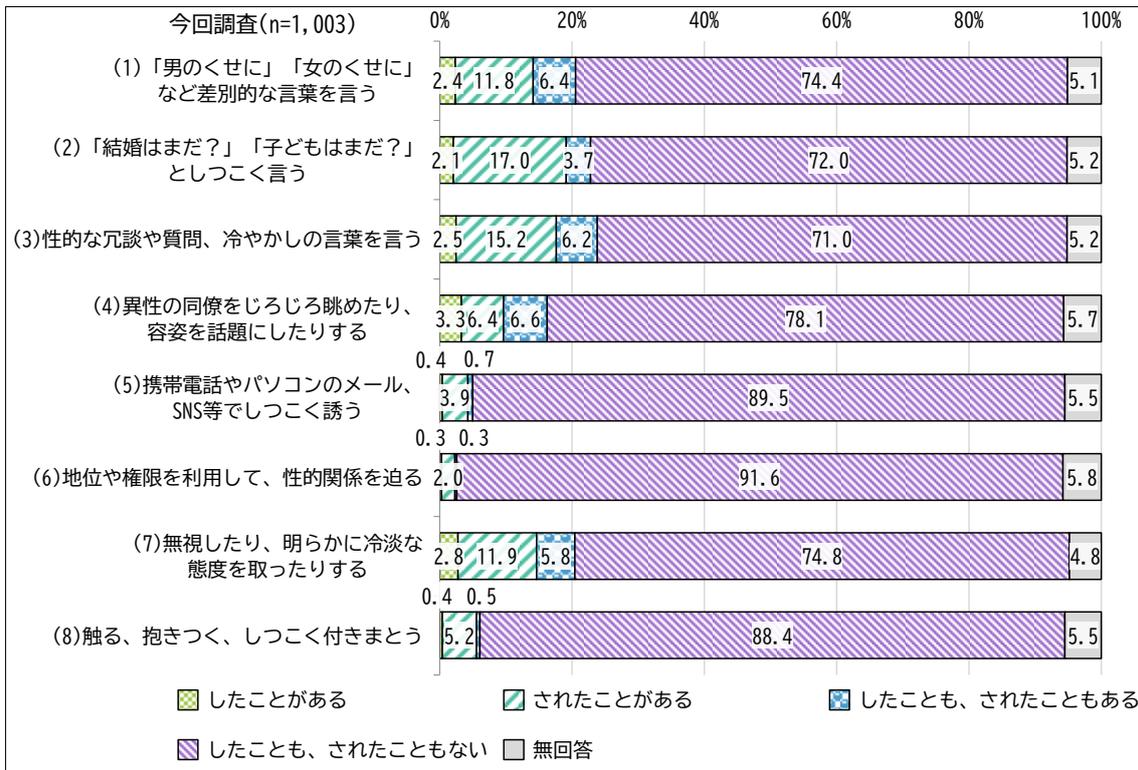


### 【性別】



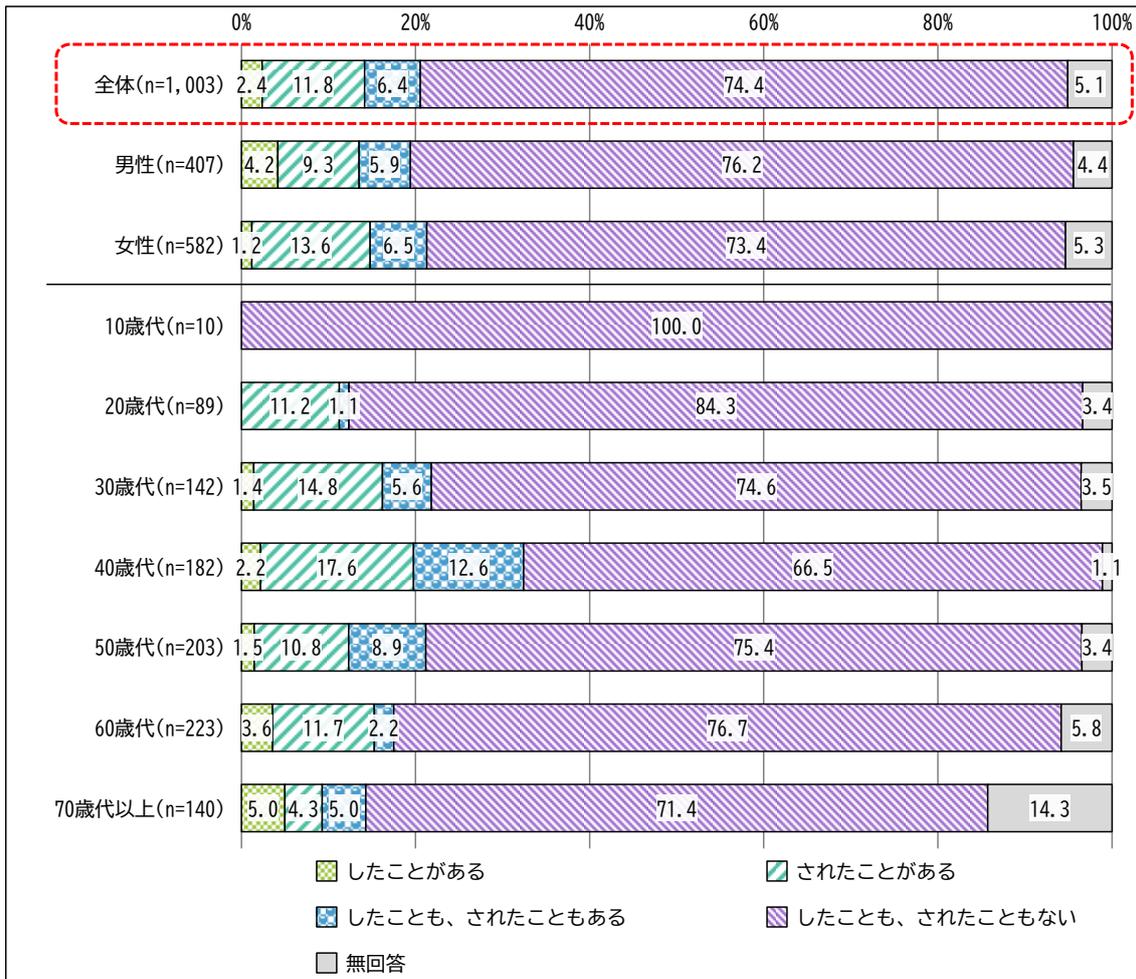
**問23 あなたは、職場の上司や同僚、学校関係者、近所や地域等で付き合いのある人に、次のようなセクハラ（性的嫌がらせ）をしたりされたことがありますか。（単数回答）**

- 身近な人からセクハラをしたりされたりした経験の有無については、いずれも「したこともされたこともない」が最も高く、特に「地位や権限を利用して、性的関係を迫る」は9割を超えています。
- 「したことはある」「したことも、されたこともある」はいずれも1割以下となっており、「されたことがある」では『「結婚はまだ?」「子どもはまだ?」としつこく言う』が17.0%と最も高く、次いで「性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う」15.2%、「無視したり、明らかに冷淡な態度を取ったりする」11.9%となっています。



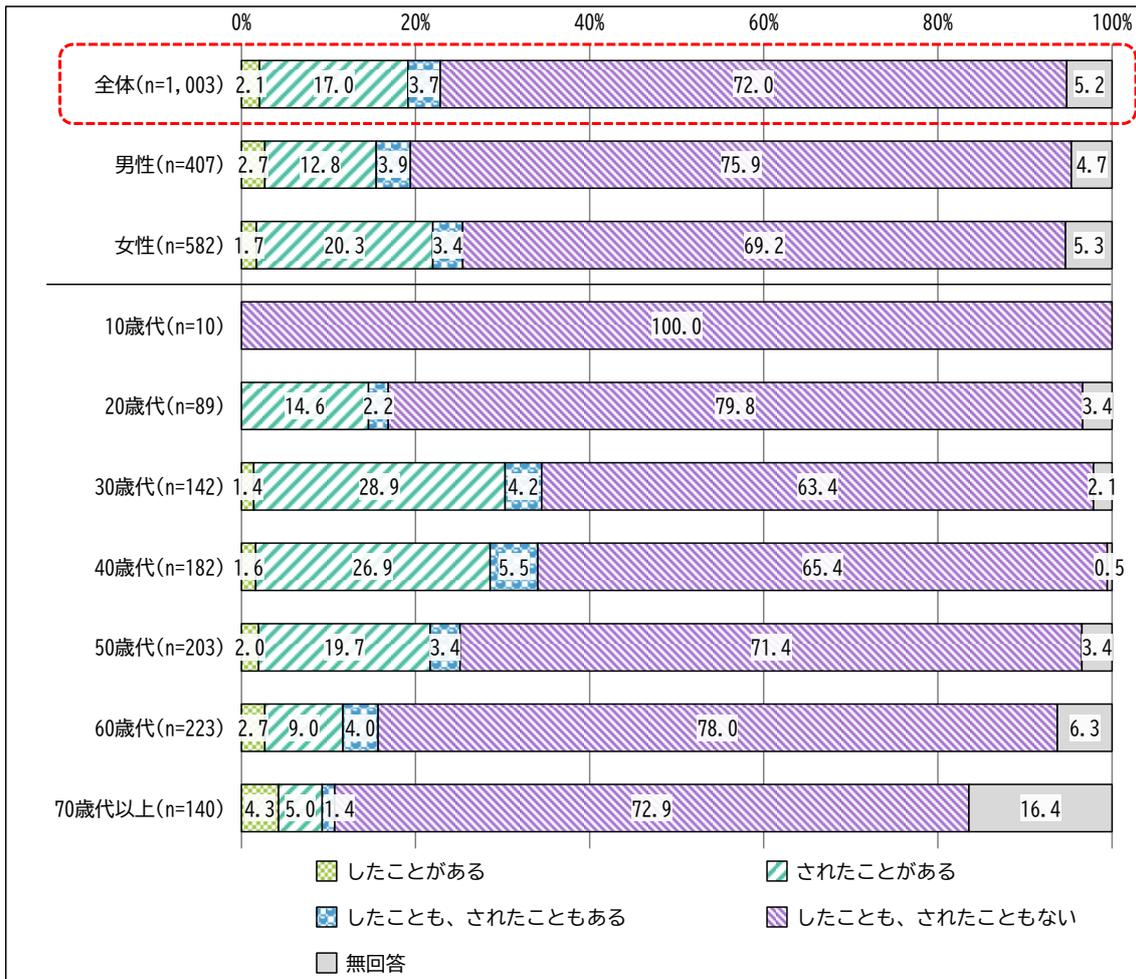
## (1) 「男のくせに」「女のくせに」など差別的な言葉を使う

- 『「男のくせに」「女のくせに」など差別的な言葉を使う』については、「したことも、されたこともない」が74.4%と最も高く、次いで「されたことがある」11.8%、「したことも、されたこともある」6.4%となっています。
- 性別でも、男女ともに7割以上が「したことも、されたこともない」と回答しています。
- 年代別でも、どの年代も「したことも、されたこともない」が最も高く、特に20歳代以下では8割を超えています。また、「されたことがある」「したことも、されたこともある」では40歳代が最も高くなっています。



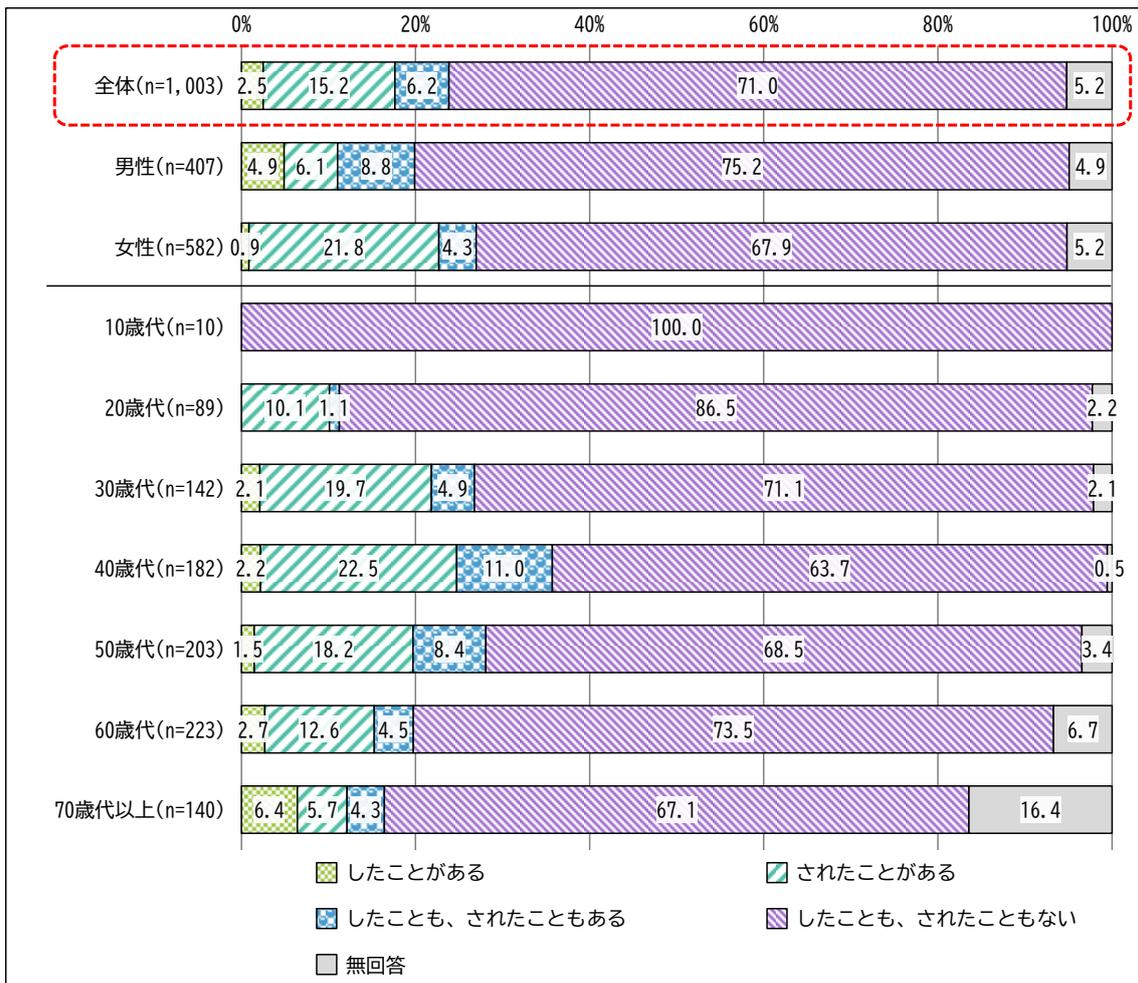
## (2) 「結婚はまだ?」「子どもはまだ?」としつこく言う

- 『「結婚はまだ?」「子どもはまだ?」としつこく言う』については、「したことも、されたこともない」が72.0%と最も高く、次いで「されたことがある」17.0%、「したことも、されたこともある」3.7%となっています。
- 性別でも、男女ともに7割前後が「したことも、されたこともない」と回答しています。また、女性は「されたことがある」が2割を超えています。
- 年代別でも、どの年代も「したことも、されたこともない」が最も高く、特に20歳代以下及び50歳代以上では7割を超えています。また、30~40歳代では約3割が「されたことがある」と回答しています。



### (3) 性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を使う

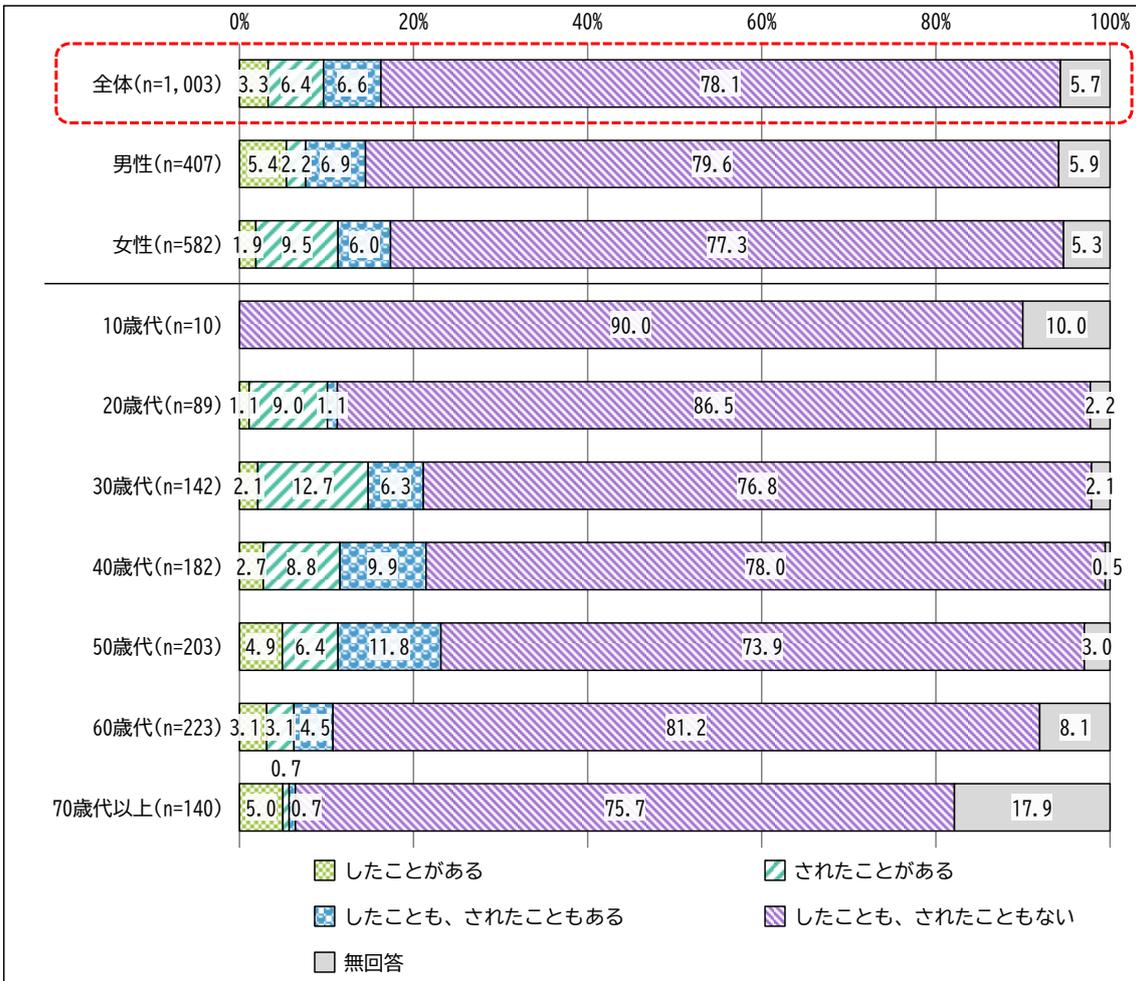
- 「性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を使う」については、「したことも、されたこともない」が71.0%と最も高く、次いで「されたことがある」15.2%、「したことも、されたこともある」6.2%となっています。
- 性別でも、男女ともに6割以上が「したことも、されたこともない」と回答しています。また、女性は「されたことがある」が2割を超えており、男性と比べて15.7ポイント高くなっています。
- 年代別でも、どの年代も「したことも、されたこともない」が最も高く、20歳代以下では8割を超えています。また、30～50歳代では2割前後が「されたことがある」と回答しています。



#### (4) 異性の同僚をじろじろ眺めたり、容姿を話題にしたりする

○「異性の同僚をじろじろ眺めたり、容姿を話題にしたりする」については、「したことも、されたこともない」が78.1%と最も高く、次いで「したことも、されたこともある」6.6%、「されたことがある」6.4%となっています。

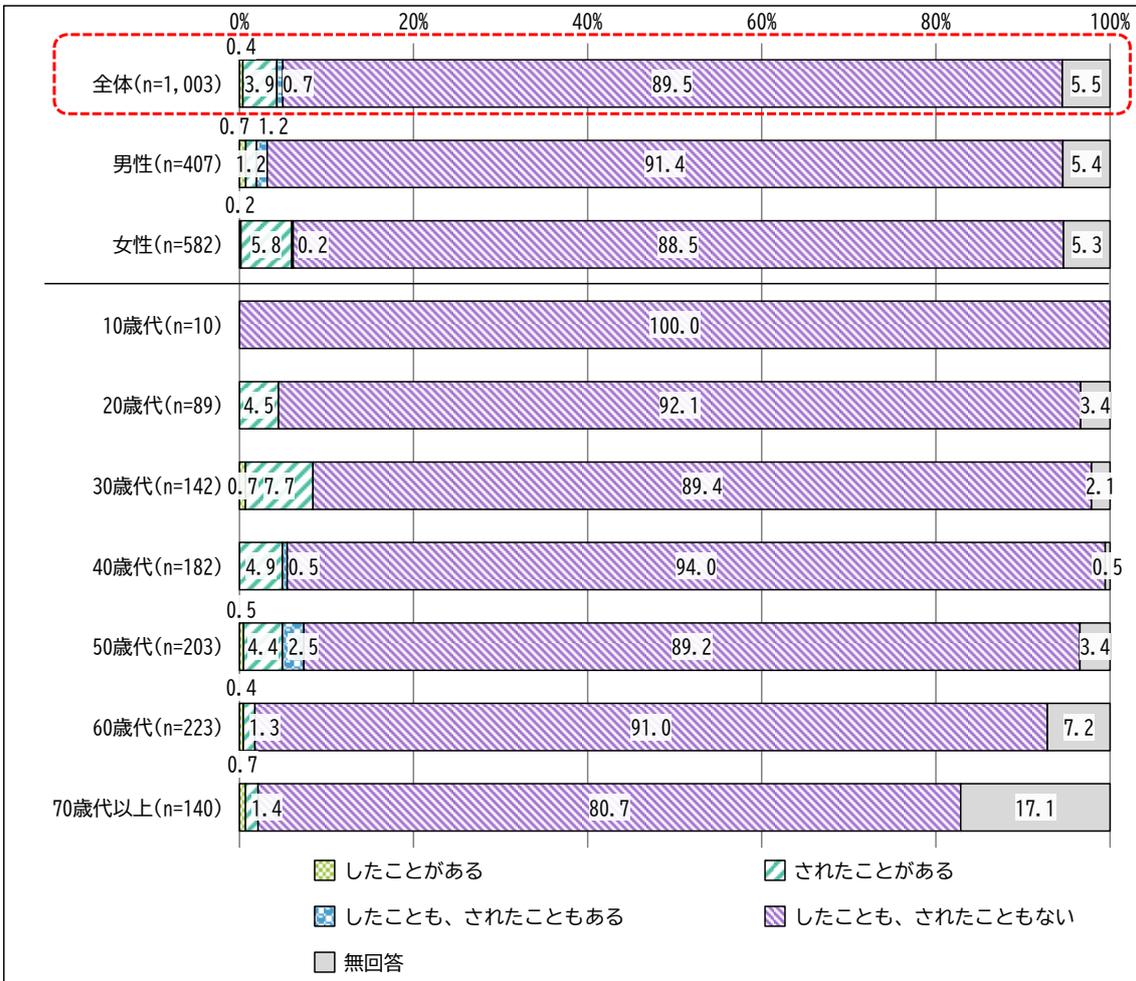
○性別及び年代別でも、いずれも7割以上が「したことも、されたこともない」と回答しています。



### (5) 携帯電話やパソコンのメール、SNS 等でしつこく誘う

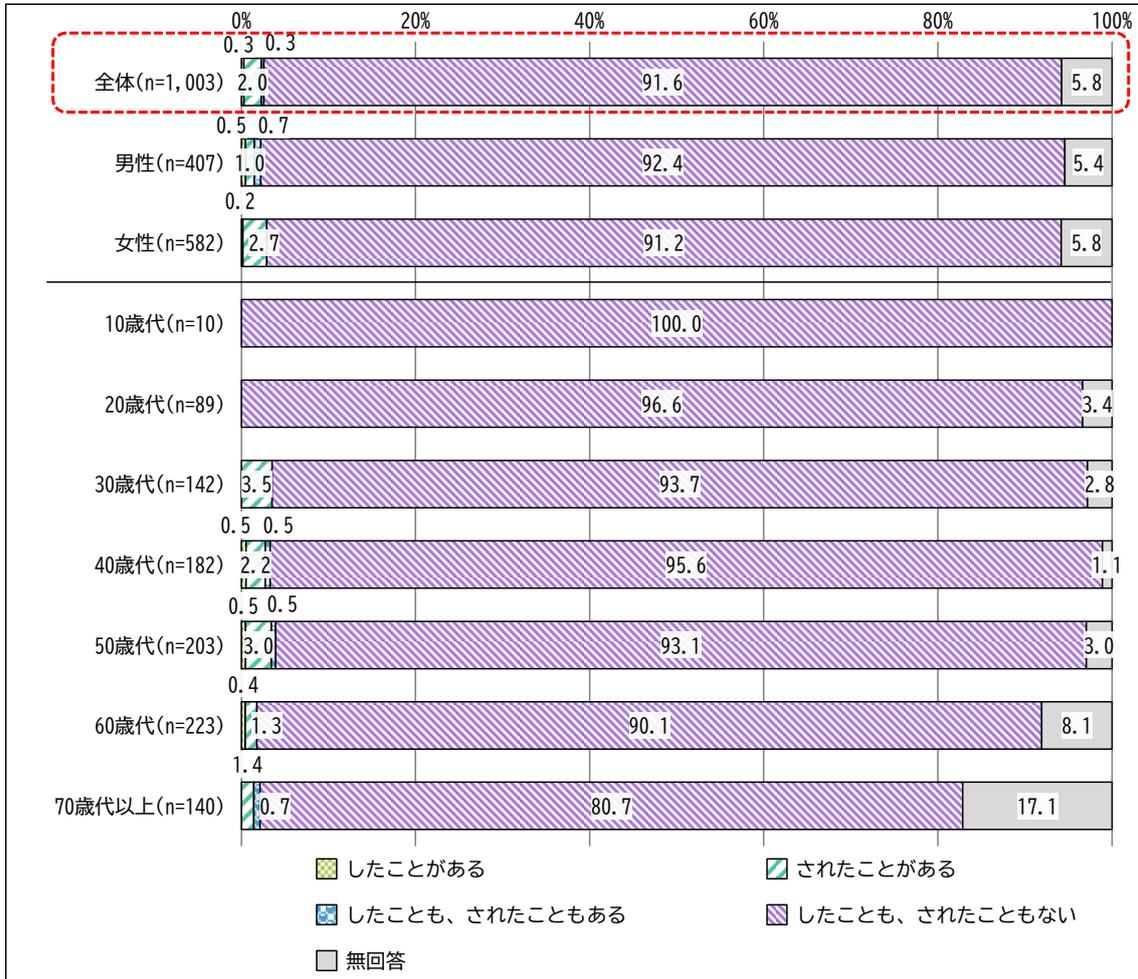
○「携帯電話やパソコンのメール、SNS 等でしつこく誘う」については、「したことも、されたこともない」が 89.5%と最も高く、次いで「されたことがある」3.9%、「したことも、されたこともある」0.7%となっています。

○性別及び年代別でも、いずれも8割以上が「したことも、されたこともない」と回答しています。



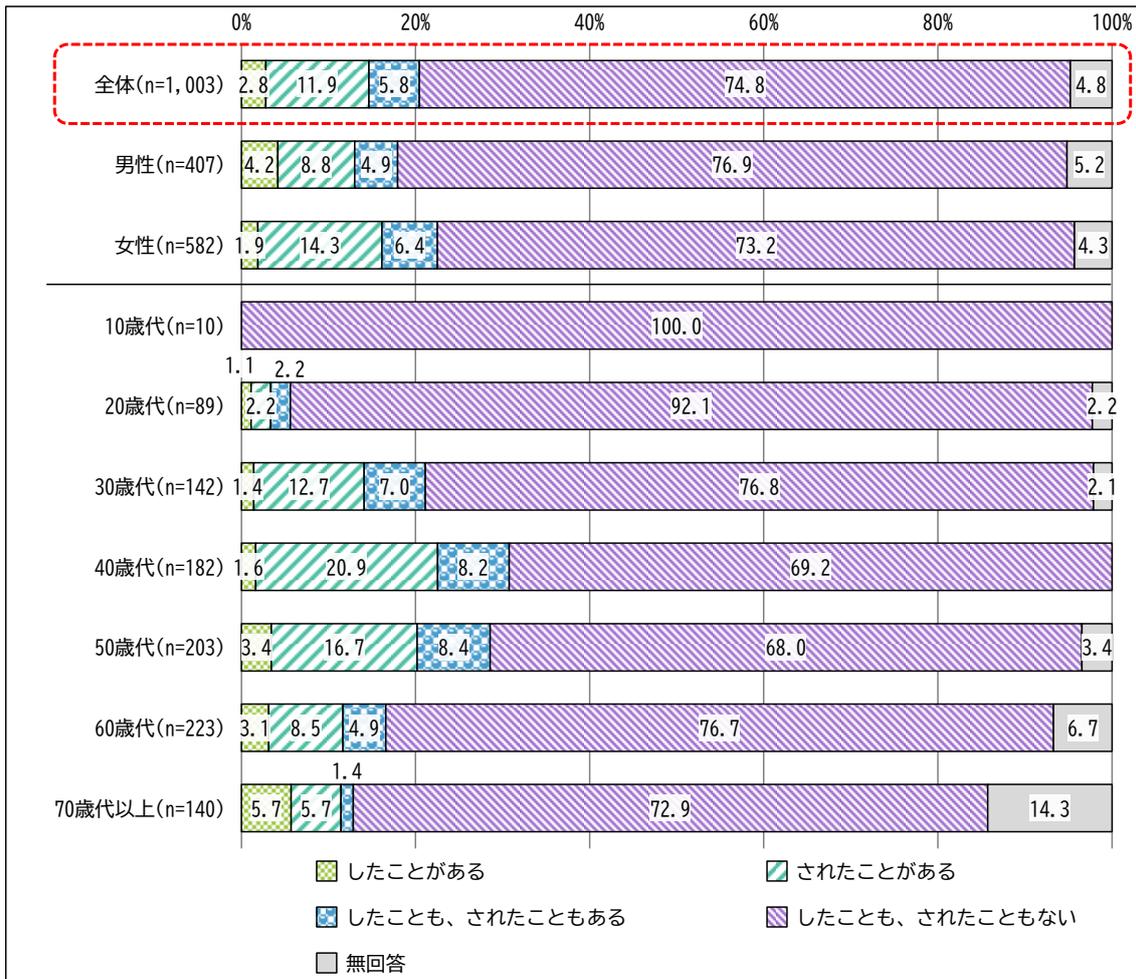
## (6) 地位や権限を利用して、性的関係を迫る

- 「地位や権限を利用して、性的関係を迫る」については、「したことも、されたこともない」が91.6%と最も高くなっています。
- 性別及び年代別でも、いずれも8割以上が「したことも、されたこともない」と回答しています。



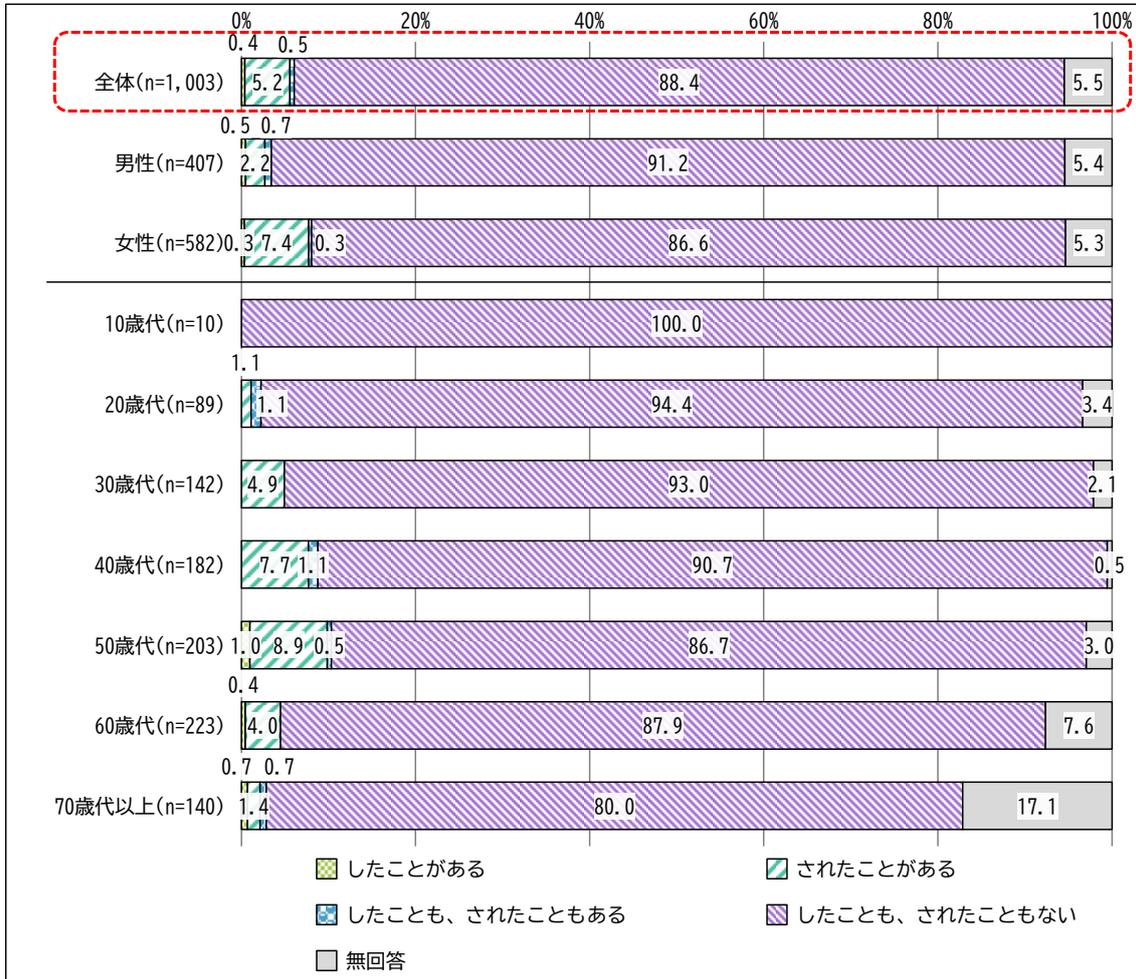
## (7) 無視したり、明らかに冷淡な態度を取ったりする

- 「無視したり、明らかに冷淡な態度を取ったりする」については、「したことも、されたこともない」が74.8%と最も高く、次いで「されたことがある」11.9%、「したことも、されたこともある」5.8%となっています。
- 性別でも、男女ともに7割以上が「したことも、されたこともない」と回答しています。
- 年代別でも、どの年代も「したことも、されたこともない」が最も高く、特に20歳代以下では9割を超えています。また、40～50歳代では2割前後が「されたことがある」と回答しています。



## (8) 触る、抱きつく、しつこく付きまとう

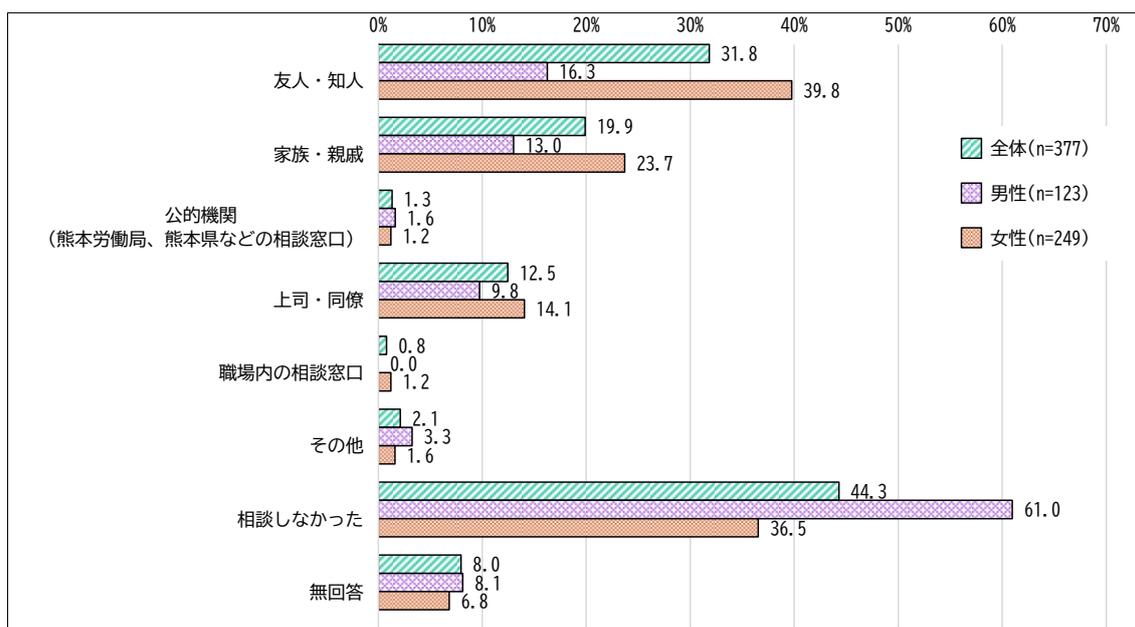
- 「触る、抱きつく、しつこく付きまとう」については、「したことも、されたこともない」が88.4%と最も高くなっています。
- 性別及び年代別でも、いずれも8割以上が「したことも、されたこともない」と回答しています。



【問23で1つでも「2. されたことがある」又は、「3. したことも、されたこともある」と答えた方のみ】

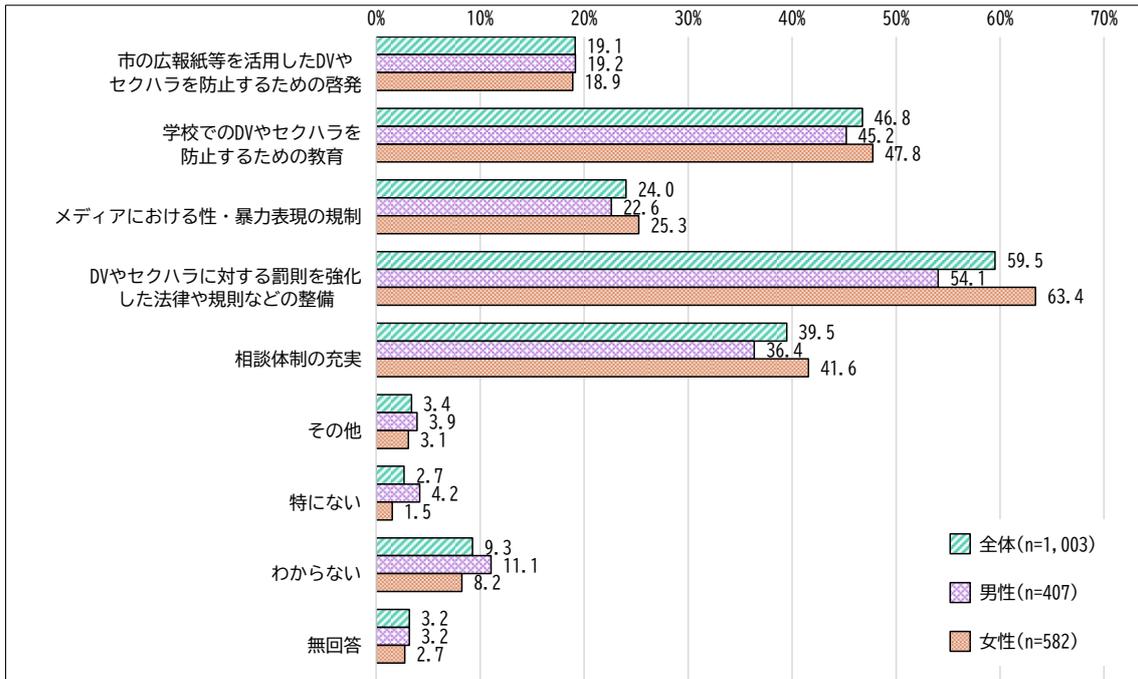
問23-1 セクハラ行為を受けた際に、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。  
(複数回答)

- セクハラ行為を受けた際の相談先については、「相談しなかった」が44.3%と最も高く、次いで「友人・知人」31.8%、「家族・親戚」19.9%となっています。
- 性別でみると、男性では「相談しなかった」、女性では「友人・知人」が最も高くなっています。また、男性は女性に比べて「相談しなかった」が高く、「友人・知人」「家族・親戚」低くなっており、10ポイント以上差が生じています。



**問24 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）やデートDV、セクハラをなくするために必要なことは何だと思われますか。（複数回答）**

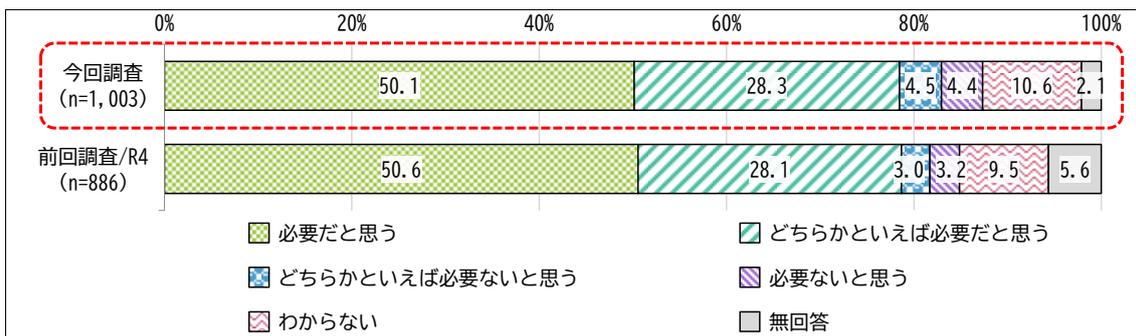
- DVやセクハラ等をなくするために必要なことについては、「DV やセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備」が 59.5%と最も高く、次いで「学校での DV やセクハラを防止するための教育」46.8%、「相談体制の充実」39.5%となっています。
- 性別でも、男女ともに「DV やセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備」が最も高くなっており、女性は男性に比べて10ポイント近く高くなっています。



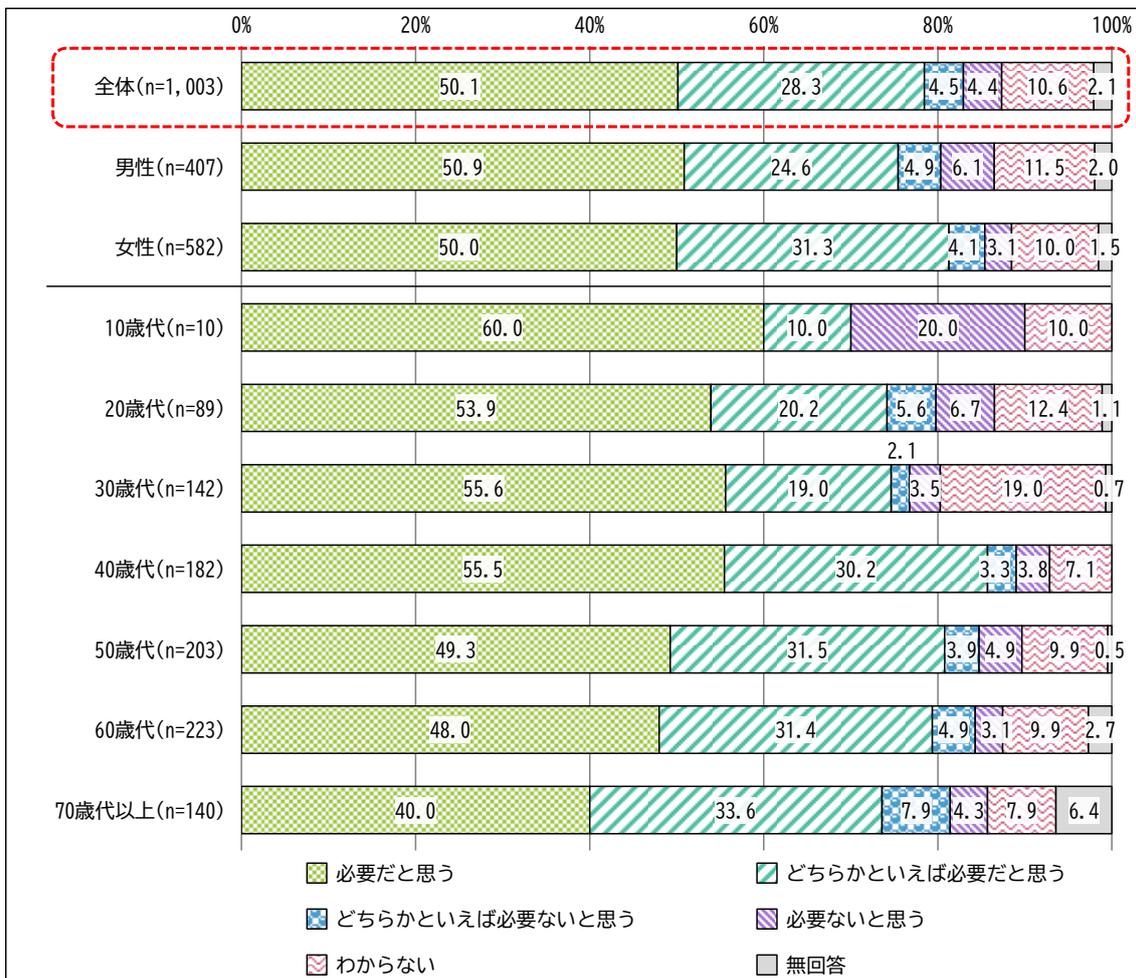
## 7. 男女共同参画の視点からの防災・復興について

### 問25 あなたは、防災・復興において、性別に配慮した取組が必要だと思いますか。 (単数回答)

- 防災・復興において、性別に配慮した取組が必要か尋ねたところ、「必要だと思う」が50.1%と最も高く、次いで「どちらかといえば必要だと思う」28.3%、「わからない」10.6%となっています。
- 性別及び年代別でも、「必要だと思う」が最も高くなっています。また、女性及び40～50歳代では『必要だと思う：必要だと思う+どちらかといえば必要だと思う』が8割を超えています。

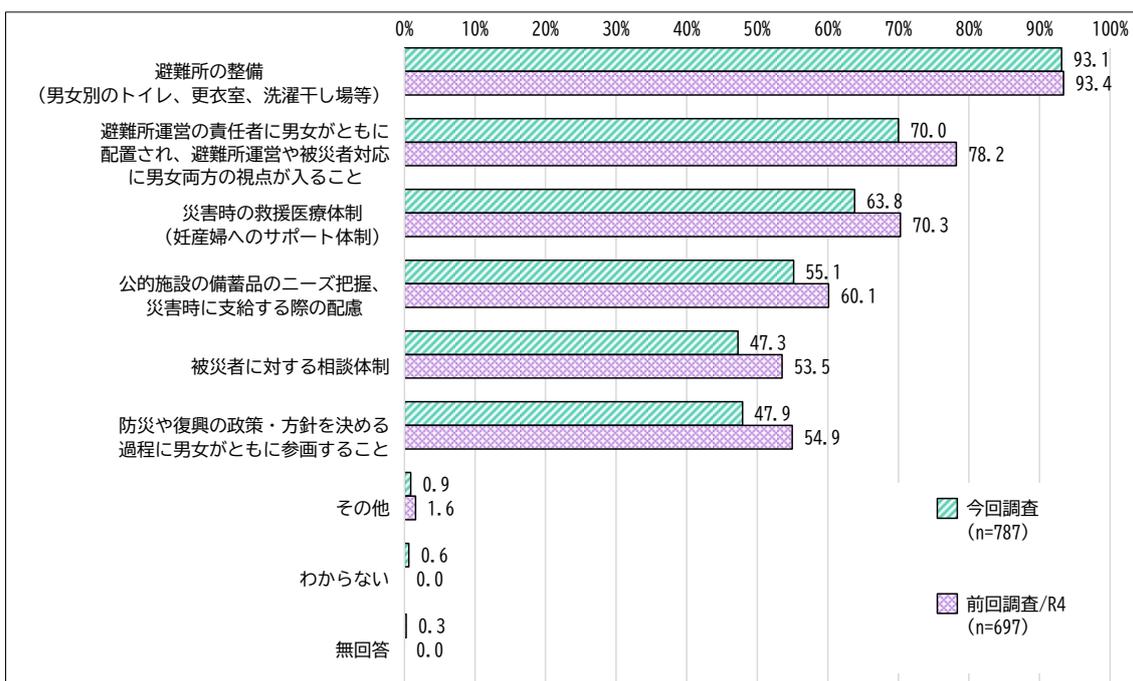


#### 【性・年代別】

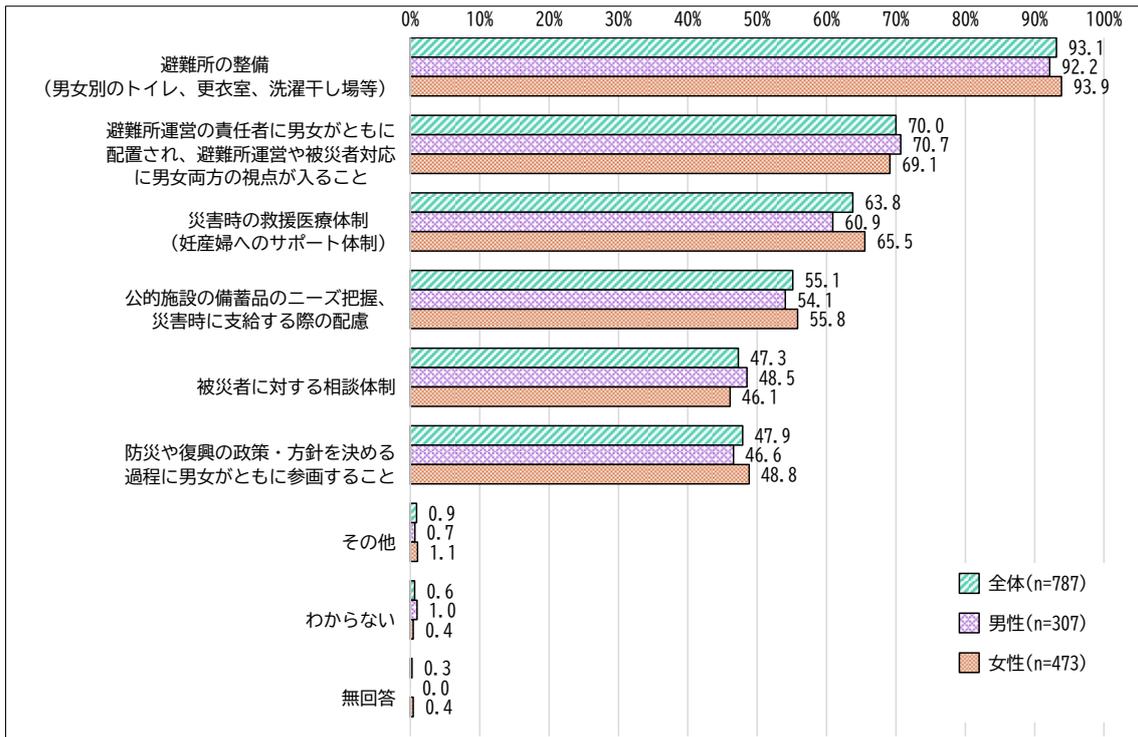


問25-1 性別に配慮した取り組みとして、どのようなことが必要だと思いますか。  
(複数回答)

- 性別に配慮した取り組みに必要なものについては、「避難所の整備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場等）」が93.1%と最も高く、次いで「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」70.0%、「災害時の救援医療体制（妊産婦へのサポート体制）」63.8%となっています。
- 前回調査との比較では「わからない」以外は全体的に低くなっています。
- 性別でも、男女ともに「避難所の整備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場等）」が最も高く、9割を超えています。



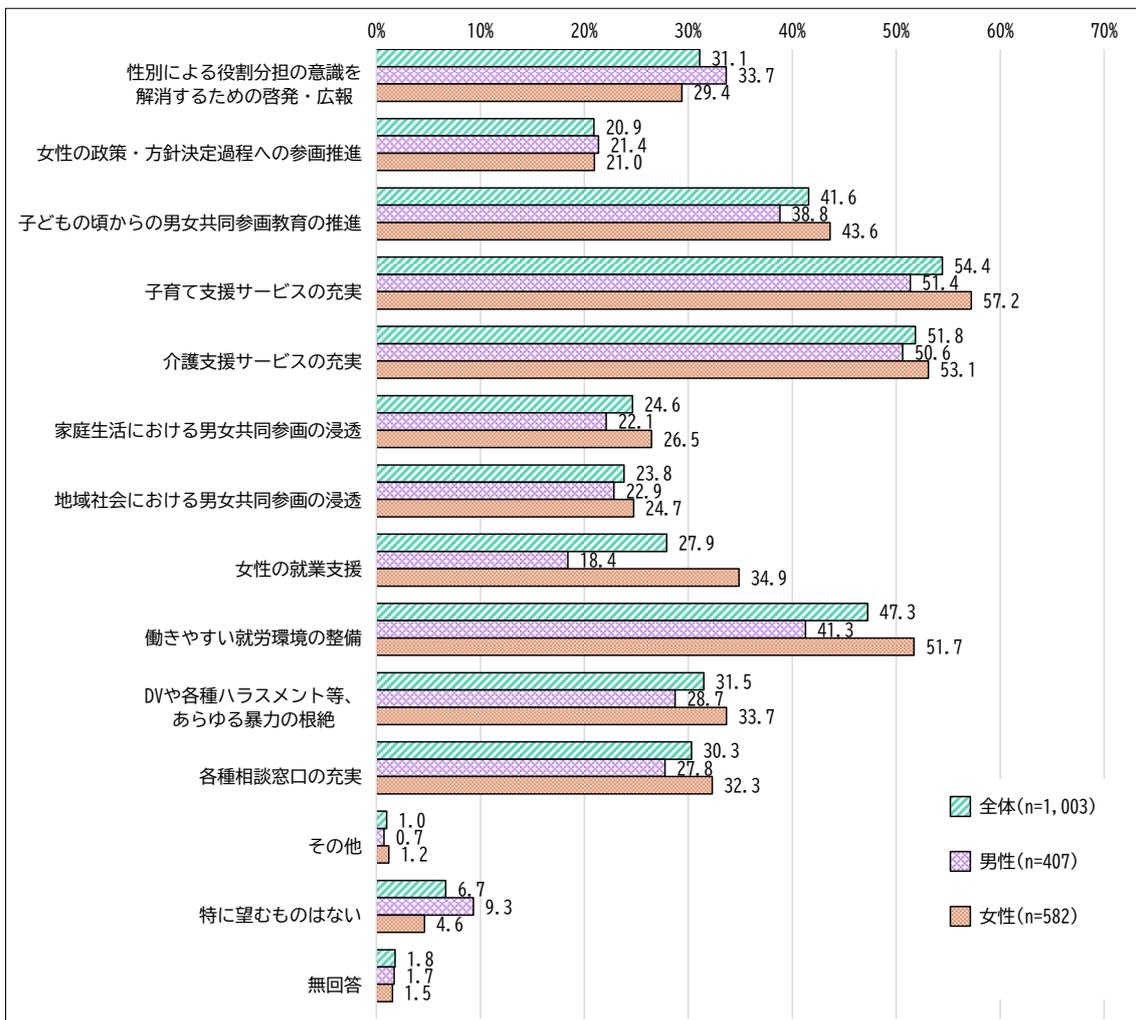
## 【性別】



## 8. 男女共同参画の推進について

### 問26 あなたは、「男女共同参画社会」を実現していくために、宇土市に対してどのような施策を望みますか。(複数回答)

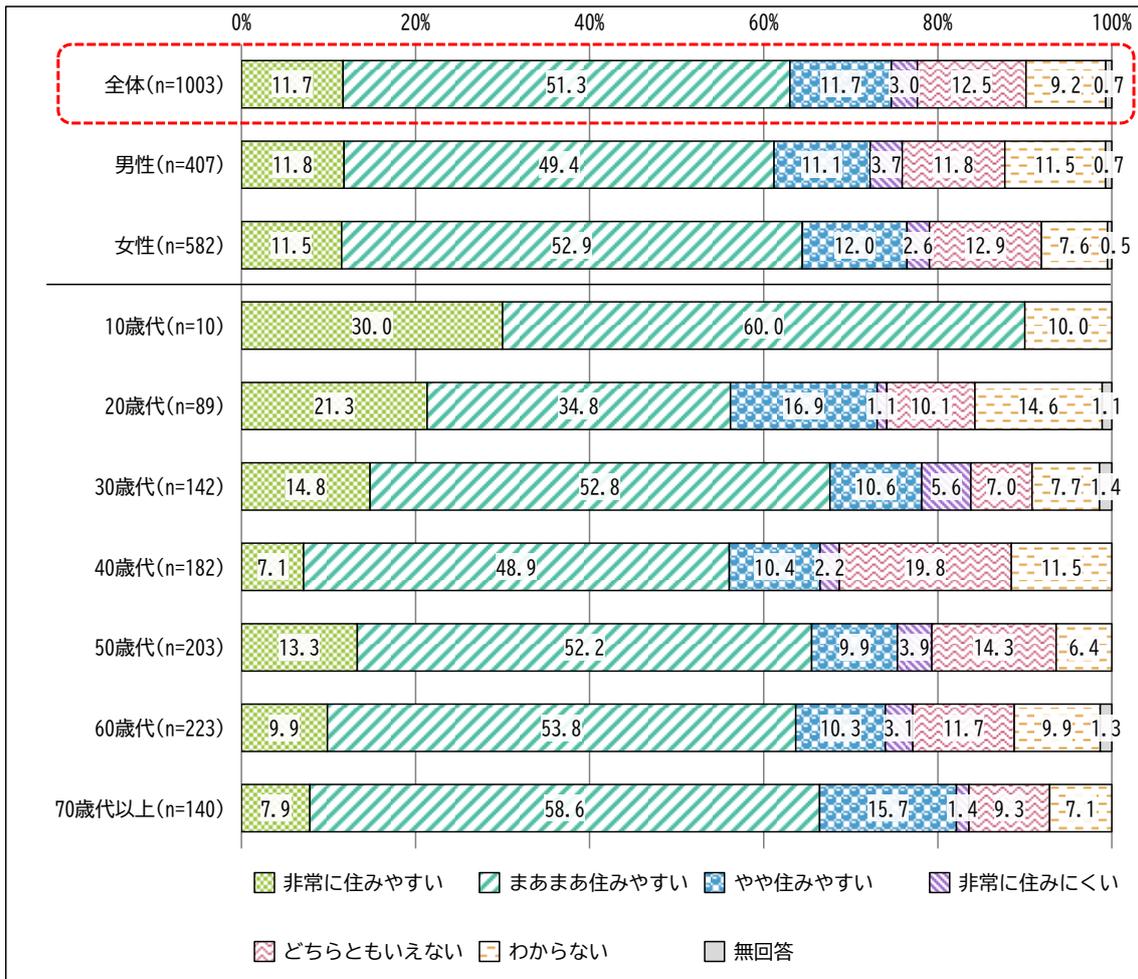
- 「男女共同参画社会」の実現のために宇土市に望む施策については、「子育て支援サービスの充実」が54.4%と最も高く、次いで「介護支援サービスの充実」51.8%、「働きやすい就労環境の整備」47.3%となっており、「子どもの頃からの男女共同参画教育の推進」も4割を超えています。
- 性別でも、男女ともに「子育て支援サービスの充実」「介護支援サービスの充実」「働きやすい就労環境の整備」が上位を占めています。また、女性は男性と比べて「女性の就業支援」「働きやすい就労環境の整備」が10ポイント以上高くなっています。



## 問27 あなたは、宇土市は男性にとっても女性にとっても住みやすいまちだと思いますか。(単数回答)

○宇土市は「性別に関わらず住みやすいまち」か尋ねたところ、「まあまあ住みやすい」が51.3%と最も高く、次いで「どちらともいえない」12.5%、「非常に住みやすい」「やや住みやすい」11.7%となっており、7割は『住みやすい：非常に住みやすい+まあまあ住みやすい+やや住みやすい』と回答しています。

○性別及び年代別でも、『住みやすい』が「非常に住みにくい」を大きく上回っており、特に10歳代及び70歳代以上では8割を超えています。



問28 男女共同参画についてのご意見、この調査に対するご感想等がありましたら、ご自由にご記入ください。(自由回答)

【男女共同参画社会について】

年齢	性別	男女共同参画社会に関する意識について
20歳代	男性	男女差別と区別は違うので、そもそもその考えが男女差別だと思う
		男女共同参画は「平等」より「公平」が大切だと思います。
		女性の社会進出のために能力のない(そこの役職や地位に適していない)女性を配置し、後押しするのは共同参画とは言わないと思う。能力がある女性の配置には大いに賛成。この点は男性にも言えますので、男女でフラットに見て配置するべきだと思う。※宇土市の現状を存じ上げないので、あくまでも日本全体の動きに対しての意見です。
	女性	自身の意識不足に気づきました。
		男女共同参画についてですが、今、日本は昔よりこちらについて改善しようという姿勢は見えます。ですが、見えるだけで変化がないのが事実です。政治の世界が1番分かりやすいと思います。やはりどうしても男性の割合が多いです。女性の方もいらっしゃいますが、その方の声はなかなか表立って聞こえてきません。私は、女性を男性より優遇してほしいわけではなく、"異性"だからこそのお互いの配慮と性別関係なく活躍できる"人"として見て評価してもらえ、そういった職場や家庭での平等を望みます。
		男女に関わらず、理想的には個人の能力や努力が評価されるべきであり、性別による差別や固定概念は排除されるべきである。政治や教育を通じて進展が見られるが、管理職の女性比率(2023年で約13%)や家事・育児の負担の偏りなど、まだ課題は多い。
30歳代	男性	宇土市が男女共同参画について何を取り組んでいるのか、全然わかりません。
		元来、女性の社会参画に主眼を置いた制度だと考えられるが、現在の「男女共同参画」は誰のためにあるのか疑問を感じる。性別によらず、雇用機会や人権は最大限尊重されるべきであるが、行き過ぎた共同参画や平等思想は、逆に差別を生むことにつながるのではないかと。例えば、管理職や採用に「女性枠」を設けたり、あえて割合を公表することが最たるもので、本来性別に関係無く、能力で評価されるべきものを「枠」を設け、特別扱いすることで逆に平等を歪めてしまっている。これは、女性の立場を下げるだけで無く、男性差別でもあると言える。もちろん、制度の構築自体を否定するものではないが、民主主義においては、ノイジーマイノリティの意見ばかりが尊重される社会は健全ではないと考える。女性全てが共同参画を望んでいるわけではないことも考慮する必要があるのではないかと。

年齢	性別	男女共同参画社会に関する意識について
30 歳代	女性	<p>今は一昔前に比べたら男女平等になっていると思う。とくに比較的若い人は柔軟だけど、年配になるにつれてまだ意識が変わってない人が多いように感じる。年配の方はずっと何十年も植え付けられた意識をすぐに変えるのは難しいので、仕方がないのかなとは思っている。自分の中にもまだ意識が変わってない部分も実際あると思う。</p> <p>子ども達が大人になるときには今よりもっと男性も女性も子育てや介護にも悩まず、生きやすい日本になってほしい。そのために自分ができることはしていきたい。</p>
		<p>高齢者が多い宇土市にとっては男女共同参画について現段階から取り組みを行うのはかなり遅れているし、難しい状況にあると思う。広報誌や市議会でも話題に上がっている事は少なく、子ども達や若い世代でこれからの社会課題について考えるきっかけも薄い。本当に問題視しているなら教育の場・活動をもっと多岐にわたって行わなければ、改善の余地はないように感じる。</p>
		<p>子育て・介護支援サービスを充実し、女性が差別されることのない社会。私は職場で「家族より仕事優先」と言われ、パワハラを受けて辞めました。なので、家庭環境理解のある職場になってほしい。子育てへの支援もしてほしいです。男女差別のない社会と男性にも育児をしてほしい。</p>
		<p>あらゆる政策や方針を決める際に、年齢の高い男性ばかりで決めるのではなく、さまざまな年代の男性女性を入れるべきだと思います。性犯罪やセクハラにしても軽視しては絶対にいけないと思います。</p>
40 歳代	男性	<p>今の社会、なにかと女性が優遇されていて男性が生きづらい</p>
		<p>一言で言えば、自治体や企業がもっと努力すべき。</p>
		<p>男女共同参画についての取り組み、周知等、10年、20年のスパンで続けていくことが重要だと思う。</p>
		<p>日本は世界でもトップクラスで男女平等です。それを知らない人は勉強不足です。男女平等、男女同権であるのは重要ですし、そうなっていますが、男性と女性は同じではありません。能力も違います。能力を無視して、男性と女性が同じことをした方が良いという考え方は愚かな考えです。私達は高い税金を取られているのに、その税金がこんなものに使われていると思うとがっかりします。男女共同参画に関わっている人達は、もっと自分たちが世の中の役に立つ仕事をしたいと思わないのでしょうか？私はあなたたちを、楽しんで金を儲けたい人たちの集まりだと思っています。</p>
		<p>これ以上、女性を優先してどうするのか。仕事の負担は男性が大きい（内容にもよる）</p>
40 歳代	女性	<p>男性も女性も活躍し、宇土市に住みたいと思えるような市になったらいいなと思います！</p>

年齢	性別	男女共同参画社会に関する意識について
40 歳代	女性	<p>男女平等、共同参画が少しずつでも浸透し、性別格差がなくなってほしい気持ちもありますが、職業によっては難しいと思います。差別は良くありませんが、画一化するのではなく、その職業や家庭に応じたサービスや法律を考えてほしいです。</p>
		<p>男女共同参画と言い出さなければならない日本の伝統から見ても、男性の理解と思いやりと女性の自立心の強化が必要なのでは？と感じます。</p>
		<p>私は子どもがいませんから、自分のことを少子化に拍車をかけている一人だと思っています。子どもは産まないけど、社会福祉の恩恵は受ける。フェアじゃないなと自負しています。税金をたくさん納めているわけでもないし、私が社会の役に立つにはどうしたら良いのか常々考えます。今やっていることは、職場の子育て世代の同僚たちのサポートを出来るだけするようにしていることです。子どもの急な病気や、その他の家族の用事でも可能な限り早く交代することです。ささいな事でもそういうのってとても嬉しいかなって思うからです。私一人がやってもあまり変わらないと思うけど、いろんな職場でそういうことができるようになればいいなと思います。制度で決めてしまうと交代したくない人まで強制させてしまって悪口が出てくるかもしれないし、逆に悪びれもなく何回も欠勤や早退されるとそれはそれで困ったり、難しいとは思いますが、欠勤や早退しても安心して任せられる、受け入れられる、そんな余裕のある社会になればいいなと思います。どこからどう手をつけたらいいのかわからないけど。仕事も子育ても頑張っている同僚たちは本当にすごいなと感心しかありません。少しでもみんなが心地よく暮らしていく為に協力したいなと思っています。</p>
		<p>過度な女性優遇や配慮は、女性がいらぬ反感を買う原因になることもあると思う。男性、女性と括るのではなく、個人個人が活躍したいと思える環境で、正当な評価のもと活躍できるような社会になればと思います。</p>
		<p>何でもすべてのことに男女平等を求めること、例えば組織の中に男女比を平等にすることは重要ではないと思います。性別関係なくフラットな審査で、優秀な人が選ばれることが大切だと思います。その結果、男女比が偏ってしまうのは致し方ないと思います。身体的特徴を踏まえ、女性・男性が適任だという場合は、必要に応じてその性別の人材が適用されることも大事だと思います。</p>
<p>市民のために様々な取り組みを行っていただき、本当にありがとうございます。宇土市がより住み良い街になっていけばいいなと思っています。様々な事情を抱えた人同士が暮らしているので、他者への配慮を念頭において子育てをしていきたいと思っています。</p>		

年齢	性別	男女共同参画社会に関する意識について
40 歳代	女性	男女均等法と言う法律もあるが、まだ平等にはならない。世界を参考に、国全体で考え直す必要があると思う。
		無理に参画する必要もないと思う。したい人、できる人、理解できる人でしかやれないと思う。
50 歳代	男性	男女共同参画の名の基に無能を登用することない未来を望みます。
		某高齢元政治家の女性蔑視をはじめ、高齢男性の女性への軽視が目につきます。若い男性はあまり聞きません。あと 20 年もしたら自然になくなる気がします。
		私自身の職場では女性を優遇しすぎた為、男性の退職が一時期多かった。女性に下駄をはかせる時代はもう終わり、次のステージに来ていると思う。本当に男女同じスタートラインからの社会へのシフトが必要なのでは？
		これが正解といったものはないと思います。多様な意見を集約して今よりもっと住みよい宇土市にしてもらいたいと思います。
	女性	女性にあまり配慮しすぎると男性差別になる。仕事においては、女性の能力を底上げする必要がある。実力でやっていける社会が良い。家庭においては、おたがい話し合いで役割を決めたら良い。
		宇土市は男女共同参画社会に、まだ近付いてもないと思う。
		市議に女性が一人しかいないのは、男女共同参画社会とは言えないと思う。もっと市政に女性が関わるべきだと思う。
		行政、市役所職員の 40～50 代の意識を変えること
		男女共同参画の予算 3,000 億円は高額すぎるので、減額して欲しいと思います。減額した分を消費税減税に充ててもらいたいです。
		女性が社会生活を支障なく活動できるため、保育時間や介護援助など大変に力を入れてほしい。
		男女共同参画について宇土市がどのようなことを行っているのかなど、一般市民に分かりやすく情報提供されるようにして欲しい。
		ジェンダーばかりがクローズアップされ、男性らしさ・女性らしさを無くす方向に向かっている。性別は確かにあるものと認識したうえで、環境を整え、男女の格差をなくすために社会全体で考えるような市政を望みます。関係ありませんが、今の市役所は以前と比べると職員の方がとても親切で、笑顔で対応してくれます。こちらも自然に笑顔になれます。
60 歳代	男性	男性・女性を意識して物事を判断するのをやめ、その人の「人物・人格・能力」等を全面に出して人物本位で決めてもらいたいです。感情的、エゴにならない様、女性も社会共同参画してください。
	女性	根強い意識を変えるのは法制度から、しかし、数値目標だけが先行すると、実態が伴わず、形式的な取り組みで終わることが無いようにすることも大切。さらに場合によっては、男女の逆差別ということもあり得る。

年齢	性別	男女共同参画社会に関する意識について
60 歳代	女性	<p>近頃の若いお父さん方は、昔と違ってずいぶん子育てや家事に協力的だと思えますが、周りの中～高齢の人々（特に男性）の認識がまだまだ追いついていないと思います。また、介護においては、まだまだ女性の仕事とされているように思います。職場での理解やフレックスタイム、介護休暇の導入などが進んでいくよう願います。</p>
		<p>40 年以上専業主婦だけで、今の働く女性の事はよくわかりません。県外出身、首都圏に住んできましたが、やはり熊本（九州）は男の人（近所の 70 歳以上の男性）が威張っている感じがします。</p>
		<p>男女共同参画で働く女性が増えることは、喜ばしいことだとは思いますが。社会でも家庭の中でも、真の男女共同参画がなせれば、少子化対策にもつながってくるのではと思います。また、この実施されたアンケートが有効活用され、市政に繁栄できますようお願いします。</p>
		<p>固定観念を完全に無くしてほしい。</p>
		<p>子どもが小さいころ保育園で主人が作ってくれるホットケーキを子どもが好みました。しかし、保育園では参観日に子どもに「おやつで何が好き？」と先生がたずねられ、子どもが「おとうさんが作ってくれるホットケーキが一番好き」と答えると、先生が「えっ?! おかあさんでしょ?!」と何度も言われ、笑いものにされました。子どももそれ以来ホットケーキの事を言わなくなりました。母親がおやつ作るのは当たり前、そんな概念無くすべきです。</p> <p>また、職場も病気の子どもの為に休みが取れない。これも企業側が人員ギリギリにしている為、休むと同じスタッフに迷惑になり職場での人間関係の不満につながる。男性が休む時も同じ事があるからじゃないかと思います。</p>
		<p>男性・女性が平等であるという意識を持つ子どもが産まれるまでは今から啓発活動を続けたならば 200 年後になると（TV での記憶ですが…）。確かに、200 年前の人々はまさかこの状況を想像していなかったでしょう。今後は AI が頼りになるとすれば、人口はますます減り、どんな世の中になって行くのでしょうか。</p>
		<p>宇土市民は人柄が優しく親切だと思う。田舎なので悪い事をしたらすぐに皆に知れ渡るといふのもあるかもしれない。なので、各自でハラスメントも意識しているのではないかと思う。男女共に働きやすいと思うが、職場が少ないのではないか。又、サービス残業がなく、子どもを安心して預け、介護の負担も少なくが理想だが、実現には難しそうだ。</p>
		<p>まだまだ個人の意識が男女共同ということに対して薄いように思います。家庭の中では特に、家事は女性の仕事という認識は変わらないと思います。</p>

年齢	性別	男女共同参画社会に関する意識について
60 歳代	女性	防災→男女共同参画は、女性・男性共に助け合うのが当たり前であるが、熊本地震の時はそれが活かされていなかった。
		男女、個人の特性を考えながら、差別意識を無くし、生きやすい社会に変わっていく事を望みます。
		ネットを見てない年代に、もっと浸透される様な広報活動を頻繁にされた方がいいと思います。わかりやすい解説つけてからがいいと思います。
70 歳代以上	女性	若い世代ほど男女共同の意識は高く羨ましい事（場面）だらけです。男女が公平、平等な関係で助け合っている社会がますます充実する様願います。
		今は、男性・女性とか言っても一人一人ずつ、それをどうにかして共同にと言うのが大変。でも出来ることから一歩一歩としないと、自分はしなくて人任せにしまいそう。それでは何の解決にもならない。自分は自分として生きていく、人に手伝ってもらったら自分も手伝うことを考えて、生きていけたらと思う。親も子も孫も今いるときだけ、だれか先に死んでいくのかもわからず、人に頼らないと言う人ほど人に頼って生きる。大切なのは自分です。

【地域】

年齢	性別	地域
40 歳代	女性	地域にある「婦人会」、学校 PTA の「女性部」など、まだそんなものがあるのかとびっくりしました。地域の制度やしきたりが男性優位であたりまえの運営がされており、旧体依然としているのはとても残念だし、学校教育を終えた子どもたちはその中に入っていかなるを得ないので、それを嫌だと思い、この土地を出ていくのも仕方がないように思います。人口流出を止めるためにも、女性も仕事や生活がしやすく負担が偏らないよう、地域社会の高齢者等への啓発や指導をしていくことが必要だと感じています。
60 歳代	女性	公的に男女共同参画社会づくりは進められているが、一般的な生活へはなかなか普及していかない現実を目の当たりにする。地域での役割は昔からの男性中心で配置され、女性の意見は通っていかない。地区の区長はほとんど男性。
70 歳代以上	男性	各地域（花園・宇土・轟・走瀧・網津・網田）は団結・結びつきが強すぎて、なかなか新参加者は参加しにくい。20 軒位立つ団地が羨ましいです。これは老人の独り言です。こう言うボヤキやうさを晴らす場がもう少しあったらいいと思います
		現状：高齢化・人口減少は地域、家庭、職場での支え合いの基盤が弱まっている。地域社会・社会経済の担い手不足は、耕作放棄地、家の空き家、商店街空き家など。そこに地域社会への存続の危機感がある。また、地域社会全体で支えるさまざまな分野の課題の絡み合いがある。 人口減少の対策：自治体行政機能の維持ができなくなる。経済、社会活動の低下の可能性のため、今以上の手立て効率化、雇用の創出にある。また、サービスの低下は今のうちに改めることである。
		現在、住む所が市役所から約 10km 離れている地域です。集落の世帯数が 50 年前より約 30%減っています。増える可能性はゼロと思われれます。各家庭が高齢者夫婦及び高齢者単身世帯ばかりになりつつあります。小・中学生の数は 60 年前の 10 分の 1 になっているのが現状です。数人で顔を合わせての近頃の話は、10～15 年後は限界集落となり、ちょっとしたイベントも出来なくなり、コミュニケーションさえ取れなくなるだろうと。男女差別や共同企画・参画を推進しようにも、今よりもますます実行、推進など役所の建前通りにはならないと考えます。本気、実行力のある行政を望みます。
-	-	隣人との付き合いが難しい。

## 【相談支援体制の充実】

年齢	性別	相談支援体制の充実
40 歳代	女性	市としては色々と取り組みをされていると思います。自身は経営者側（役員）で仕事をしているので、雇用の方とは違い、仕事を頑張っても評価は無く、“休んでも休まなくても給与（報酬）は変わらないからいいね”で、休みにくい（体調不良や子どもが体調を崩しても欠勤は辛い）現状ではあります。義父、主人から“手伝え”と事務をさせられていて、辞めたくても辞められない、そういった面でものすごくストレスが溜まり、会社の経営がマイナスなのに上2人は平然としていて、私1人色んな物事と向き合い、対応させられ苦痛なのですが、相談するにしてもどこに話して良いかわからず、精神的に減った時期、医療の方へ相談することにしましたが、軽くなることはなく。私みたいな人間はどこに頼ったら良いかわかりません。そういうのも教えてほしいです。好きで経営側にいるわけでもない、同じ人間なのに何でこんなに気を遣うんだらうと思います。疲れた。
		相談したい事があった時の場所が分からないから、情報が欲しいです。
		どんな事に対しても相談窓口があると知っているだけで安心感があると思います。相談窓口を充実させてそれを浸透させると良いかなと思います。
70 歳代以上	男性	市役所内に女性が生活しやすく、いきいきと働けるような相談窓口を作り、気楽に相談できるように。実際に学童等の送迎は母親が多く見られます。また、学童の職員も女性が多く、社会はまだ子どもは女性が世話をするという意識が高いと思います。
	女性	男女関係なく、不安な事がある場合に気軽に相談できる窓口が必要だと思います。一人暮らしの方が多くなっているこの時代です、不安に思っている時にここに相談したら問題解決、気持ちが落ち着いたと思えるシステムを作って頂けたらと願います。宜しくお願い致します。

## 【就労支援】

年齢	性別	就労支援
20 歳代	女性	若い子育て世代は経済的に苦しい生活をしています。共働きで頑張っていますが、子どもの体調不良での休み等は取りにくい雰囲気。だからといって、頼れる人は近くにいません。住みやすい地域になってくれる事を願います。
30 歳代	女性	宇土・宇城地区だけでなく、熊本県全域でも教員不足が深刻なので難しいのかもしれませんが、育児短時間勤務や部分休業を12才まで使えるようにして下さい。仕事は好きなので続けたいのですが、夫婦ともに両親が遠方に住んでおり頼れないし、ファミリーサポートは急な利用は断られます。今、小学生の息子は発達障がい傾向があり、放課後は療育や習い事などに通って、不得意なものに少しずつ慣れていく必要があります。今は育児短時間勤務を使っているので助かっていますが、下の子が6才になるまでしか使えないので、その後息子の療育などとフルタイム勤務の折り合いがつかうのか心配しています。どうかよろしく願いいたします。
		宇土の職場もフルリモート、フレックスなど充実させてほしい（子ども関連で早退は申し訳ないので）
40 歳代	女性	私は保育士をしています。子育てを支えるために保護者が休みの時もお子さんをお預かりします。ですが、現場は我が子が熱を出しても人手不足で休めない。帰りたくても帰れないと心理的にもイライラします。保育士にもっと目を向け、監査を厳しくして、労働環境改善に強く指導してほしいです。古い就業規則も今の時代に合わせて変更していくよう、第三者から助言してほしいです。
70 歳代以上	男性	親の介護のために女性が仕事を辞めることが多い。辞めずに仕事が続けられるように、介護サービスの利用の周知やサービス利用への助成を充実して欲しい。
		仕事の面について同じ事をしていてもまだ賃金の格差があり、就労におけるバランスがとれてなくて、企業側も考慮をもらえる社会になってもらえたら、もっと働きやすい環境になるのではと思います。妻からの感想です。

【教育について】

年齢	性別	教育について
40 歳代	女性	ジェンダーレスが進んでいる現代において、子どもだけでなく、大人にも同じように教育する場が必要だと思う。職場でも、ジェンダーレスについて話すとき、若い子たちの方が受け入れがスムーズな様な気がする。実際、とまどいはあるが、性同一性障害の人とふれあうと、同じ人間だし、人だと思うので。
50 歳代	女性	単に女性が働きやすい社会をつくることを考えるよりも、子どもたちの心が親の愛情で満たされる、子ども時代を過ごせるような社会になってほしい。そのように育った人間は、ハラスメントを行うことはないと思うからだ。 小中学校の教育現場に、より柔軟な考え方をもっている民間企業勤務経験のある人材や経験の豊富な退職者を増やしてほしい。教育者による不祥事が多く、信用できないからだ。教師は目下子どもたちに対しては独裁者になりうるため、多方面から物事を見つめられる人間が必要だと思う。生徒に対するいじりやいじめ、教職員へのハラスメントを抑制するために有効だと思う。教育現場を開かれた子どもたちの居場所にしてほしい。
60 歳代	女性	昭和前半生まれの方々は、男女共同参画社会には興味がないと思います。現に男女で収入も違います。パワーバランスが男性優位と思います。男女の収入の格差は大きく左右すると思います。私は8時間労働ではなく、個人事業とされてきました。子育て、親の世話、パートの仕事で、女性が子どもを産んで育てる厳しさを30~40年前から味わってきました。しかし、今は子どもがいて、孫がいて幸せです。つまり男も女も社会の中で自分の力を出せるようにしていただきたいと思います。最初は学校教育、次は相談できる場、未来に希望が持てる事が生きるために大切だと感じます。男女共同参画社会は、昭和後期から聞いていました。このようなアンケートは年齢のいった特に男性には、意味不明と言われるかもしれません。若い子ども達に力を入れた方がいいのではないのでしょうか？ 高齢男性の女性への偏見が強い様です。小さい時からの教育が大切だと思います。 年齢的には子どもの頃から女の人と男の人はこうすべきと教えられて育ったので、小さい子どもの頃から男女の差をなくした教育が必要だと思います！

## 【アンケートについて】

年齢	性別	アンケートについて
30 歳代	男性	知的障害があり説明してもよくわからない為すべてわからないと回答しました。お役に立てずすみません。もう少しわかるような書面が必要ではないでしょうか。回答の仕方もわからないとのことでした。
		内容的によくわからない為、何と回答していいのかわかりませんでした。障害（知的）のある者ですのもう少し内容がわかるような記載があればよかったです。難しかったです。ほとんど親に説明してもらった。でも、わからなかった。
	女性	まず、質問の内容が差別的だと感じました。平等、ジェンダー、差別の認識が甘いと思います。生物学的な切り離せないものと心理的なものは質問を分けた方がいいと思います。生物として男女は変えられません。2つだけです。心と体が一致していないジェンダーと男女平等は問題を完全に分けた方が良くと思います。男女平等は性別をなくして同じように扱うのではなく、お互いのできること・できないことをそれぞれの家庭で補えるようにすることが平等だと思います。宇土市に必要なのは、男性には男性の多い悩みを、女性には女性の多い悩みを解決に向けることが平等だと考えます。
		とても良い機会だと思います。ただこういうアンケートも女がしています。ゴミの分別、地域の行事、学校行事、家のこと、子どものことなども全て私です。もっと離婚しやすく、シングルマザーにも手当や特典があればいいと思います。各家庭の状況もありますが。
40 歳代	男性	このアンケート回答結果・分析の公表と有識者による感想等の公表
	女性	このアンケートは女性だけの為の物ですか？女性の思い、男性の思いがお互いあるので、何か偏っている様な気もしました。同じ人間と思える様な考え方は、それでいて今の社会は何か言えば何か言う人がいる。あきらめてしまう人は多いと思います。
50 歳代	女性	そもそもこのようなアンケートを行っている時点で男女差別はまだまだ大きな課題なんだろうと残念に思いますが、これから少しでも良くなるためには必要不可欠なことだと思うので、もっとこういうアンケートを行い、結果はもちろん今後に役立ててほしいですし、回答者もアンケートに答えることで、意識改善の機会に繋がればいいなとも思います。
		質問等がとても分かりやすかったです。

年齢	性別	アンケートについて
50 歳代	女性	このアンケート結果をきちんと見せてほしい。そして、必ず、何かの役に立ててほしい。アンケートを取る、意見を聞くだけの形だけは絶対にやめてほしい。何かに必ずつなげてもらいたい。その為にアンケートにはお答えしました。
		問 13 でも書きましたが、女性は子どもをつくれる（生む）身体が必ずあるという考え（思い）も少し考慮した方が良いのではないのでしょうか？それが出来ない人は女性では無いのでしょうか？
60 歳代	男性	問 9 は「べきだ」の表現が何度もありました。とても強い表現をあえて使われたのですが、気になりました。
60 歳代	男性	この調査により、さらに異性を大事にしなければならないと思いました。
	女性	全体的に同じ様な質問が多すぎる、途中でやめようかと思いました（長すぎて）。
		この調査もとても大切な事だと思います。ただ、今、社会で仕事に従事している人たちの現場の声、「なぜそれが出来ないのか？」「なぜそうしないのか」などもっと声を拾ってほしい。当事者の声ももっと大事だと思います。
		みなさんが平等であるべきだと思いますので、今後も不定期でも構いませんので、このようなアンケートをお願いします。
70 歳代以上	男性	この調査は質問数がやや多い感じがしました。内容を精選して、類似の質問を少なくして、解答を簡素化していただいたらありがたいと思います。
	女性	この調査大賛成です。普通に生活している方達が想像出来ない事が実際に有っているという事です。それを誰にも相談が出来ない人もおられるという事です。抜き打ちみたいだと思うのですが、頻繁に出来るだけ数多くの人達にこの調査が行き渡る様にされると、今実際セクハラ等されている方も反省され、一人一人の個人を尊重されて行くのではないのでしょうか。
		今回の調査が宇土市民の皆様の良い結果につながりますように、お願いします。
		人生も後何年あるかと思う私に、なぜアンケートを送るのかわからない。以前も若い人に聞くべきだと書きましたが、届いてないのでしょうか？
-	-	税金のムダづかい！